

## 「翻訳機を使った翻訳についての調査報告」

吉見さえ

### 1. はじめに

近年 Google 翻訳や翻訳機などの機械翻訳はますます精度を高めている。近い将来に機械翻訳が実用的なレベルまで開発が進めば、人間が翻訳する必要がなくなるのではないとも言われている。一方で、自然言語処理の研究者たちは、依然として機械翻訳には人間の翻訳に匹敵するだけの高度な翻訳を行うに至らない重大な課題があると指摘している。伊藤科研では様々な言語の平安文学の翻訳本を扱っている。その内容の理解にこれらの翻訳機を用いることができるかどうかと考えたのが、今回の調査の始まりである。現在、日本の古典文学作品は世界中多くの言語で翻訳されている。しかし、それらがどのように海外で理解、そして翻訳され、受容されているのかという研究は日本ではまだあまりなされていない。こうした翻訳機の精度が高まっていけば、海外における日本古典文学の受容に関する研究はますます活発になるのではないだろうか。今回は以上の状況を踏まえて、「翻訳機は海外の翻訳文学研究においてどの程度使えるのか」という問いを検討することとした。

### 2. 調査方法

今回は KAZUNA E Talk5、POCKETALK(ポケトーク)、Arrows hello の3つの翻訳機を用いて、『源氏物語』『須磨』巻ロシア語訳の日本語への訳し戻しを行う。それらの結果をふまえて、それぞれの翻訳機の特徴を比較する。長文の音声を読み取れないものもあるため、今回の調査では音声翻訳ではなく、画像翻訳を用いている。

### 3. 各翻訳機の機能

#### KAZUNA E Talk5

- ・音声翻訳最大112言語、画像翻訳最大55言語に対応。(有償アップデートあり)
- ・QR 決済法人レジ
- ・チャット翻訳
- ・確認翻訳

### POCKETALK(ポケトーク)

- ・55言語で音声とテキストに、20言語でテキストにのみ対応。
- ・カメラ翻訳55言語対応。
- ・ニュース原稿のような長文も訳せる。
- ・AIによる会話レッスン機能

### Arrows hello

- ・対応言語 オンライン28言語、オフライン3言語
- ・カメラ翻訳 オンライン21言語、オフライン3言語



## 4. 基本的な機械翻訳の仕組み

機械翻訳に使用される、あるいは使用されてきた主な技術は「ルールベース翻訳」、「統計翻訳」、「ニューラル翻訳」の3つである。

### ●ルールベース型

文法を機械的に解釈して単語を切り分け、辞書から訳語を引き出し、訳語を文法に沿って並べている。言語の専門家が自ら作成した辞書やルールに基づいて機械翻訳を行う。

### ●統計ベース（機械学習）型

大量の対訳データを、統計的な手法で解析し、統計的に最も確率の高い訳文を出力する技術。

### ●ニューラル型

ニューラルネットワークというコンピュータに観測データに基づいて学習する能力を与える技術と、それに付随する深層学習技術を応用して訳文を生成する技術。従来の手法と比べて、人間による翻訳の品質にかなり近づいているといわれる。

## 5. 各翻訳機の特徴

### KAZUNA E Talk 5

- ・固有名詞の訳に一定性がなく、読み取りミスがしばしば見られる。
- ・語順は原文のままで翻訳されることが多く、日本語としては不自然な文章になる場合が多い。
- ・和歌の部分は、原文の語順そのままに翻訳されるために、形式が守られている。

#### POCKETALK(ポケットーク)

- ・翻訳のスピードが比較的早い。
- ・固有名詞はある程度一定性を持って翻訳される。
- ・語順はある程度日本語の語順に即して翻訳されている。
- ・和歌の部分に関しては、切れ目を考慮せず、前後がつながった文章の形で翻訳される。

#### Arrows hello

- ・語彙のデータベースの問題もしくは読み取りの問題などにより、ロシア語の単語がそのままアルファベットに変換され、出てくるケースが多い。
- ・日本語の文法的にも誤った文章が多くみられる。

#### ●和歌の部分の翻訳結果

源氏 鳥辺山燃えし煙もまがふやとあまの塩焼くうらみにぞゆく

Путь мой лежит (私の道がある)

К заливу, где соль добывают (塩を採取している湾への)

Может быть там (もしかしたらそこで)

Увижу тот дым, что когда-то (あの煙が見えるだろう、いつの日か)

Над горой Торибэ поднялся (鳥辺山に立ちのぼった)

E Talk 5	ポケットーク	Arrows Hello
私の道はあります 潮が採掘される湾へ。 たぶんそこに 一度はその煙が見えます。 山越えー鳥部ーバラ	私の道は塩が採掘される湾 にあります。多分そこに鳥 部山に一度上昇した煙が表 示されます。	私の方法は K サーンビー、ラエ： coAb AobbBayut たぶん、それはそこにあり ます。 かつて鳥里べ山の上に立ち 上った煙が見えます。

## 6. 翻訳機の課題

### ・創造翻訳

言葉遊びや文学言語は”美的言語”と呼ばれるが、これを翻訳するにあたっては概念では区別されていないニュアンスをくみとって翻訳し、また形式にも気を配らなければならない。こうした美的テキストの翻訳は、あてはめ・翻案など訳者の自由裁量による部分が大きく、ほとんど創造に近い作業となる。

### ・厚い翻訳

起点テキストを目標テキストに翻訳するだけでなく、「他者を尊重しつつ、翻訳される語の文化的コンテキストを読者に理解させる手法として、注や解説を駆使する」こと。(佐藤、2011、200)単語を単語のまま訳すだけでなく、起点テキストにおける意味内容と目標テキストでの意味内容との違いも叙述する。言語外の知識が求められる。

## 7. 考察

近年、翻訳機が開発され、その可能性も高まっている。人間が翻訳することでいろいろな表現や文脈を理解して、コンテキストに合った言い回しを用いることができる一方で、こうした機械にはスピード、そして複数の翻訳を同時にこなせるという利点がある。今回の源氏物語ロシア語訳の翻訳に関して、代名詞の把握や、原文における価値観や文化など文脈に即した翻訳、文章の自然さという観点でいえばまだまだ課題が多いものの、その原文の意味を語義的に理解したければ、翻訳機は一定の役割を果たすといえるだろう。翻訳機の精度の向上とともに人間に求められる役割も変わってくるのではないだろうか。

## 8. 参考文献

- ・平子義雄、“翻訳の原理”、大修館書店、2008
- ・瀧田寧、西島佑、“機械翻訳と未来社会”、社会評論社、2019
- ・長尾真、“機械翻訳はどこまで可能か”、岩波書店、1986
- ・野村浩郷、“言語処理と機械翻訳”、講談社、1991
- ・天野真家、村木一至、“こうすれば使える機械翻訳”、1994
- ・今泉忠義、“源氏物語現代語訳三”、桜楓社
- ・“機械翻訳を用いた中古和文の現代語訳一分析と課題一”、2015年3月
- ・“対照コーパスを用いた古文の現代語機械翻訳”、2014

## 参考：3つの翻訳機の翻訳結果

E Talk 5 : p.5-26 ポケトーク : p.26-45 Arrows hello : p.45-70

### E talk5

須磨

大正 (源氏)、26-27 歳

西ウィング出身の愛人 (紫)、18-19 歳—源氏の妻

西洋の部屋の住人、庭の人、花が落ちるところ (ハナチルサト)—源氏の恋人 (「花が咲く庭」の章を参照)

道に乗り出した主権者 (藤坪)、31-32 歳—藤閣の姫、霧坪天皇の妻

左大臣の家の小さな紳士 (ゆぎり)、5-6 歳—源氏と葵の息子

左大臣、元大臣—源氏の義父

さんみの塔、最勝の塔 (とうじょう)—源氏の最初の妻の兄弟、葵

ツナゴン夫人—葵のメイド

女将サイソナース、シニアミスドレス、大宮夫人 (サードプリンセス)—左大臣の妻、葵の母親と遠野トウジョ

ソチ王子 (ホタル)—桐坪天皇の息子、源氏の弟

西の神 (おぼろづきよ)—右大臣の娘、朱雀天皇、秘密の愛の源氏

ニョゴレイカイダン—かつて桐坪天皇、妹はなちる里

右近の蔵—伊予の介の源氏

青梅は藤坪の元僕で、現在、彼女の息子のしもべ、未来帝国帝帝

春の王子殿下 (麗映天皇)—藤坪の息子

吉清—源氏を閉じる

セナゴン—ナース紫

僧侶の祖祖—紫おばあちゃんの弟

第六線の婦人 (六条の宮すどろ)、33-34 歳—元祖愛人である源氏の母、伊勢の母

ソプリン (朱雀天皇)—桐壺天皇と興天殿の息子

是光—クローズ源氏

つくしのごし—源氏の恋人、太宰の第二の娘は明らかに

明石から参入—ハリムの元支配者、明石夫人の父親 (「若い紫」の章を参照)

明石さん、17-18 歳—バスに乗り出した人の娘

それぞれの日、源氏の逆境は倍増し、それは困難になっています。彼はこの世界に住み始め、そして彼は考え始めました：彼を離れるかどうか首都？誰が知っている、おそらく最悪の事態はまだ来ていないので、滞在する価値はある。ここでは、何も起こらなかった振りをしていますか？

源氏は、須磨の海岸のことを聞いた。完全にふさわしい人々のために、「今ではそれは聴覚障害者であり、暗い。しかし、釣り小屋で生まれであった鈍い地形。だが騒がしい、混雑した場所に住む方がいいですか？一方、今のところ落ち着く、残りは私が首都にいるかもしれないことを切望。たまらない、..

痛みを伴う疑いは源氏の魂を苦しめ、彼は過去を思い出した。首、未来を考えて、胸はどうしようもなくだるい。憧れ。

この世界では多すぎるので、彼にとって異質な人が1エンジを落としました。彼との別れは簡単ではなかった。そして何よりも若い女性のためです。彼は。彼女は毎日悲しみになり、彼の心は引き裂かれた。同情から。今でも2-3日置いておいて彼らが間違いなく再び会うことを知っていて(104)、彼は思わず心配した、はい。そして彼女は彼なしでは一人で無力であると感じました。そして彼が去ったらあなたは何年離れて暮らす必要がありますか？彼はこれがどこにつながるか知りませんでした。方法とそれは彼の日付の制限になりますか？(105)世界はとても壊れやすく、簡単に「彼が最後に門を出たとき」であることがわかりました(106)。彼も私は思いませんでした。ゆっくり持っていかなければなりませんか？しかし、彼女のような運命。波と風以外に誰もいない海辺の優しい、喜びのない人生。彼らの孤独を共有します。「ああ、いや、それでも私には多くの理由があります。心配。」彼は考え、彼女は彼の考えを貫いて感じました。彼女は気分を害し、彼女は彼に同行する準備ができていたことをほのめかそうとしました。最も困難な道で。

減多に最初の終わりがなくても、花が咲く庭の人、ziは他に人生の支えがなく、専心して彼の心配事とともに生きました。そして今、彼女の悲しみはどれほど素晴らしかったかを言う必要がありますか？とてもたくさんひそかにねじれた。そして彼が時々訪れた人々、そして彼は一度だけ彼を垣間見ました。まだ彼女は温かい参加で私に答えました。

パスに乗り出した皇后は時々密かに源氏に手紙を書いたが、噂の非難をもたらすために。「いつ彼女は前にいただろう。過去を思い出してため息をつく源氏。日々。しかし、どうやら、これは私の予定です。TOMKY永遠に。」

第三月の20日の後、源氏は首都を去った。彼の出発日の誰かに通知し、彼は彼と一緒に最も近いkih、最も忠実な仲間であり、宣伝を避けるために限られたいくつかの密かに送られてきた別れの手紙で非常に感動的で、それらを読んだ人は思わず甘いこと夢中になった。フラッシュバック。私は動揺しすぎて、細かいところまでこだわることはできません。

2, 3日前、円治は夜に家を訪ねた。左大臣。彼は目立たない藤の馬車にナットを持って到着しました。女性が乗っているように服を着て、馬に乗って。本当に、これはすべてそうでした。夢のようでした。

亡くなった愛人の部屋で落胆した。到着の聞き取り 親愛なるゲスト、看護師、少年の召使、そして以前に仕えた人たち 彼女の死後も家に留まった女性たちが集まって 彼に叫んで、あまり特別ではなかった若いしもべ 微妙に、突然どのように世界を変えるかを実現し、涙は満たされた mi、それは彼らの目に暗くなっていた。いたずら好きな愛らしい少年が走り回った。

この間、彼は私を忘れていないことに感動しました 源氏は言った。息子をひぎに引き寄せ、涙を抑えきれませんでした。チャットをする 大臣自身が源氏と共に来ました。私はしばしば後退を壊したいという欲望を持っていました。過去の雑学についてチャットするために来て mi、しかし私が法廷を去りそして私の階級を放棄したので 深刻な病気の工事地の下で、ロディはきっと私の行動を解釈するでしょう。違う。「欲望があれば、腰を曲げてまっすぐになる」今は恐れることは何もないようですが、それでも 人々の永遠の準備 スランダーに私を怖がらせます。あなたの人生にどれだけの変化があったかは分かりませんが 私は自分の寿命について不平を言うのに飽きてきました。これはすべてを連想させる法の終わりの交換。世界がそうであることを想像できますか 変わってきている？むしろ、天の帝国は転覆すると信じています。ああ、どうですか 激しく！—大臣は言い、涙は彼の目に包まれています。いずれにせよ、私に起こることはすべて、過去の人生で何が起こったのか：言い換えれば、私以外に誰もいない 私不幸のせいになります。階級も階級も奪われない人なら 法廷の不承認を単に伴うことはこのようかなり生きて 彼が以前住んでいたように、これは必然的に全世界の目に彼の罪悪感を悪化させます。この意見は他の国でも共有されています。私は一流刑を宣告されるとうわさされています。つまり、彼らは私にある種の罪を課します 次に重罪。そして私が首都にとどまり、どんなに生きても 何が起こったのか、私の無実の意識、私だけによって支えられて 多くのトラブルを持っていたので、私は首都を離れることに決めました。源氏は説明します。

大臣は、目をそらさず、過去について回想します。君主よ、お別れの言葉について、そして 1 エンジも守れない 最悪のことが起こった 涙を刈る。一方、源氏の幼い息子は幼少期に無知だった。どちらか一方の注意を必要とし、落ち着いてみることができますか 彼に？

私たちは残したものを決して忘れません、私は今彼女のために悲しみます、それでも、彼女が今どのように悲しむかを想像して、思わず来た 彼女の人生の簡潔さは彼女にとってむしろ祝福だったという考えに、彼女は彼女を助きました。この恐ろしい夢を避けてください。考えてみると、腫れ。最も悲しいのは、この無実の子供が今や 高齢者の世話をすると、本当に、彼は長生きをする必要があります。父方の愛情を知ること。そう、昔は本当に深刻な犯罪のために 彼らはそれほど残酷に罰しませんでした。しかし、どうやら、これはあなたの予定です。似たようなことが外国で頻繁に起こったことは良く知られています。しかし、罰があっても常に声に出された 料金。あなたの場合、理由を推測することしかできません。三味の中城も源氏を見に行きました。彼らは自分自身を扱いましたが 真っ暗で、源氏は大

臣の家に一泊しました。呼び出すことにより 私は自分にあげます、彼は長い間彼らと話しました。マダムチュナゴンはもちろん、密かに、常に 残りの感情よりも柔らかく、今日はとても悲しかった 憧れ 「誰かに言いますか？」(107) -源氏が彼女の顔に映った 隠そうとしたのですが、思わず感動しました。みんなが眠りに落ちたとき、彼は特に彼女と話しました。誰が知っているのか 彼女は滞在しましたか？

しかし、その夜、夜が終わり、源氏は大臣の家をすぐに出ました。夜明け前の月だった。魅力的に美しい。さくらんぼはほぼ色あせた、ただいくつかの場所では、花は枝に残っていました、庭は地面から月光であふれていました 淡い霧が上り、その揺れるベールが輪郭をはっきりさせなかった アイテム。そのため、秋でもそんな美しい日の出は起こりません。手すりに寄りかかって、源氏はしばらく庭を賞賛しました。チュンナゴン夫人は彼を見送りたいと思ったに違いない、彼女は野外のそばに座った あのサイドドア、彼を見つめている。また会ったら想像もできませんが 源氏 彼が話します。運命が何を準備しているか知らずに、私はあなたに会うのを急いでいなかった、

何も干渉しなかったとき、そしてこれらすべての月が私たちがお互いから離れて過ごしました。しかし、女性はそれに答えて言葉を発することができず、泣くだけです。ここでは、主人公の西章夫人の看護師が大使から来ています。大宮夫人：「私はあなたと自分で話すつもりでしたが、光は私の目で薄れました、と混乱の感情、その間、私は心の臨場感を得ようとして、私はまだ夜明けではありませんでしたが、あなたは私たちの家を出る準備ができていると報告しました。ああ！それは昔起こったのですか？あなたはまで待つことさえしたくないです 甘い、かわいそうな子の夢」涙を流しながら、源氏は誰にも言えないようにやさしく話す 旋回：

私の道はあります

塩が採掘される湾へ (108)

たぶんそこに

私はその煙を一度見るでしょう

鳥部は山を越えた

それから彼は西翔さんに向けます。

夜明けの別れはいつもとても辛いですか？多分 この多くはこの感覚に精通しています。私はいつも「別れ」という言葉そのものが嫌いでした。さいしょ。しかし、私たちが今日心配しなければならないこと 責任がある 彼女は涙を抑えようと、鼻で少し話します。純正 悲しみは彼女の声にあります！「何度も何度も言いたい言葉を考えます あなたに、しかし悲しいことに 私がどれほど落ち込んでいるかを理解してほしい 死んでいる。本当に、無邪気に寝ている姿をもう一度見させて 子供、私はこの悲惨な世界を手放すのははるかに難しいでしょう。沿って私はあなたの家をすぐに離れることを好んだ」元祖を渡す夫人。カーテンの隙間にしがみついている女性は、彼が去るのを見る。囿 月明かりに照らされた源氏は、山の端の後ろに隠れようとしています。特に美しいと感じます。彼の顔に現

れる深い悲しみ 虎と狼に触れて涙を流すことができましたが、多くの女性は彼を知っています 彼らの悲しみがどれほど素晴らしいか想像するのは簡単です。乳児以来。はい、ここにもう一つあります。少し前に、老婦人の答えが返ってきました。

「あなたがどこに行こうとも、出発した後、あなたは遠くにだけ離れます あなたのやり方さえあれば 雲にうそをつかない その煙の流れは失われました。」

新しい悲しみは私に古いことを思い出させました、そして1 エンジが去ったとき、女性多くの人々が最も不安を抱くほど長い間泣きました。セカンドラインの家の住人たちは、どうやら眠れない夜、源氏が戻ったとき、女性たちはあちこちに座っていました グループで、泣いて、落ち込んで。オフィススペースはありませんでした。魂ではなく、彼にささげられたすべての僕たちは彼と一緒にいなければならないなかった。明らかに彼らの愛する人たちに別れを告げるために去った。その他、得ることを恐れて 恥をかき、自分の悩みを増加させることさえ、あえてしなかった。したがって、源氏と一緒に逃げるために、2行目の家で近づいてくる車両やライダーからの自由がないかどうかは、今日は無人で静かです。「世界はどれほど悲しい」食器用のテーブルは、埃で覆われ、マットは折りたたまれ、掃除されました。「すでにすべてがそのような荒廃にあります、次に何が起こりますか？」

源氏は西館に進軍した。マダムはどうやら、すべて座った ギャラリーの外で、バーを下げることなく、深い思考の夜。けちなメイド。源氏を見る 飛躍的に跳ね上がった。彼らが家の中を走り回るのを見て、とてもかわいい 源氏は夜にローブを着て、悲しそうに考えました。これらすべての月と年はどこかに行く可能性が高いです。だから、たくさんの彼がこれまでに注意を払ったことがないものの停止 源氏は思った。「ああ、やっ！」 彼らは飛び出しています。彼を見て。—そして、あなたはすでにいつものように、最も素晴らしいものを持っているに違いありません。私のアカウントについての疑い？」と彼は女性に尋ね、理由を説明しました それが私の意志なら、私は最後の最後にあなたと離れることはありません 寄り添った。

首都での日々が、去る前に、私は心配が多すぎて、私はしません いつも家にいる余裕があります。この世界にはあまりありません。Com は変更可能なので、誰かに憤慨を与える価値はありますか？しかし、彼女は答えますか：ああ！何が今起こっていることより信じられないことでしょうか？源氏からの分離は彼女にとって他の誰よりも困難でした、そしてこれは驚くべきことではありません：子供のころから彼女は彼の家で育ちました、そして彼は彼女は父親に非常に近く、さらに父親は最近、恥をかかそうとして、私は彼女への手紙を完全にやめました。源氏への同情。彼女は女性を恥じていた。これを見逃すことはできませんでした。「彼が今滞在した方がいい 無知で」夫人と思った。そして継母が死んだという噂が流れた。醸造：「彼女の昇格はどれほど予想外だったし、幸福はどれほど速く変化したか 彼女は二口。ほんと、これはダメなんです。運命はどうやら彼女に執着しているすべての人と別れる。」これを聞くのは非常に不愉快であり、彼女はまた書くことをやめました。お父さん。それで、彼女には源氏しか残っておらず、迅速な分離の彼女の考えを注ぐ？

月と年がたつが、それは決して容易ではない 間違いなくあなたを私の真ん中に連れていきます。私たちは解決しなければならないフクロウ（109）

しかし、今では誰にも見られません。それは承認の問題でしょう。裁判所の不名誉を被る者は見てはならない 月と太陽の澄んだ光でさえもその負担を負っています アウシュは、まるで何もないかのように楽しみに浸り続ける人です。それは起こった。私には欠点はありませんが、予定の必然性 自分を謙虚にします。もし私が本当に比類のないものを見せているなら 横柄、私を連れていきます。狂気に満ちた世界は私たちを倒します。新しい、よりひどいトラブル。太陽が地球の上に高く上るまで、彼は残りました。寝室で。ソティの王子とサミーノ・トゥジクスが訪ねてきた。元 それらを受け入れる意欲を示し、源氏は彼の鼻を被った 肩書のない男性にふさわしい溝です。「しかし、これは控えめな以上のものです ローブは彼の顔に以外であることがわかった。本当に、世界には人間はいませんでした。より美しく！源氏は鏡の前で髪を固定していると、危険な顔がいくつかの新しい洗練されたように見えました。簡単な なし 狭く なんと体重が減った！私は本当に好きですか 彼は言った。 この鏡の中？本当に、思わず自分の気の毒に感じ始める 自分自身に。彼は涙でいっぱい彼のをみつめる女性を見た。ザミと彼の心は痛みで沈んだ。自分でさせて 長年のさまよいを待って、あなたのそばに 鏡のままです そしてその中に私の反射 源氏は言い、彼女は答えます

ああ、確かに 私と一緒にいてよかった あなたの反射 私は鏡を見るでしょう 分離の時間に私は安らぎました。彼女はこれらの言葉を自分のようにとても静かに言い、後ろに隠れています。涙を隠そうとする柱。「私は多くの女性を知っていましたが、一人は知りませんでした 彼女と比較してください！」彼女から目を離さずに源氏を考えます。ソティ王子は源氏と長い間話し、全体像を感じ、暗くなった時に去った。憧れの手紙は花が落ちる庭から来たので、「一度も会わないと腹が立つ」と源氏 そしてこの夜を家の外で過ごします。しかし、彼が手放すのはとても大変でしたし、彼は非常に遅くに出発した。ニューゴウレイカイダンはとても幸せでした：—ああ、私たち、取るに足らない、そのような注意に値しない しかし、これについて彼女が言ったすべてを詳しく説明するために、疲れる。完全に無力で、女性はこれらすべての月と年だけを生きました。源氏の恵みによって。荒廃が支配するものを想像するのは簡単です すぐに彼らの家に行きました。鈍い月が空に浮上し、かなり大きな池を照らし、それを超えて 木々で暗く覆われた丘は暗くなり、源氏は鮮やかに想像した。それらの間で彼が避難を求めなければならなかったそれらの「崖」（109）

確かに、それは起こりません Zaの住民 牧草地。しかし今、月光が周囲に特別な魅力を与えるとき、特に柔らかくて優しい、比類のない甘さが彼女に来ました。香り、源氏は静かに部屋に入った。女性が近づいた 玄関先で、彼らは長い年月を賞賛し、それがどのようにして到来したのか会話に気づきませんでした 朝。現時点ではなんと短い夜なのでしょう。しかし、そうなるでしょうか またね？本当に、月と年が無計画に生きてきたのは残念です。私の運命は伝統に値する、決した心ではない ツェー鋳山は平和を知らなかった 思

い出に励まされて源氏は長い間彼女に過去について語ります。オンドリの叫び、そしてそうしないように。噂を呼び起こすため、源氏は立ち去るのを急いだ。思わず乞う。山の淵から月が消え、心はだるい。月光、確かに、そして月は「見える。過去のシーズ、しかしここ何回も何回も。興奮。暗いドレスで。涙を通して」(110) 狭すぎると知っている。私の袖は守られた。月の輝き。それでも夢を見るだけです。彼を長く保持する方法。

彼女が言います。彼女の悲しみはとても感動的で、感じざるを得ない。彼女の同情、そして、彼女を慰めたいと源氏は言う：あなたの道はトップです。月は私たちに戻り、輝きます。軽くて綺麗。空を見るまで。恐るべき雲に閉じ込められ。しかし、この世界で何かを希望することは可能ですか？唯一のこと。これらは、未知の未来(111)についての「苦い涙」です。立っている。それについて私の心は暗闇に沈みます。明け方、源氏は家を出た。彼は去る前にたくさんの心配をしました。に忠実な人々の。現在の政府の前で彼に住んでいてお辞儀をしなかったので、源氏は。ホームボード。高くも低くも。彼の不在の中で。アクションは家の中で注文の世話をしました。さらに、彼は誰に。彼の運命を共有する必要があります。彼は彼らに準備するように命じました。山間の住居ではなくてはならない控えめな道具を洗ってください。「中国の詩人とほかの作品を選んだ棺。ない。彼は彼を連れていきませんでした、すべてを決定しました。他の物。mi作曲、7弦琴。これだけ面取りされた道具、豊富な服装なし。貧しい山の住人のようになります。召使から始まり、すべてが牧師に渡されました。ウェストウィング夫人。源氏は証明書を彼女に手渡しました。彼に属する牧草地やその他の所有物。残りは。倉庫、金庫室、そしてシオナゴンに一定の代理権を持っている彼は、彼女の指揮下でいくつかの忠実な使用人と詳細。すぐに彼は女性がこのすべての経済を管理する方法を説明しました。個人的に彼に仕えた女性たち。絶望していた。源氏は特別な注意を払って彼らを敬ったことはありませんが、中司、トウジョウほか。これまでのところ、彼らは少なくとも彼に会う機会があった。ああ、これから彼らにはこの慰めはありません。生きていたらいつかまたここに戻ってくるイム源氏。離れ家。愛人の部屋を呼び出して、上位と下位の両方のすべての女性を着て、彼は服を着ましたそれぞれのタイトルと一致する、思い出に残る贈り物をそれらに注いだ。幼い息子の看護婦と花が咲く庭の源氏。壮大な贈り物に加えて、彼は最も多様な贈り物のかなりの量を送りました。日常生活ではなくてはならない比喩的なもの。しかもさらに、ナンシーの神に手紙を送ったがそれは無謀だった。「私はあなたの沈黙について不満を言う権利はありませんが、あなたがどれほど難しいかを知っているなら話した」待つ準備ができている人は、今のところ西側に行ってください。そして、身近な生活と苦しく分かれる方法。浅瀬会。先を見ないで絶望。涙の川に落ちた。流れが私を捕まえた。そしてさらに運び去ります。

思い出—私の唯一の慰め、そして私は理解していますが。彼らに身をゆだねることで私は魂に新たな負担をかけます。」天司は手紙が届くのではないかと恐れて簡単に書こうとした。間違った手に。ナンシーの神は悲しみを抱えて彼女のそばにいて、彼女がどのように留めていても、涙が目から抑えられずに転がり、袖には涙がはいっていませんでした。「涙川

に乗って 揺れる、完全に溶ける 軽い泡 沿って 流れまで待たない に 彼女は浅い会議で彼女を殴ります。」 彼女がこの手紙を書いた時に彼女が泣いたのは目立ったが、手書き 最大の感情的な興奮を与えて、源氏は意外にも外に見えた 箱型。「彼女に会わずに去ること」彼は嘆いたが一瞬で 彼女がそのようなものに属していることを念頭に置いて、日付を主張しませんでした 敵対的な家族は彼からの特別な注意を必要とします。源氏出発の前夜、亡くなった方のお墓にお辞儀をしたい 主権者、北部山脈に行きました。夜明け直前に月が空に現れた時だった したがって、ボリュームは、行く前に。バスに乗り出した人を訪問することにしました カーテンの前に立って、彼女自身はそれを受け入れました。会話は 春商工会議所の王子、そして皇后は彼女の不安を隠さなかった。彼らを結び付けた長年にわたる非常に深い感情は その夜、会話、そして感動的なことがたくさん言われました。海外では長年にわたって甘美な気質も美しさも失われていません 源氏は以前の不満を彼女に思い出させたかったが、悲しいかな 今それは 自分を裏切らなかつた。彼のほかに誘惑に屈して、彼のデンマークは十分な慎重さを示したため、以下に限定されました。一般的に言って：私は理由として役立つかもしれない罪の一つだけ知っています そのような不可解な迫害と説明できない恐怖のノアは私の心を所有しています。取るに足らないものである私が世界から消える 運命にありますように 王子の将来の繁栄を確信して 皇后は彼の考えを完全に理解しましたが、答えませんでした、彼の言葉は彼女の心に響くしかない。ダイスで私は飛びます 思い出かどうか、そして自分を拘束することができないかどうか、彼は叫んだ。想像しにくい 彼の涙の汚れた顔よりも魅力的なものを想像してみてください！私は今、主権者の墓に行きます。再しますか 源氏は尋ねるが、彼女は黙っています。与える？1つはなくなつた 不幸は別のものを脅かします。終わりの近く この世界。それは無駄ではありませんか 私は彼を断念しました、涙だけ 彼女はようやく彼女の興奮を管理して言います。彼らの感情はどのような混乱でしたか、まともなものを見つけるのはどれほど難しいですか！ 皇帝は去つた そしてそれは見えた この分離。しかし悲しいかな、もっと悲しみ 私たちが来るのを待っています トラブルが尽きる すぐに月が空に現れ、源氏は続いた。彼は ver に乗つた 家には、5人または6人のボディガード付き、最低でも そのうち最も献身的なものから選ばれました。もう一度話す必要はありません この旅行が古いように見えなかつた方法について！源氏の悲しい仲間の中には右近の蔵の黒人もいました。聖風呂の記念日に彼を導きました。彼にとつても彼の名前は法廷のリストから除外されていまして。称号と裁判所の支持を奪われ、源氏に仕える。「はい、ここにありました！」加茂下の聖域をちらりと降りて馬源氏を 右近のアゾの黒堂が突然思い出され、リードするため。その日を思い出して アオイの葉が髪型に あなたのためにスポーク 私は残酷さを非難せずにはいられません カモの聖域から神々へ 彼は言う。「そうです、彼の魂の中でどれほど難しいのでしょうか。結局のところ、彼は哀れに思うと源氏は思う。下車、彼 また、その視線を聖域に向け、さよならを言うように、彼は多くの日陰になりました！」それで時間です 別れの悲惨な世界 あなたの名前 神タダスを信じて」長い道のり

を進んでいます 感動する若者の右近の蔵の黒堂が 感心して彼。これ以上感動することはほとんど想像できません 視力！しかし、源氏は最高の亡命に達し、天皇は覚えています 彼の目の前で見たようにはっきりと見える。ああ、何でも誰でも高い地位を保持していません。これで彼を保つ方法はありません。世界、そして彼の損失を悼むだけです。源氏は苦い涙を流しながら悩みを語るが、悲しいかな、答えを持つのは無駄ですか？本当に一つの命令ではなく、1つではありません。この評議会はもうそれを聞く運命にありますか？墓は緑豊かな道端のハーブで生い茂り、そしてそれが近づいている間それらを押し離すと、彼の服はさらに濡れた。突然月が隠れる。雲の後ろに散らばり、木の下に黒い影が濃くなり不気味になった。ここから抜け出せない気持ちで源氏は傾く 墓の前で、突然、まるで生きているかのように、暗闇の中ではっきりと区別できます、彼の前に皇帝。源氏は恐怖で冷え、血は静脈で凍り、体が震えています。どうやってこのすべてが今見られています。彼の魂に？空で可愛い画像をキャッチしている、しかし、月は雲の後ろに消えます。夜明けになると源氏が都に戻って手紙を書いた。春の部屋の王子様。メッセンジャーは彼をオメバに渡すよう命じられました。彼女の代わりに王子の下に残された道に乗り出した主権者。「今日、私は首都を離れます。何よりも私がしなかったことを後悔している 去る前に何とか訪問した。あなたが私がそれを理解していることを願っています。彼は彼女に手紙を書いた：あなたは今テストして、王子にすべてを説明しなければなりません。 私は再び首都を見ます。春の鼻で。私の時は過ぎた 私は山の貧しい住民になります」彼は桜の枝に手紙を添付しました、それでほとんどすべてがシャワーを浴びました。フラワーズ。こちらをご覧ください。オメバに王子に伝えます。夢中になっている子。なににこたえたい？ダイソーさんに次のように書いてください。あなたと一緒に、私は仕方なく、悲しくなりました。あなたが遠くにいるとどうなりますか 欲しいですか？オメバに尋ねると王子は言います。「非常に簡単な答えです」哀れさと優しさを込めて王子を見下ろしています。彼女は源氏の心があった長い日を覚えています。不法な情熱で燃やされた。彼女の心の目の前で彼は立ち上がる 私自身その時のように。彼と彼女の愛人の両方が自分自身を生きることができました。不注意に世紀、しかし彼ら自身は多くの苦しみをもたらしました。そして彼女ではない オメバのせい？これが彼女が源氏に答えた方法です：「私の悲しみは素晴らしく、私はあなたに手紙を書くために私の力をほとんど集めませんでした。私は王子にあなたの言葉を話しました。そして彼は私の心が壊れているほど悲しいです。残念です」彼女は間違った手で首をかしげて書いた。：見るのは悲しい 花が落ちる速さ 春が去る しかし彼女の後で私は希望を持ってみます：首都に戻ってきて！だから時間がたつと、」

終わりは終わり、春の商工会議所で働く女性たちは長い間、ささやき続けてきました。悲しそうにためいきをつき、こっそりと涙を拭きとる何かについて残った。源氏を見たことがなかった人が平等にとどまることはできなかった。彼の曇った顔を見て息苦しい、さらに、人々の悲しみ毎日彼に仕えた。最も重要でないメイドやクリーナーでさえ、影の中で暮らすことになっていた彼が疑ったこともない存在について 彼の優雅な後援は、悲しんで、ひそ

かに泣いた。見ない 少なくともしばらくの間、それは彼らにとって厳しい試練のようでした。はい、誰 彼からの差し迫った分離の考えを喜ばせることができますか？7歳の時から、源氏は昼も夜も最高の部屋を出ることはありませんでした。そして、主権者が彼のすべての要求を満たしたので少なくとも1度は彼の調停に頼らず、今では資格を与えられる 彼に借金を感じていない。最高の貴族の中で囲碁の役人。国務院およびその他の重要な人物の多くは何らかの形で源氏に恩恵を与え、低ランクの人々の間でさらに、彼らはそれを忘れる可能性は低いですが、誰も決定しませんでした。源氏への同情を表明してください。現在の支配者。もちろん、多くの人が彼を気の毒に思い、ひそかに彼を非難しました。権力者たちは明らかに誰もが考えました。：「まあ、私は私を犠牲にします。地位と敬意を払うために行きます。その恩恵を受けますか？」

支持を失った人には多くの人に関わり始めます。偽装した敬意、そして源氏は最近たくさんこの完璧からどれほど遠いかという考えの足掛かりを得る機会。悲しい世界。源氏はその日1日中、愛人と話し、いつ いつものように暗くなり、路上で荷造りを始めました。ひきつけない自分への注意。彼は放浪者にふさわしいのでシンプルなハンターを着ました。そのドレス。ここ、どうやら月が上ってきた、。付き添いに来てくれませんか？しかし、私がどのようにあなたを恋しく思うか、どれだけ蓄積するか想像してみてください。私があなたと共有したいものの魂に。結局のところ、私たちが。一日か二日立って、私は素晴らしく台無しに 源氏は言ってカーテンを持ち上げると、状態を尋ねます。 構造、そして今、近づくことができます。彼女はすすり泣きが彼女を窒息させるのをためらいますが、それでも彼女は去って座っています。月明かりに照らされた彼女の顔は言葉では表せないほど美しい。どこ 玄関先で彼女の人生は誘惑します。もし戻る時間がなかったなら、私はこの気まぐれなままにしておきます。新世界？収縮しますが、女性をさらに混乱させたくはありません、彼は意図的に悲しみを発音する：源氏は思います。未来を考えて彼の心は悲しい。 誓ったよ いつも一緒にいてください 最後の1時間まで それから私はその人生を知っていましたか また、分離を脅かす可能性があります。悲しいかな、無駄に

私は私の人生を後悔していません。間違いなく彼女を与えるでしょう。このコストで一瞬疎外できた 分離は私たちを脅かしています。彼女の気持ちの誠実さは疑いの余地がなく、源氏はまだ彼女と別れるのは難しい。しかし、朝が近づいており、遅延が原因でした 不必要な合併症のため、彼は急いでさりました。マダム像が執拗に源氏の前に立ち、心が重い 「長い日が過ぎ、風はすでにサルを守っていたので、亡命者は湾に達しました。長くはない彼らは途中でしたが、そのような旅は源氏にとってはじめてでした。まだたくさんの苦難や喜びに気づいていない。放浪者。グレートリバーの宮殿。大江戸野として知られる場所 荒廃したヘラジカは松の木だけが認識することができました。本当に影 あの放浪者に運命づけられた 中国の土地から？どこか目標のないデリリアス 避難所はどこにありますか？私は知らない

波に見え、岸を打って逃げたと源氏は言った。「うらやましいね。波！」これはみんなに知

られている古い歌です。まったく新しい方法でここに聞こえ、特に波の仲間に見えた。痛々しいほどの悲しみ。源氏は引き返した：彼らはどこから来たのか 到着し、山の靄で失われ、遠く離れた場所にいるかのようにすでに3千のためのものでした。そしてオールからのスプレーが袖を湿らせました。ああこがれ！出身地 山脈の後ろに残ったかすみが消えた。しかし、それは今私たちの上にありますか 同じ雲の回廊ではないですか？悲しいかな、この魂を喜ばせるものは何にもありません。彼の避難所になるはずだった場所はとても近い雪平ティナゴンがかつて言ったものから：「海キャップのハーブから塩の排出と日が喜び泣く流れるかどうか」家は海から少し離れたところにあり、陰鬱な断崖のなかで、悲しくなりました。生垣から初めて、周りのすべてが異常でした。源氏の視線。ススキの家。長い、ギャラリーのような構造。葦屋根の下の葦はそれなりに美しい。それはかなり一です。そのような地域に新しい。家が源氏に真新しさを加え、彼は過ぎ去った日々の喜びを自由に思い起こしました。ある魅力があり、それ以外の場合は、」

源氏は近くの地所の支配者を呼びました。彼ら、そして故郷の最も献身的な使用人の1人。吉清代 評議会は家の再建に関連するすべての心配を彼自身に引き受けました。彼が気になるのを見てよかった。比較的短い時間で家は片づけられました。そして彼の視力は彼の目を喜ばせた。彼らは庭に水を運び、いたるところに木を植え、そして徐々に源氏は新しい環境に慣れ始めましたが、このすべてが現実には起こっているとは信じられませんでした。地元の統治者は源氏に親しみ、密かに男だった。彼の居場所ではないため、常に奉仕する準備ができています。源氏の家 混んでいて騒がしく、ランダムな避難所とは何の関係もありませんでした。路上で、そして彼の隣に誰もいないという事実だけ ラム酒、彼は思考と感情を表現することができました。しかし彼の、時には彼は奇妙な未知の土地に落ちたように見えた。「どうしたらここで長い月と年を過ごすことができますか？」その間、人生は徐々に良くなっていきました。すぐに暴風雨、そして源氏の考えは思わず、首都に駆け付けました。たくさんの 彼は憧れ。そして何よりも西ウイングの愛人と呼びました。彼は恐怖で考えました。医師の顔がまだ彼の心の目の前に立っていました。彼はよく なんて嬉しい 春の部屋の王子様、幼い息子のこと、 彼はその日遊んだ！そして、ほかの多くの。やっぱり源氏。首都にメッセンジャーを送った。非常に困難な時だけ、彼はなんとかかけました セカンドラインの家から女性への手紙と道に乗り出した皇后 彼が筆を手にとるとすぐに涙が彼の視線を覆った。それは彼です。サル皇后：「漁師はどのように暮らしていますか？遠くのパインアイランド 貧しい小屋で？住人スマは濡れた服を着た塩辛いから海水から、悲しみはいつも私の心の中にありますが、今では私の光は薄れてきました。暗闇の中で見えるのは過去と未来です。そう、彼女の水でさえ、になる。彼は一を書き、いつものように彼は送信を目的とした内容の中に彼女宛の手紙「個人的に中納言さんへ」「私の存在の鈍い怠惰の中で、私はしばしば 私は過去について話している、、レッスンは無駄だった 出会い草もここで大歓迎です。海沿い、スマ。漁師は何というのでしょうか 塩を蒸発させるのは誰の運命ですか？」しかし、彼のすべての手紙の内容を想像することは難しくありません。昼寝 彼

は左大臣と個人的に看護師サイソの両方に塩を加え、彼女にもっといいことを尋ねた 息子の世話をしてください。手紙が首都に届けられ、多くの苦い涙が終わった あなた自身の機械 彼らによってこぼれた。セカンドラインの家からの愛人は、彼女がそうしなかったほど絶望的でした ベッドから飛び降りた。彼女を慰めることができず、彼女に仕える女性は彼女と遠吠え。源氏がやっていたことを見て、指で弦に触れた琴に、捨てられた香りを吸い込んだ服を着た彼女は、彼がこの世を永遠に去ったかのように泣いた。それを見つける悪い前兆であるシャナゴンは僧侶の祖先を召喚し、彼に命じた。彼女の部屋で祈りを言うと、女性のための同情でいっぱい、彼は安らぎと平安が彼女のたましいを覆い隠してくれることを祈ったので、そして源氏は無事に首都に戻り、彼らはまだ。旅行用の寝具を集めて、夫人たちは源氏に送った。過酷な白い布から縫われたドレスを見て、そうではない 彼が慣れ親しんでいる人たちにとって、女性は涙を抑えることができませんでした。彼女じゃない 鏡を手放さなかったとき、源氏はかつてこう言った。君と一緒にいるだろう」心、彼女が彼女が彼女の部屋に入ったドアを見て、彼が寄りかかって座っているヒノキの柱。その場所に 慣れ親しんだ年配の良識のある女性でさえ、この世界の変動、それで彼女はねじれることができなかつた、予期せず、彼女が無限に縛られていた人から離れて、ryi は父親と母親の代わりに、彼女をととても慎重に育てましたか？彼にこれを残して 世界は永遠です。おそらく、やがて。すべて、忘却草に成長しますが、彼女が知る限り、彼はそうではありませんでした。遠く離れていましたが、それでも彼らは離れて暮らすことを余儀なくされました。「いつまた会うの？」について。それが導いたものです。絶望した彼女。バスに乗り出した主権者の悲しみは不安によって悪化した 春商工会議所の王子の運命のために。はい、彼女は同じままでいられますか それがとても強い相手に降りかかった逆境に息苦しい彼女の運命を結びましたか？彼女の心の奥深くに何年もの間、彼女は自分の感情を隠し、そして恐怖に震えて、彼らのどんな現れももたらすことを悟った。彼女の一般的な苦難。彼女は苦しみに気づかないふりをした 源氏は、厳格で難攻不落に見えるようにしようとしました。さて、もどります 過去について考えると、彼女は まず第一に、彼は人工的な願望に負けないようにしようとしています。心と常に良識に敬意を表して、彼は何も管理しませんでした。自分自身を与えてください、そして、それ故に、どんなに邪悪な人間の舌であっても、誰も発生していません。わずかな疑い。そして最近、彼女は彼に共感できなかつたでしょう。悲しくない？彼女の答えはいつもより暖かかった：「ああ、私は毎日、、彼女はケースを持っています：パインランドでは塩涙から抜け出す 焚火を投げる漁師 彼らの不満の筆木。」そしてナンシーの神は非常に簡潔に答えました：「焚火を作る湾で。 目から隠れる炎が大好きです。出口のない煙。私の胸は窮屈です。」しかし、本当に、これについてもう1度書くことは価値がありますか？ナンシーの神の反応は彼女の使用人、ティナからの手紙に同封されていきました わだちそして彼女は女性の悲しみがどれほど計り知れないかを書きました。手紙の多く 源氏は非常に感動的なようで、ため息をつき、読み、そしてそれを読んで。三西翼からの愛人の手紙には、そのような優しさがありました 源氏は涙に移されました。

「そこに波の屋根の後ろに 袖スクープ 海水、、、でも見たら 袖は私の頭の上にあります」

送られた服は上手に塗られて美しく縫われていました。見る 女性の完成度はどれほど多様であるか ナイトライフと思わず一緒に暮らすことができる幸せについて考えた。この海岸で食べる。だから、ここでは彼の注意を要求しないでしょ、そしてそれは 完全に彼女だけに属していました。そして彼の精神の前に昼と夜 彼女のイメージは彼女の目に立ち、時々彼女の記憶にとても痛くなった。彼は再び彼女をゆっくりと自分に連れていきたいという欲望を持っていたが、彼は常にこの考えを拒否しました。「私は自分の誤解について考えた方がいいです。niyahと自分自身を浄化しようとする」彼は最終的に決定し、それ以来ずっと彼は断食と祈りを捧げました。メッセンジャーは左大臣の家から手紙をもたらしました。方法について読む 日々が彼の幼い息子をリードしていて、源氏は新しいあこがれの発作を感じました。一緒に身を引こうとした。「彼と私は確かにお互いに会うでしょう。そして彼らは気にします。信頼できる人が彼について話しているので心配する理由はありません。」そして、すべて しかし、彼は他の方法ではこのようにさまよっていませんでした。はい、ここにもう一つあります。最近の混乱で、私は何について話すのを忘れました。源氏は伊勢巫女の神社に手紙を送った。そこからもっと早く行き、メッセンジャーを送りました。宮須所郎の手紙は本当にやさしかった。独特の恵み 自然の真の洗練を証言する音節、手書き。「私の魂はその日から絶望的な夜の暗闇の中をさまよいました。本当に信じられないほどの変化のニュースが私にきた時、あなたの人生のシー。かなりの時間が過ぎるとことを願って自分を慰めます。時間とあなたは戻ります。しかし、悲しいかな、私があなたに会った瞬間はどれくらい遠いのですか、非常に多くの違反に飲み込まれました。伊勢の漁師 海沿いの苦い草の嘔吐 たぶん彼女あなたは塩のように見えることを覚えています ハーブから遠くのスマン流れ落ちます。本当に、この世界のすべてがどれほど悲しいことだと思いますか。-お気に入りの彼女の手紙には多くの不満がありました：海沿い伊勢 あなたは干潮でもそれを見つけることはありません。 貝殻幸運 空の希望だけで運命は私を残しました。」彼女は長い間この手紙を書き、いつでも彼女の筆をわきに置いた 胸に圧迫されて尋ねる気持ちを抑える力があつた。そして最終的に 4-5 枚の白い中国紙を落書きしました、そして枝肉の移行、ラインの比例制は驚くべきものでした 完璧 昔、この女性は源氏の心に優しくあつたが、そうではなかつた。左大臣の家で起こった幸福は、彼は恐怖に反動しました。彼女から離れて怖がって、何が起こったのか彼女を不当に非難した。彼女は落胆している

彼女の冷たさは、彼と別れることを決めて去った。これを思い出して 今、源氏は彼女を気の毒に思い、反省に悩まされた。そのような状況で受け取った手紙は特に彼に見えた 触れて、そしてメッセンジャーにさえ、暖かい感情を持って、源氏は遅れました 彼は家に2-3日在宅し、使命の使命についてよりよく尋ねたい。伊勢のストコロ。メッセンジャーは非常にまともな外観の若者で、通常は住職。そんな窮屈な状況の中、源氏は今、この取るに足

らない人でさえ、彼に近づいて 垣間見るが、それでも彼の顔が見える。もちろん、彼の賞賛は制限。源氏が書いた内容を想像するのは簡単です。「このように首都を離れなければならないことを知ったとき、私はおそらくあなたに従います。私はよくそれを私の悲観的な感情の中で考えます。現在の存在。集めるよりも 須磨には苦いハーブがあります 方が良いだろう 住む伊勢の舟で 海の波が揺れる 漁師を投げる 彼らの不満の山火事で、そして 滴と塩

どれだけ多く排水する それを見るために運命づけられた？ 悲しいかな、また会うのはいつですか？ 私の苦悩は無限大です。とりわけ彼の手紙に書かれたもの。したがって、彼は心配したくない多くの人と連絡を取りました。彼らから彼からの知らせは何もなかった。ここにメッセンジャーは花が落ちる庭から手紙をもたらししました。源氏にこたえる女性は彼と一緒に発生した考えや感情を共有することを急いでいました 分離の日に彼らの心の中で。彼らの手紙は源氏にとって非常に忙しいようでした。淫乱でかなり珍しい、彼らは彼の悲観的な考えを払拭することができました。そして同時に彼らは新たな悲しみを引き起こしました。「消しゴムは腐っています。そして悲しみ草が登場 ますます近く。私は見て、たっぷりの露 私の袖に横たわる厚い雑草を除いて、そこに書かれていました。彼らは現在、生活を支えていない。当時それを聞いていくつかの場所では壁が崩壊し、それらを取り巻く家、源氏ゆっくりと首都への適切な指示を持つメッセンジャーを送った。内務大臣は、彼らの地所の管理者に呼びかける 彼らは首都からそれほど遠くないところにいて、適切な 一般的な対策。

ナンシーの神夫人は彼女の名前がほかの人よりも彼女を愛した嘲笑の主題と右大臣 娘たちは、皇后の母のとりなしを繰り返し要求し、さらに彼自身がソブリンの前に彼女のためにとりなしました。結局、天皇は特に彼女には肩書がなかったので、彼が彼女を許すことを妨げるものは何もない 紳士またはミヤスコロ、寛大さの限界、そしてあなた最も普通の裁判所の義務を果たした。それに、そうじゃないですか 彼女は彼女の価値のない行動のためにかなり厳しい罰を受けました。何?それで、ナンシーの神は許しを受けて法廷に戻りました サービス、しかしそれでも彼女は彼女が長い間されてきた誰かへのあこがれを止めません彼女の心は引き寄せられました。7番目の月に、ナンシーの神は宮殿に移動しました。彼女はまだソブリンの極端な好意を楽しんだ。ゴシップをしていると彼はしばしば彼女を自分に呼び、それから非難しました。熱心に触れることは彼の感情の不変性を彼女に保証しました。ソブリンはとてもしっかりしていますが、彼の優しく柔和な黒を見て あなた、恩知らずのナンシーの神は必ずほかの人を思い出しました。かつて彼らが音楽で聴聞会を楽しんだ時、ソブリンは言った 彼女に目を向ける：誰かが私のように私を逃した可能性は低いです ディナ大正。しかし、彼の不在を悲しまなければならない人々がいますもっと。そう、世界はその輝きを失っているようです。壊したかつての主権の最後の契約、そして報復は将来私を待っています 彼は不平を言い、泣き叫びました。彼を見て、ナンシーの神は泣いた。彼女は私にこの世界での生活を送った、そして私は遅らせたくない それに入る。心が目覚め

る気持ちをケア？悲しみが今よりはるかに少なくなると考えるのは痛いですが、彼はあなたを永遠に去りませんでした。ああ、そうです「あなたに会いたいです 羽毛は価値のない男、一皇帝は言います。彼の声 とてもやさしくて悲しみに触れているので、新しい涙が流れます。ナンシーの神の目から噴出。一だから今天皇に尋ねます。それは残念です まだ子供がいない私は一緒に行動する決意です 私は死去した時の春の部屋の、しかし私はそれらがかもしれないと恐れています一あなたは誰を悼んでいますか？干渉する 彼は嘆く。そして実際には、ソブリンの隣に彼の意志に反する政府の事情、彼の若い心には堅さはありませんでした、そして彼は後悔しなければならなかった。その間、須磨では、驚くほど退屈な秋の風が吹いていました。夜は雪平竜角が騒がしい海の波 きっと「あなたはどんな前哨地も恐れない」というでしょう。そう、世界で 秋がそんなに悲しみを報告する場所は他にありません魅力。ある夜、仲間の何人かが寝ていた源氏。長い間眠ることができず、「頭を上げる」、彼は怒り狂うのを聞いた天気の様子。波はベッド自体に跳ねかけようとしていた。彼ではない 彼は涙が彼の目から注がれていることを夢見て、それでも「ヘッドボードは準備ができています」琴を指で弦に触れたが、自分の手から生まれた音はひどく何かを聞いた綿と彼は演奏をやめました。一あこがれで泣く そして、私のうめき声をエコー 海の波。そこから風が吹いていますか？私の考えはどこに行きますか？彼は言った、そして彼の声の音によって目覚めさせられた近くのものには賞賛しました 彼らは注意深く耳を傾け始め、涙、バラ、すすり泣きに移りました。こっそり。彼らは今何を感じるべきですか？彼のために彼らは修道院に向かった ニヤ、二度と望まない親戚や友人を残してトゴ。そして彼の悲観的な外観で、彼は彼らをさらに落胆に引き込みます、、そして、元気を取り戻そうとすると、源氏は冗談を言い始め、愛情をこめて彼らの墮落した精神を復活させるためにあなたの仲間と一緒に座ること。から逃げる 退屈、彼は丸一日かけて文芸を練習し、これを手に入れました 目標は、複数の色の紙片であり、それらを結び付けます。優れている中国の絹、彼は塗装し、これから作られました。スクリーンのシルクは世界的な賞賛を呼び起こしました。首都なら、ヒアリング 海と山の物語、源氏は自分自身をそれらについて完全に定義することができました lennogo のパフォーマンス、今、彼らを間近で見たので、私は認めざるを得ませんでした。その架空の、そして実際には実際から遠く、そして急いで 天国となった岩だらけの海岸を紙にとらえる。一今日の最高のマスターを招待できないのは残念です はい、または綱紀、「これらの絵をカラーで完成させるために、その終わり。不平 これらの4-5人は考えもできなかった 源氏を1つ獲得すると、美しい顔を見ながら、悲しみをすべて忘れてしまいました 彼の主人、そして彼らに対する彼の友好的な気質を感じて、彼に仕えることは大変名誉なことです。一度、美しい夜の時間に、庭の花が当たったとき 色の多様性と明るさのために、源氏はギャラリーに行きました。しかし海。彼の比類のない美しさは、常にほかの人に飛び込んできました 牛肉の恐怖、そしてここ、この荒野では、彼は男のようではありませんでした。地上の世界に属しています。柔らかな下着を着用 「アストラザイオン」生地で作られたシルク、ハーレムパンツ このすべてのトップは、ゆ

るく結ばれたベルトがついた明るいアウトードレスです。ここに彼はゆっくりと経典を読み始め、まず自分を仏の弟子と呼びました。そうですね、全世界でこれ以上の声はありません。漁師の激しい歌は海から来ています。彼らのボートは岸から来ているようです。波のように揺れる怠惰な海鳥、そしてあなたは仕方なくそれらを見て。野生のガチョウは空を横切って伸び、悲鳴はとても簡単です。オールはきしむ音とみなすことができます、、それらを思慮深くみて、源氏は拭きます。自由な涙と彼の手、その白さは鋭くする。彼らが自分自身を慰めるほどの美しさで打つ黒いロザリオの虚偽。首都に残された妻のためのそれらのタンク。

これらの最初のガチョウ。私の最愛の友達ではありませんか？空ではあなたの道は上です。彼らは私の上を飛ぶ。悲しそうに、心配そうに叫んで、

源氏は発音し、吉清は次のように付け加えます。見て。文字列はメモリ内で伸びます。過去数年。これらのガチョウはそうではなかったが。そのあと、私たちの友人。次に、Mimbu-no tayuが入ります。-故意に去る。不滅の住人、ガチョウ私たちに叫んで。彼らが遠くに見える前に雲を超えて、そして、これが右近蔵のクロドの曲です。不滅の住人。去った後、ガチョウのローミング。天国の広大な中で。彼らの慰めは1つです。誰もバックから戦いませんでした。友達を失った人はどうなりますか？この男は源氏の運命を共有することを決め、それゆえ、彼が支配者に任命された日立で彼の父親についていくために、彼の魂を消費した苦悩にもかかわらず、彼は外で穏やかなままでした。とても自身があるようでした。しかし、ここでそのすべてのすばらしさで月が現れます。源氏。今日は15日目であり、彼の心は苦痛で収縮していることを渡します。宮殿でこの瞬間に素晴らしい音楽がどのように聞こえるかについての考え。彼は多くの大都市の家で、今では月を賞賛している様子を想像しています。月の顔から目を離しません。「旧友と私の心 2000LIです。」明らかにする。彼、そして再び、涙がみんなの頬を流れ落ちます。源氏は道に入った皇后が言った瞬間を思い出します：「多層霧」、そして彼の心は悲しく収縮します。メモリ内。彼女のそばで過ごした時間が聞こえ、涙が無限に流れていきます。もうかなり夜です。彼に思い出させる。しかし、彼は残ります。私は月を見ます。そしてしばらくの間、あこがれは後退します。はるかに。資本と私は知りません。また会いましょうか。

優しさで、源氏は秘密裏にあくまであるその夜を思い出します。彼らはソブリンと通信し、彼は彼の本当に並外れたもので彼を殴りました。出発した人と似ている。「ソブリンは私にドレスを与えました、それは今私と一緒にです」彼は自分の部屋に引退して身に付けています。源氏は本当に親切でした。このドレスとそれを手放したことはありません。心の中。恨みの苦しさだけではありません。そして左袖。そして右。両方とも濡れた。無尽蔵の涙から。ちょうどそのころ、太宰の第二が首都に戻っていた。家族。彼はたくさん持っていて、彼の娘はたくさんいます、そしてつくしからの道以来、首都では困難に満ちていた、北部の部屋の住民。海沿いのエクサリ。彼らはゆっくりと海岸沿いを航海し、周囲の景色を眺めながら、そして。須磨海岸は独特の美しさで思わず注目を集めました。風の強い大正さんの天

国 まるで彼がそれらを見ることができるよう、女の子はとても興奮して恥ずかしかったです。そしてゴセティは絶望的でしたが、悲しいかな、彼らのボートはさらに引張られました、さらに、時折、琴の遠い声で風が彼女に届いた。悲しげな海岸、関連するダイソーのイメージ、退屈な歌 文字列 これらすべてを合わせて、非常に深い印象を与えました 女性、少なくとも敏感な心を持っていた人、彼らは涙に抵抗できなかつたと。太宰の第二は源氏に次のように手紙を送った：「遠く離れた場所から首都に戻るとお見ました まず、すべてについて話すためにあなたを訪問してください。どのように苦いこの野生の海岸を航海するのは不愉快です。運命はあなたを見捨てました。私は多くの愛する人に会わなければならないので、あなたを困らせたくないで私は目撃の喜びを拒否しました。あなたに敬意を表します。願いが叶うといいな いつか」その手紙は彼の息子、ティクゼンの支配者によってもたらされた。むかしむかし、源氏育成 インペリアルアーカイブの従業員としての彼の任命、そしてそのあと複数回 彼は後援を提供したので、若者は非常に動揺していた源氏の人生に起こった変化によって、彼に非常に同情しましたが、ひどい目線とうわさ話を悔い改め、あえて家に留まることはしなかった。首都を去った日以来、私はほとんど会う必要がありませんでした。以前に親しい人と会うことでした そしてあなたが意図的に私を訪ねて立ち寄った 源氏は彼に言った。彼は太宰にも答えました。しかし第二。ティクゼン定規、すすり泣き、船に戻り、彼が見たものについて話しました。源氏の家で。彼の話聞いて、太宰の第二や出会った人たちも泣いた。これらの涙がまだ持っていないかのように、それは恐ろしいほどに騒々しかった大きな不幸。ゴセティ愛人は源氏への手紙を伝える方法を見つけました。「弦楽器の歌 途中、船を遅らせた、そして彼女は波の中にいるフローズン。問題を抱えた魂 わかりますか？」「いや、今は非難のシャワーを浴びるときではない」源氏は彼女の手紙を読んで、微笑みました、そして、微笑みは彼の顔にそのような目を伝えました 他人が自分の平凡さを思わず恥じたという事実。「もしあなたのボートが突然波に揺れる 失われた平和 どのようにして彼女に合格したのですか スマの悲しい湾？ 「フィッシングギアが手になじむ」とは思いもしませんでした。源氏は彼女に答えました。誰もが旅館の所有者にどんな喜びが届けられたかを知っています ある放浪者にひとたび折りたたまれたが、オセティ夫人の喜びはさらに、彼女は彼女がスミーにとどまるべきかどうかさえ疑問に思いましたか？一方、首都では、日と月が互いに引き継がれ、多くの何よりも、皇帝自身があこがれをこめて、恥ずかしい大正を思い出した。他よりも春商工会議所の王子を悲しませた。源氏を絶え間なく思い出し、泣いた ひたすら彼の落ち着かない悲しみは看護婦と愛人の心を砕いた おめぶ。パスに乗り出した主権者は以前に悪い事前 想い、大相撲も遠く、王子の未来 彼女はさらに心配した。源氏兄弟と親しい貴族の青年 以前、彼らは最初に彼に手紙を書き、触れて悲しいことに彼と交換しました 中国の詩、その多くは世界的な賞賛を引き起こしたねえ。噂は皇后両陛下に届いた時、彼女は怒って、述べました：オーボー自身の不名誉を被った男は、自分の裁量で食べ物を食べる。そして大正は美しく生きている 家で、そしてあえて不満を示すことさえします。さらに、正気ではない 彼

を追跡する準備ができています。以前は鹿の馬でした。」もちろん、彼女の言葉はすぐに世界中で知られるようになり、素晴らしい他の誰もが源氏を書くことを取ってしなかったことに対する彼女の恐れ。つもりだった。時間、そして2行目の家の女性は自分を慰めることができずでした。以前はイーストウィングで勤務していた女性が最初に治療されました。「なぜ彼女は他の人よりも優れているのですか？」より近く、彼女の感受性と友好的な気質、彼女の心を高く評価しました。そして優しさ。機会があった上位のメイドさん時々愛人の顔を見て、満場一致で源氏には理由がないわけではないと認識させた。彼の考えを彼女に集中させた。一言でいえば、だれもが彼女を離れるつもりはなかった。

源氏が須磨に長く住んでいたほど、彼の苦痛はより痛くなりました。もちろん、彼と一緒に痛くなりました。もちろん、彼と一緒に夫人ですが、この貧しい生活の中で彼女を想像してください。彼でも我慢することが困難だった。ああ、それは彼に合わなかった。今彼女の近くにおいて、どんなに誘惑があっても、この野生の海岸は源氏の異星人のようで、珍しいと彼は見ました。貧しい人々の生活、彼がこれまで疑ったことのない存在、そして彼らの人生のあまりにも多くが彼を不愉快に驚かせ、彼を不平にさせました。彼をそのような不適切な場所に連れて行った運命。時々、空の近くのどこかに細い小川が昇るのを見てください。煙、彼は考えた：「おそらくこれは火の上の同じ煙である」、彼らは家の裏の山でいわゆるブラシウッドを燃やしたと言われていました。それはすべてでした。とても奇妙で珍しい、焚火をつくる茂みの中の山の住人。あなたは私にもっと頻繁に独りぼっちだ。甘い故郷の人たち、冬が来て、吹雪が荒れ狂うと、源氏は熱心に見つめた。恐ろしく暗い空、ヘルプミュージックを求めています。彼自身が琴を取った吉清が歌い、是光が笛を吹いた。たまに源氏が突然始まった。悲しい、感動的なメロディーを演奏し、そのあと、沈黙した。アルクの楽器とミュージシャンたちは涙を拭きとった。かつてフンに降伏した女性を思いだして：「彼女はどんな人でしたか？これまでに最愛の人を送ってもらえますか？」しかし、そのような機会を想像しても、彼は身震いし、良いことを何も約束していない自分から追い出されて、彼はささやいた。「彼女の肌寒い夜の睡眠を妨げる。」明るい月あかりが家を透過し、これの最も遠い隅を照らしました。放浪者のランダムな避難所。一晩中、ベッドから起き上がることなく、「それは可能でした。青い空を見るために」沈む月の光は耐え難い苦悩に圧倒され、源氏は静かに、まるで自分のように言った。「私はただ西にずっと動いているだけです」彼らはどこを導くのでしょうか。スカイトレイル？雲の中をさまよう。月が私を見ている。そして私は彼女の前で恥ずかしいと思います。夢は彼に行きませんでした。そして彼は夜明けの空でどれほど悲しいことに聞いた。チャリウェーダー。夜明けが近い。聞こえる：お互いに呼びかけ、サンドパイパーが叫びます。彼らの悲鳴の下ではそれほど難しくありません。朝起きたら。私自身。まだ眠っていて、源氏は長い間横たわっていた。夜になるたびに源氏は水浴びして参加した近くで彼の心に驚きと興奮を呼び起こし、祈りに落ちました。この曲。妻。彼らの誰も彼を離れることを考えることができなかったが、簡単に首都の彼らの家族に行きます。明石湾は文字通り手でスミに近かった。ファイル、そして吉清は、パス

に入った方の娘を思いだして、送信しました。手紙、しかし彼女は答えなかった。しかし、父親は口頭で次のように彼に手渡しました：「私はあなたのためにビジネスを待っています、そしてあなたが私たちを訪問する時間を選択した場合、」承知に頼らなかった吉清は何も経験しなかった。陰謀的に戻るために明石に行くラニアと嘲笑の対象となるため、どこにも行きませんでした。そして、私は道に入った彼が誇りに思っていたという必要があります、どのような光、見られ、ハリムには影響力のある家族がいなかったが、統治者のリーダーシップ、彼は長い間頑固に品種の可能性を拒否していました。彼と戦う。ダイソーさんが近くに定住したと聞いて、彼は次の言葉で妻にガラガラといいました。住民の息子が須磨に来て、法廷の不名誉を招いた。パブロニアのパピリオン、華麗な源氏。これは運命です。そんなうで私は運を期待していませんでした。私たちは提供する機会をつかむ必要があります彼の娘。

なんてナンセンスだ！首都の住民から、彼は多くの彼らの傲慢な人によって、彼らは彼が侵入しようと敢えて言った 天皇自身に属する女性にノイズ。だからそのような人は惨めな地方に注意を払いますか？パスに入った彼は怒りましたが、私は知っています 私は何をやっている準備して！できるだけ早く彼をここに連れてきます。彼は自信をもって話し、彼の決意を揺るがしたと感じました。失敗します。彼の命令により、家の装飾は緊急に更新され、young さんのための新しい、ゴージャスな衣装を縫いました。しかし、母プロ分かりません！ 不平を言うべきです：ある人に娘を与えるのが問題だったかどうか 迫害された？彼自身が夢中になったかどうか私はまだ理解しています。彼女！冗談を言っても、そのようなことを想像することは不可能です。しかし、道に入った彼は何も聞きたくありませんでした。迫害された人々の話をすると、中国ではル、そして私たちのものでは常に優れた才能の人々でした。他より優れています。彼が誰か知っていますか？結局のところ、彼の死んだ母親、yasudokoro は私が持っている Adzati no dinagona の娘でした。おじさん。彼女の並外れた美德は彼女が良いものを構成するのを助けました。名前、そして最後に宮殿での礼拝に来て、彼女は勝った。皇帝の多大な好意、しかし同時に焼けるようなうらやましいパレスの女性の心に嫉妬し、彼女に立ち向かい、この世界を去り、息子を残しました。本当に人生の価値ある完成！女性は最高でなければなりません。願望。彼は私たちの娘を無視することはできません。彼女の父親は何ですか？惨めな地方？パスに乗り出した人の娘は、並外れた美しさとは言えませんでした。悪、しかし彼女の特徴は優しくて高貴で、更に彼女は独立心と礼儀正しきで人に負けない。申し分のない起源。取るに足らないことを知っている彼女の現在の状況、少女は考えました：「貴族は決して私に注意を払いません。だから私は価値のあるものを見つける運命にありません配偶者。私の人生が長くなり、私が生き残るなら私は修道女になるか、海の波に身を投げます。」パスに入ると、娘の世話がやさしくなり、彼女は住吉で崇拜するように彼女に決めました。彼女はできます。その間、スミではその年は新しい年に取り替えられ、長い日が続いた。怠惰、すぐに最初の花が庭に植えられた上に現れました。さくらんぼ、空は雲一つなく、源氏人々は過去に、しばしば泣きました。1年前、

第二月の20日に彼は首都を離れ、彼の心に優しい人々とたむろしてください。ああ、彼が今、それらを見ることができたら！おそらく、南宮殿でさくらんぼが開花しました、彼はそれを思い出しました。花のニューヨークの休日、もはやこの世界にいなくなった父、声に出して読むように仕向けたソプリンの優雅な姿が目を通して現れた。源氏の詩、

一定の憂鬱と宮殿の喜びを思い出します。だからまた来てあの日花で飾って過ごした？最悪の日、左家からの三味のツジが登場。大臣。今ではサイソーの称号をかぶっていた。かなりのアドバンテージを持って、最勝はなんとか勝ちました。裁判所の好意でしたが、世界中で彼を喜ばせるものはありませんでした。憧れを覚えて彼は源氏を置き、最終的にはない罰を無視することにしました。宣伝のためにいつも彼を持っていて、スミに行きました。彼は友達を見た。そして喜びの涙。源氏が現在住んでいる家は、彼の珍しさと西翔を襲った。彼には中国人のように見えた。そして確かに：竹プレーヤー。影、石段、松の柱、「彼はどれくらいの頻度で写真で同様のことをしてください！シンプルであると同時に異常に「悲しみの涙」？彼の頬に沿って置かれました。わずかに。源氏自身も山の住人のようになりました：黄色がかかった下部の上に緑がかかった灰色の狩猟用ローブを着ていた。衣装は控えめです。表示されるように、源氏は故意に地方のようにしようとしたが、彼は羽はとてもハンサムだったので、それを見て、拘束することは不可能でした。笑って。彼の家には最も飛鳥な道具、部屋しかなかった。ドレスと同じハーレムパンツ。「go」と「snowdog」をプレイするためのボード、「tanga」のアクセサリ。地元の職人、祈祷用品で明確に作られています。式は、所有者がそれをわきに置いたように見えました。提出。料理は特に地元で調理されました。味わう。それから源氏は魚を持ってきた漁師に電話をするよう命じ、コック、そして友達に彼らを見て、彼らがどのように引きずったかを尋ねました。ここでの彼らの日々は、海沿いで、漁師は彼らの厳しい生活について話しました。そして彼らの悲しみを信じた。「本当に、これらの人々は何かをノイラします。彼らは私たちと同じように苦しんでいます。」漁師を見てください。そして、新しいドレスやほかの贈り物を受け取った人は報われました。彼らは言った：「明らかに人生はそれほど悪くはない」最澄は驚きを抑えきれなかった。怠惰、使用人としてみている、見たものから稲わらを取り除く。同情してゲストを考えた。納屋のような建物の前で、立ち食いをしました。馬に遠く。彼は「ウェルズ・オブ・アスク」をうたい、「それから、泣いて、笑って、友達に受け入れました。みんなの人生で何が起こったかの思い出を共有した。彼らが最後にあった日。牧師は愛する人の運命を心配して一日中ため息をつく。その間、不注意にたわむれ、自分に負担をかけない孫。日常の困難についての人々―最澄は言った、そして源氏の心はから沈んだ。憧れ。会話自体を完全に録音することは不可能ですが、それだけの価値はありますか。やめて？彼らは一晩中目を覚まして夜明けに出会い、詩を作った。しかし、saisho それにもかかわらず、彼は宣伝を恐れていたもので、急いで戻ってきました。そう、彼の方がいい。来ませんでした、それで、ゲストとオーナーの両方にさよならシンプルな粘土ボウルを育て、発音する：「中毒は悲しい、涙は春のボウルに注がれています、」そして、それらを見ているすべての人は、それらを見て、涙を

落とします。悲しいかな。この会議はマウスピースでした。そして分離を後悔することはできませんか？夜明けまでに。ガチョウのひもが空に伸びて、いつ来るのかえって来たあの春 出身地へ？私が見る：ガチョウが飛んで、そして、羨望は心の中で生まれます、オーナーは言った、そしてゲストは遅い、彼と手放すことができない：ガチョウは悲しい。しばらくエッジを離れる。避難所が見つかりました、涙で目がくらむなんて 花の都の道？Shaushoは源氏に素晴らしい贈り物を贈ります。首都から彼のために、そして彼はダルットに感謝する方法を知らずに泥棒を連れ出します。多くの人は、恥ずかしい亡命者の贈り物がもたらすことができると信じています。不幸ですが、「北風が吹いて明るくなります」馬は珍しい美しさ。そして、ここにあなたの記憶があります。Sayshoはいった、源氏を彼の前。赤い有名なフルーツ。人々は再解釈する準備ができていますので、彼らはより多くを買う余裕はありません。彼らが見たり聞いたりするすべてを間違った方向に、太陽が高くて、もう迷うことはできません。周りを見回すと、源氏は彼の視線をたどります。ああ、そうしなかった方がいい。来た！私たちはいつ会う運命にありますか？しかし、それでも、それは不可能です。しかし想像してみてください、西翔は言い、源氏は言う：あなたは近くの雲で飛ぶ 天国から あなたはみてみます この春の日みたいに 私はきれいです。もちろん、希望は私を離れませんが、悲しいことに、賢明な男性さえ、昔に戻るの簡単ではありませんでした。それから世界へ、いつかまた会えると信じないから大都市圏の制限。空高く 孤独な鶴が泣いている あこがれを覚えて 誰と一緒に愛する友達 翼から翼へ、近くを飛んだ、私はいつも近くにいたが、おそらく私はそれに値しなかった。悲しくさせてそれは見ることができ、実際には無駄ではありません。になれる。そして、彼らのすべての考えや感情をお互いに聞く時間がないので、彼らは西翔が去った後、源氏の人生はさらに悲しくなり、もっと痛い。その年、第三月は蛇の日に始まりました。」今日、心の中には何らかの不安がある人は。知っている顔つきで誰かが言った。浄化に曲がる。源氏、そして彼自身は海を賞賛することを嫌っていなかったの、彼はすぐに送りました。岸により、国に呼びかけられたシンプルなカーテンで源氏をふさいだ。占い師は彼にすぐに式を始めるように命じた。波に乗って豪華な人形の舟を一掃するのを見ている源氏は彼女の運命を彼と自由に比較した：予期せず放棄された波の気まぐれで果たさない海へ。そして今のように貧しい人形に、運命について文句を言わないのですか？彼の明るく照らされた姿はかつてないほど美しく見えました。この浮かぶ海面が彼の前に伸び、終わりはありませんでした。続く過去と未来を振り返りたいと願う、源氏は言った。無数の神々 私に同情してください。慈悲を示す。自分にはわからない。私は欠点はありません。突然風が吹いて空が暗くなりました。したがって、すべてを完了することなく、ランク、人々は騒ぎ、集まった。誰も彼の手で何とか隠れることができず、土砂降りが注がれ、そして彼らはおびえた。傘さえ送らずに家に急いだ。何もありませんが、予見された、必死の旋風が海岸を席卷し、その中のすべてを一掃しました。道を食べる。波は畏怖の念を抱いて育ち、人々は逃げました、その下には足がありませんでした臭い。巨大なカバーで覆われているかのように、海はきらめき、泡立ち、バール、雷がなり、

稲妻が点滅した、彼女は追いこそうとしていた。ランニング。彼らが恐怖から心を失うとすぐに、人々はついに到着しました。家へ：「私は人々からこのようなものを見たことはありません！」通常、嵐は事前に予測できます。原子パス。突然のようにそれについて不気味で不気味な何かがあります。彼らは家の中で驚いて急いで駆け回り、雷は止まることなく鳴り響きました。ホイップ。激しい雨、すべての障害物に侵入する準備ができています。世界は終わりを迎えましたか？人、そして源氏だけが静かに経を読んだ。怖がって怒って尋ねた。暗くなると雷の鳴き声が収まり、風だけが君臨した一晩中。明らかに、上昇した祈りは多くの祈りを助めました：もう少し、きっと海に運ばれたのでしょうか。満潮の日には、人々は振り返る時間さえないと聞いた、水で洗い流す方法。はい、そのようなものを見たことはありません。源氏を閉じます。お互いに話している。朝、みんなが寝付きました。源氏も居眠りをして、見た目が理解できない人が言って、現れる。彼らはあなたを宮殿に呼びます、なぜあなたは躊躇していますか？そして始まる。家の中を歩き回り、はっきりと彼を探した。すると、源氏は目を覚ました。「それはロードオブザシードラゴンズでしょうか？彼らは彼が美しいものをすべて愛しているといえます。彼は考え、恐怖が彼をつかまえた。になり、私は彼の注意を弾きましたか？」そして、彼はもうできないと感じました。この家について。

#### ポケットーク

##### 須磨

サイコロ(ガンディー)。西ウイング(紫)からの26-27歳の女性、18-19歳—西部の部屋のガンジー住民の妻、彼女が花を手にしたサラの人(ハンティルサオ)-ニッケルを塗ったガンジー(「彼女が花を飼う庭」のセクションを参照)方法 gosularyna(fultsubi)。31-32歳—かつてのウイステリアの頭蓋の王女、キリツボ天皇陛下の妻、アエバ大臣の家(ユギリ)。5-6歳—ガンディアアリの息子の左大臣、退職した大臣—テスト。Gidisammmi-no-tudzo, Slayseno-tudzo(T-notudzo)最初の妻 gand it、アニ夫人 Tonagon の兄弟—安芸のしもべサヨ夫人—ナースユギリ老婦人、大宮夫人(サードプリンセス)-Asvet 大臣の妻、母アノニ遠野ちゅうせいそーち王子(ほたる)—ゲンデン・ナインの神の弟キリツビノ皇帝の息子(おぼろづきよ)—ブラボト大臣の娘、スダク皇帝の宮廷女、秘密、花のイルサノコウノのゾノクロドの妹—近く伊予の雌犬オメブのむすこである源氏—現在の藤壺のしもべ、現在は未来の皇帝息子藤壺義清—近藤藤次少年—看護師紫僧侶—祖母紫の兄弟 第6線のお嬢様(六条の峰どうろ)。33-34年、元祖ガンジソブリン(スルザク皇帝)の愛人である巫女イサの母—桐壺天皇とコキロン・コレミツの息子—筑紫源氏の客の近く—ダライの第二の娘、明らかに、ガンジーの愛人は明石から道に入った明石マダム之父ハリムの支配者(「若い紫」の章を参照)17-18歳の明石マダム—道に入った人の娘  
毎日、源氏の逆境は倍増し、彼がこの世界に住むのは難しくなり、彼は考え始めました。そして彼を首都のままにしないのでしょうか？誰が知っているのでしょうか、おそらく最悪の事態

はまだ来ていないので、何も起こらないふりをしてここに滞在する価値はありますか？源氏は、「かつて立派な人々の避難所だった」須磨の海岸は、今では釣り小屋さえもめったに見られない退屈で荒涼とした荒涼とした地域であると聞いた。しかし、騒々しく混雑した状態で一緒に暮らした方がいいのでしょうか？一方で、ここまで落ち着くと、首都に残っている人へのあこがれがたまりません。。痛みを伴う疑いが源氏の魂を苦しめ、彼は過去を思い出し、未来を振り返り、彼の胸は不可解な苦痛の苦痛によって圧迫されました。この世界ではあまりにも多くの人々が彼に異質であり、今は源氏を憂鬱に思っていました、彼との別れは容易ではなく、とりわけ若い女性のせいでした。彼は毎日彼女が悲しみになり、彼の心は哀れに砕けていたのを見た。今でも、2、3日間彼女を残して、彼らが確実に再び会うことを知っていて、彼は思わず心配しました、そして彼女さえ彼なしでは孤独で無力であると感じました。そして彼が去ったら、彼は何年離れて暮らす必要がありますか？彼はこの道が彼をどこに導くのか知りませんでした、そして彼の出会いは限界ですか？世界はとても壊れやすいので、「彼が最後に門を出たのは、」であることがすぐにわかります。彼は考えさえ思いつきました：ずるがしこくあなたとそれを取りませんか？しかし、彼女をととてもやさしく、波と風だけが彼らの孤独を分かち合う海のそばの喜びのない人生に彼女を非難する、「ああ、それでは、私にはもっと心配する理由があるだろう」と彼は思った。彼の考えを貫いて、彼女は気分を害し、最も困難な道で彼に同行する準備ができていることをほのめかそうとしました。花が落ちる庭の人は源氏が滅多に訪れず、ほかに支えがなく、心配事だけで暮らしていたので、今、彼女の悲しみはどれほど大きかったのでしょうか。だから、多くのジノーそして彼が時々訪れた人たち、そして一度だけ彼を垣間見た人さえも。噂に非難されることを恐れていたが、旅に出た皇后はひそかに源氏に手紙を書いた。「バイが暖かい参加で私にこたえるのに使用されたとき、源氏は昔を思い出してため息をつきました。しかし、どうやら、それは私のあこがれであり、あこがれに永遠に苦しんでいる」

第三月の20日の後、源氏は首都を去った。彼の出発を誰かに知らせて、彼は彼に最も近い最も忠実な仲間だけを連れていきました。そして、宣伝を避けるために、彼自身を、それらを読んだ人が思わず甘い思い出にふけるほど多くの感動的な手紙があったいくつかのひそかに送られた送別手紙に制限しました。もちろん、これらすべての手紙は注目に値しますが、私の感情はあまりにも動揺しており、詳細については詳しく説明できません。2、3日前、源氏は夜を明かして左大臣の家を訪れた。彼は目立たない藤トップの馬車に密かに到着し、女性が乗っているように片づけられました。本当に、これはとても悲しいことで、夢のようでした！亡くなった愛人の部屋で落胆した。親愛なるゲストの到着を聞いて、看護師、少年の召使、そして彼女の死後も家に残っていた女性に仕えていた女性の人々が彼を見て集まり、特別な微妙さで区別されていなかった若い使用人さえ、突然気づきました世界はどれほど変化しやすく、涙でいっぱい、彼らの目は暗くなっていきました。息子をのむ愛らしい少年が歩き回っていた。「この間、彼は私を忘れていなかったことに感動しました」と源氏は息子を膝まで引き寄せ、涙をほとんど抑えきれませんでした。大臣自身が源氏と話

しに来た。私はしばしば撤退をやめて、昔の雑学について話をするためにあなたのところに来たいと思っていましたが、私が法廷を去り、深刻な病気を口実に私のランクを拒否したので、人々はおそらく私の行動を解釈するでしょう違う。「欲望があれば、腰を曲げてまっすぐにする。」今、私は恐れることは何もないように見えますが、それでも人々を中傷する永遠の準備は私を怖がらせます。あなたの人生がどれほど変わったかを見て、私は自分の寿命について不平を言うのに飽きません。これはすべて、法の終わりを連想させるものです。世界が変わると想像できますか？むしろ、天界帝国が逆転すると私は信じています。ああ、なんて辛いんだ！—大臣は言って、涙が彼の目に包まれています。いずれにせよ、私に起こることはすべて、過去の人生で行われたことの結果です。つまり、自分だけが私の不幸のせいにするべきではありません。階級を奪われてもいなくても、裁判所の不承認を招くだけの人はこのように生きます。これは必然的に全世界の目に対する彼の罪悪感を悪化させます。この意見は他の国でも共有されています。そのうわさから判断して、私は流刑を宣告されました。つまり、私はある種の深刻な犯罪で起訴されました。そして、無邪気な意識だけに支えられて、何事もなかったかのように、首都に留まって暮らしていると、最悪の事態が起きるまで首都を離れることにしたので、大変なことになります」と源氏は詳しく説明する。大臣は、目をそらさず、昔、過ぎ去った主権、別れの言葉、源氏も涙を流すことができなかったことを思い出す。一方、源氏の幼い息子は幼少期に無知で戯れ、どちらか一方に注意を求め、冷静に彼を見つめることは可能でしょうか？—私は私たちを残したものを決して忘れませんが、私は今彼女のために悲しみますが、それでも、彼女が今どのように悲しむかを想像して、私は彼女が彼女を避けるのを助けたので、彼女の人生の簡潔さが彼女にとってかなり良いところという結論に思い当たりましたこの悪夢。考えてみると、少し安心しました。何よりも悲しいのは、この無実の子供がお年寄りの世話をするようになり、確かに父親の愛情を知らずに長生きしなければならないということです。確かに、昔、本当に深刻な犯罪のために、彼らはそれほど深刻に罰しませんでした。しかし、どうやら、これはあなたの予定です。結局のところ、似たようなことが外国で頻繁に起こったことは知られています。しかし、そこでさえ罰は常に声に出された非難によって先行されました。あなたの場合、その理由は推測しかできません、三味の女も源氏を見に行きました。彼らはワインを飲んだが、真っ暗になり、源氏は大臣の家に一晩止まった。彼に女性を呼んだので、彼は長い間彼らと話しました。いつも密かに彼に他の人よりも優しい感情を持っていたチュンナゴン夫人は、今日はとても悲しく、「誰かに言ってもらえますか？」—源氏はそれを隠そうとしましたが、思わず動いたと感じたと彼女の顔に反映しました。みんなが眠りに落ちたとき、彼は特に彼女と話しました。誰が知っているのか、たぶん彼が滞在したのか？大臣の家を出るように縫い付けられた。ところが、夜が終わり、源氏は急いで大臣宅を去った。明け方の月は魅力的に美しく、サクランボはほとんど色あせて、一部の場所でのみ、花が枝に残っていて、庭は月明かりであふれ、地面から、光の霧が上がり、その不安定なベールは物体の輪郭をはっきりさせませんでした。そのため、秋でもそんな美しい日の出は起こりません。手すりに寄りかか

って、源氏はしばらく庭を賞賛しました。チュンナゴン夫人は彼を護衛したいと思っていたに違いありません。ドアを開けてドアのそばに座って、彼をじっと見つめていました。また会うとは想像もつきません。」と源氏は言う。運命の準備に気づかなかったので、何もそれを妨げるものがないとき、私はあなたに会うのを急いでいませんでした。しかし、女性はそれに答えて言葉を発することができず、泣くだけです。ここで、ご主人様の最澄さんの看護師さんに大宮さんからメッセージが届きました。「自分で話したいと思っていたのに、光がぼんやりと消えて気持ちが戸惑う。その間、精神の存在感を取り戻そうとしたのですがまだ夜明けではありませんが、あなたは私たちの家を出る準備ができています。ああ！それは昔起こりましたか？あなたは私たちのかわいそうな貧しい子供が目を覚ますのを待ちたくさえありません。」源氏は涙を流しながら、誰にも向いていないかのように静かに言います。私の道は塩が採掘されている湾にあります。たぶんそこにかつて鳥羽山の上に昇った煙が見えるかもしれません。それから彼は西章夫人に向けます。

夜明けの別れはいつも辛いですか？おそらく、この多くはこの感覚に精通しています。私はいつも「別れ」という言葉そのものを嫌っていました、と西翔は言います。「しかし、私たちが今日心配しなければいけないことは、彼女の涙を抑えようとして、彼女は少し鼻に言いました。」真の悲しみが彼女の声にあります！「私はあなたに伝えたい言葉を何度も考えていますが、悲しいかな、私が起こるすべてのことに私がどれほど憂鬱な気持ちになっているのかを理解していただければ幸いです。本当に、無邪気に眠っている子供をもう一度見させてください、この悲惨な世界を手放すのは私にとってははるかに難しいでしょう。だから私はあなたの家をすぐに離れることを選びました。」源氏は老婦人に報告します。カーテンの隙間にしがみついている女性は、彼が去るのを見る。月の光に照らされ、山の端の後ろに隠れようとしている源氏の姿は、特に美しく見えます。彼の顔に現れる深い悲しきは虎と狼に触れて涙を流すことができ、多くの女性は幼少期から彼を知っています、彼らの悲しみがどれほど素晴らしいかを想像するのは簡単です。はい、ここにもう一つあります。少し前に老婦人の答えが返ってきました。「どこへ行っても、出発したところからは、あなただけが遠くへ行きます。その煙の流れが失われた雲にあるわけではありません。」新しい悲しみは私たちに古いことを思い出させました、そして、源氏が去ったとき、女性は非常に最悪の感情を持っていたほど長く泣きました。どうやら、セカンドラインの家の住民も眠れない夜を過ごし、源氏が戻ったとき、女性たちはあちこちに小さなグループで座っていて、涙を流して落ち込んでいました。オフィスの敷地内には魂はなく、彼に献身するすべての使用人は彼と一緒に行かなければならなかった、そして明らかに、彼らは愛する人たちに別れを告げるために去った。他の人たちは、好意から脱落して自分の問題を倍増させることを恐れて、源氏に別れを告げることをしませんでした。そのため、今日は第2線の家で無人で静かでした。世界はどれほど悲しいか、源氏は思った。食器用のテーブルは、埃で覆われ、マットは折りたたまれ、掃除されました。「すでにすべてがそのような荒廃の中にあります、次に何が起こりますか？」源氏は西館に進軍した。マダムはどうやら、ギャラリーの外に女の子の

メイドを置いて、バーを下げるのではなく、一晩中深く考えました。源氏を見る。「ああ、やっと！」—彼らは必死にジャンプしました。彼らが家の中を走り回り、寝間着を着ているのがとても魅力的であるのを見て、源氏は悲しそうに考えました。「これらの月と年の間、ここに留まることはまずないでしょう。だから、彼がこれまでに注意をはらったことがないもののほとんどは彼の視線を止めました。「そして、あなたはいつものように、私について最も信じられないほどの疑いを持っていたに違いありませんか？」—彼は愛人に、なぜ彼が遅れたのかを説明して尋ねました。それが彼の意志であるなら、私はこれらの最後の瞬間、あなたから離れていなかっただろう。私の日々は首都にあります、出発する前に私は心配が多すぎて、いつも家にいる余裕はありません。この世界はすでに変化しすぎているので、誰かに憤慨の理由を与える価値はありますか？しかし、彼女はただ答えます。悲しいかな！何が今起こっているということより信じられないことでしょうか？源氏からの分離は彼女にとって他の誰よりも困難でした、そしてこれは驚くべきことではありません：子供の頃から彼女は彼の家で育てられました、そして彼はさらに最近不満を恐れていた自分の父親にはるかに近かったです、彼女に手紙を書くのを完全にやめ、源氏への同情を表明することすらしなかった。彼女はこれに気づかずにはいられなかった女性を恥じていた、「もし今彼が無知のままだったらもっとよかったです。」と女性は思った。そして、継母が言っていたうわさが流れました。本当に、これはすべてよくありません、愛着しているすべての人と別れる運命にあるようです。」これを聞くのは非常に不快であり、彼女はまた彼女の父親への手紙をやめました。それで、彼女には源氏しか残っていませんでした、そして差し迫った分離について彼女は悲しむのではないかと考えましたか？月と年が過ぎ、許しが私に与えられないなら、「源氏は言った」と私は落ち着かなければならない快適さの中で、確かにあなたを私の部屋に連れていきます。しかし今では誰にも見られません。私たちが解決しなければならぬフクロウ。しかし、今では誰の承認も得られません。宮廷の恩恵を受けた人々は、月と太陽の明快な光さえ見るべきではありません。喜びに浸り続けている人々は、何も起こらなかったかのように、耐えられないほどの負担を魂に負わせます。私には欠点はありませんが、予定の必然性は私を謙虚にします。本当に前例のない大胆さを示した私を連れていったら、狂気に覆われた世界は私たちに新たな、より恐ろしいトラブルをもたらすでしょう。太陽が地球の上に高く上るまで、彼は寝室に残った。ソティの王子とサミーノ・トゥジコが訪ねてきた。それらを受け入れる準備ができていることを示して、源氏は鼻をかぶった。肩書のない人にふさわしいように、パターンのないシンプルな。しかし、これは控えめな服装よりも彼の顔には驚きました。実際、世界にはこれ以上美しい人はいませんでした。鏡の前で髪の毛を矯正すると、源氏は彼のくぼんだ顔に新しい洗練が現れたことを発見しました。—どうやって減量したの！—彼は言った。「これは本当にこの鏡と同じですか？」本当に、思わずあなたは自己を感じ始めます。彼は涙目で彼を見た愛人を見て、そして彼の心は痛みで沈んだ。何年もさまよっているのを待ちましよう。あなたの隣に、この鏡は残ります。彼女が言います。彼女の悲しみは非常に感動的で、彼女に同情を感じざるを得ないほどです。

そして、彼女を慰めたいと、源氏は言います。あなたの道はトップです、月は私たちに戻ります、それは光と純粹を輝きます。とりあえず、空を見ないで、手強い雲に閉じ込められて。でも、この世に何かを希望することは可能でしょうか？不変の唯一のことは、未知の未来についての「苦い涙」であり、それは私の心を暗闇に陥れさせることについての考えの一つです。明け方、源氏は家を出た。彼は去る前にたくさんの心配をしました。源氏は忠実に彼に仕え、現在の政府に頭を下げなかった人々のうち、上院と下院の使用人を任命しました。さらに、彼は彼の運命を共有することになっていた人々を選びました。彼は山岳住居ではなくてはならない最も控えめな道具や、とりわけ中国の詩人やほかの作曲の厳選された作品の入った棺、そして7弦の琴を準備するように命じました。彼は豪華な道具、または豊富な服装だけを持ち、すべてにおいて貧しい山の住人のようであると決めました。召使から始まり、すべてが西の翼から愛人に移されました。彼女に、源氏は証明書を彼に属する土地、イマとほかの所有物に手渡しました。残りについては倉庫、倉庫、Shonagon への委任状が常にあり、彼は彼女の指揮下で彼にささげられた数人の使用人を与え、この農場すべてが女性によってどのように管理されるべきかを詳細に説明しました。個人的に彼に仕えた女性、中司、Tujou,その他は絶望的でした。源氏は特別な注意を払って彼らを称えたことはありませんでしたが、今のところ彼らは少なくとも彼に会う機会がありました。悲しいかな、これからは、彼らもこの快適さを失うでしょう。私が生きていれば、いつかここに戻ってくると源氏は彼らに言いました。「待つ準備ができている人のために、今のところ西棟に行ってください。」上層階級と下層階級のすべての女性の女性を呼び、彼はそれぞれのランクに対応する記念品を贈りました。壮大な贈り物に加えて、源氏は彼の幼い息子の看護婦と花が咲く庭に、日常生活では欠かすことのできない最も多様なもののかかなりの量を送りました。加えて、彼はナンシーの神に手紙を送りました。「私はあなたの沈黙について文句を言う権利はありませんが、あなたがあなたの通常の生活を手放すことがどれほど難しいか、そしてどれほど苦いか知っているなら、群れとの出会い絶望の中で、見ずに、涙の川に落ちた。流れは私を捕まえ、私をどんどん遠くへ運びました。思い出は今の私の唯一の慰めであり、私は彼らに身をゆだねることを理解していますが、私は新しい重荷で私の魂に負担をかけています、ナンシーの神は悲しみを抱えて彼女のそばにいて、彼女がどのようにあきらめても、涙が彼女の目から抵抗できずに転がり、袖には涙が入っていませんでした。「ティアーズリバーの波の上で、揺れると、軽い泡は跡形もなく溶けます。現在の Ee が浅い会議に打ち勝つまで待っていないからです。」彼女がこの手紙を書いているとき、彼女が泣いているのは注目に値しましたが、最も強い感情的な興奮を生み出した手書きは、意外とエレガントです。「彼女に会わずに去る、」と彼は不平を言ったが、反省して、そのような敵対的な家族に属している彼女が特別な注意を必要としていることを念頭に置いて、日付を主張しなかった。源氏が出発する前の晩に、出発した主権者の墓に頭を下げたいと思って、彼は北部山脈に行きました。夜明け直前に月が空に浮かんだ時期だったので

出発する前に道に出ていた皇后を訪ねることにしました。エはカーテンの前に座っていま

した、そして彼女自身はそれを受け入れました。会話は春の商工会議所の王子についてであり、皇后は彼女の不安を隠さなかった。それらを束縛する、長年にわたる非常に深い感情の中で主権者であり、彼らとの間に秘密の会話があり、その夜、多くの感動的なことが言われました。長年にわたり、Lady of the Ladyは彼女の甘い気質や美しさを失っておらず、源氏は以前の不満を思い出そうとしていましたが、悲しいかな、これはなおさら不適切であり、不満を抑えて彼は自分自身を裏切ることはありませんでした。さらに、彼は誘惑に屈して彼の苦しみを増すだけであり、したがって十分な慎重さが示され、次の言葉に自分自身を制限することをよく理解しました：私は、そのような不可解な迫害の理由となる罪を一つだけ知っています、そして説明できない恐怖が私の魂を支配しています。ささいなことで私は世から消える運命にありますが、私が王子の将来の繁栄を確信していた時、皇后は彼の考えを完全に理解しましたが、彼の言葉に彼女の心に反応を見つけることができませんでした、答えませんでした。自分を抑えきれずに泣いた。涙で汚れた顔以上に美しいものは想像できない！「私は今、主権者の墓に行きます。」何かお返ししませんか？源氏は尋ねるが、彼女は黙っています。1つはなくなった。不幸は別のものを脅かしています。この世界の終わりも近く。私が彼を否認したのは無駄ではなく、涙だけです、彼女はついに彼女の興奮を抑えています。彼らの感情はどのような混乱でしたか、そして彼らにとって価値のある表現を見つけるのはどれほど困難でしたか？主権者は去っていきました、そして、問題はこの分離によって解決されたようです。しかし、悲しいかな、さらに多くの悲しみが私たちを待っています。やがて月が空に現れ、源氏は続いた。彼は5人か6人のボディガードを伴って上に乗った、それらの最も低いものでも最も献身的な人から選ばれた。この旅行が古い旅行のように見えなかった方法について再度話す必要はありません！源氏の悲しい仲間の中には、聖俗の記念日に同行の蔵の黒道が同行した。彼にとっても希望の時間が過ぎ、彼の名前は延臣のリストから除外された。地位と裁判所の支持を奪われ、彼は源氏に仕えるために行きました。「はい、ここにありました！—突然思い出した右近の蔵の黒堂が加茂神社をちらりと降りて降りると、源氏の馬を手綱に乗せた。アオイの葉を髪につけてあなたの後ろに立った日を思い出し、加茂聖域からの神々への残酷さを責めざるを得ない、と彼は言います。「そうです、彼の魂のなかでどれほど難しいのでしょうか。結局、その日彼は多くの影を落としました！」彼を哀れに思うと源氏は思う。降りた後、彼はまた聖域への彼の視線を修正し、さようならを言うように、疲れ果てました：それで、悲惨な世界と別れる時が来ました。私の名前を信じて Bo Tadas を信頼して「私は長い旅をしています、感動する若者の右近の蔵の黒堂は感心して彼を見つめます。しかし、ここで源氏は最高の墓と主権者に到達悲しいかな涙を流しながら源氏は自分の悩みを語る悲しみの涙を流しながらしかし、悲しいかな、答えを待つのは無駄ではありませんか？もう1つの指示ではなく、もう彼を聞く運命にある一つのアドバイスではないのですか？墓は緑豊かな路傍のハーブで生い茂り、彼が近づいてそれらを押しよける間、彼の服はさらに湿っていました。突然月が雲の影に隠れ、木の下に黒い影が濃くなり、気味悪くなった。源氏はここから出られないという気持ちで、お墓の前でお辞儀

をし、突然、暗闇の中ではっきりと区別できるように、天皇は彼の前に立ちました。源氏は恐怖で冷たくなり、血が静脈で凍り、震えながら体を駆け抜けます。これらすべては今日のエ魂にどのように見えますか？空で可愛い画像をとらえましたが、月が雲の後ろに消えてしまいました。非常に明け方になると、源氏は首都に戻り、春の部屋の王子に手紙を書きました。使者は彼をオメバに引き渡すように命じられました。オメバは、王子を彼女の代わりに残した道に乗り出した皇后です。「今日、私は首都を離れます。何より、出発前にあなたに会うことができなかつたことを後悔しています。私が今何をテストしなければならないかを理解し、王子にすべてを説明してくれるといいのですが、王子は彼女に手紙を書きました。いつ春の花がいつ再び首都に現れるかわかりません。時間がたちました。これからは山の貧しい住人になっていきます、」ほぼすべての花が咲く桜の枝に手紙を付けた。さて、あなたが見てください、オメバは王子に言います、そして彼はまだ子供ですが心配してみます。何に答える？—オメバは尋ねます、そして王子は言います：次のようにダイソー氏に書いてください：ここまで行くとうどうなりますか？」「非常に簡単な答え」とオメバは思いやりのある王子を見つめながら考えます。彼女は、源氏の心が不法な情熱で燃えたあの長い日を思い出します。彼女の心の目の前で彼は当時と同じように立ち上がる。彼と彼女の愛人の両方が彼らの人生を穏やかに生きることができましたが、彼ら自身は多くの苦しみをもたらしました。そして、彼女のせいだった、オメバ？これが彼女が源氏に答えた方法です。「私の悲しみは素晴らしかった。私はあなたの言葉を王子に伝えました、そして彼は彼の心が哀れに壊れるほど悲しいです。」彼女は不誠実な手で矛盾した文章を書き、精神的興奮を露呈した。「花がどれくらい早く落ちる、春が落ちるのかは悲しいですが、彼女の隣に私は希望をこめてみます。首都に戻ってください。」

メッセンジャーが去り、春の商工会議所に仕える女性たちは何かについて長い間ささやき、悲しそうにため息をつき、密かに涙を拭きとりました。源氏を見たことのある人が、曇った顔を見ても無関心のままでいることはできませんでした。毎日彼に仕えた人々の悲しみはなおさら素晴らしかった。彼の存在さえも彼の優雅な保護の陰に住んでいたのに、彼の存在さえ疑っていなかつた最も重要でないメイドや掃除人でさえ、悲しくそして秘密に叫びました。彼に少なくともしばらく会わなかつたことは彼らにとって厳しい試練のようでした。そして、誰が彼からの早期の分離の考えを喜ばせることができるのでしょうか？源氏は7歳から昼も夜も最高室を出ることはなく、主権者がすべての要求にこたえたので、少なくとも1度は彼の調停に訴えず、今では彼に義務を感じない権利を持つ人はほとんどいなかつたでしょう。最高貴族、国務院の役人、その他の重要人物の中には、源氏に好意的な人が多く、下層階級にはさらに多くの人が出て、忘れることはほとんどありませんでしたが、源氏への同情をあえて表明する人はいませんでした。誰もが現在の支配者が報復する速さを知っていたからです。もちろん、多くの人々が彼を気の毒に思い、権力者をひそかに非難しましたが、誰もが次のように考えていたようです。「まあ、私は自分の立場を犠牲にして、彼に敬意を払います。それは何がいいのですか？」多くの人々が偽りのない敵意で好意を失った

男性と関係を持ち始め、源氏は最近、この悲しい世界がどこまで完べきではないかという考えの足掛かりを得るための多くの機械を得ました。源氏はその日中、怠惰で過ごし、女性と話をしていましたが、いつものように暗くなった時、彼は荷物をまとめ始めました。自分に注目を集めたくないの、放浪者にふさわしい彼はシンプルなハンティングドレスを着ました。—ここ、どうやら、月が昇ってきた。付き添いに来てくれませんか？私がどのようにあなたを恋しく思うか、私があなたと共有したいもののどれだけが私の魂に蓄積するかを想像するのは簡単です。結局、1-2日離れても気分がすごく悪化して、今は、源氏が言って、カーテンを上げると、ロクに尋ねる一近づくことができる。彼女はすすり泣く彼女を窒息させるので躊躇しますが、それでも彼女は出てきて、月明かりに照らされた彼女の顔は言葉では表現できないほど美しいです。「もし帰る時間がなかったら、私がこの不安定な世界を去るなら、彼女の人生はどこに伴うでしょうか？」源氏は思います。将来について考えると、彼の心は悲しげに収縮していますが、女性をさらに怒らせたくはありません。故意に救いました。私はかつてあなたといつも一緒にいることを誓いました。生命はまた別居を脅かす可能性があることを私は知っていました、悲しいかな、無駄に。

私は自分の人生を後悔していません。私は疑いもなくそれを与えたでしょう。彼女の気持ちの誠実さは疑いの余地がなく、源氏は彼女と別れるのがさらに難しくなりました。しかし、朝が近づいたので、遅れが不必要な複雑さを引き起こしたので、彼は急いで出発しました。途中、源氏の前にマダムの像がしつこくたっていて、船に乗り込んできました。「長い間時間があり、風が晴れているので、すでにサル番人の中に亡命者が湾に着きました。彼らは長い道のりにいませんでしたが、そんな旅は、旅人の苦難や喜びを今も体験していない源氏にとっては新しいものでした。ビッグリバーの宮殿である大江戸野は荒廃していたため、松を通して。本当に陰影あの放浪者は中国の地から来た運命なのか？私はどこか目標のないうんざりしていて、どこに避難所を見つけるのか分かりません。波に見え、岸に打ち付けられて逃げた、と源氏は言った。「うらやましい、波！」すべての人に知られているこの古代の歌は、ここではまったく新しい方法で聞こえ、彼の仲間には特に感動的で悲しいように見えました。源氏は振り返った。彼らがどこから来たのかは、山の靄の中で失われ、まるで本当に「3千人」のようでした。そして、オールからのスプレーは袖を湿らせました。あこがれ！原産地山脈の背後に残り、靄の中が消えた。しかし、今私たちの上の雲の回廊と同じではありませんか？源氏は近くの所有物の支配者を予備、内務省の最も忠実な家臣の1人である吉清代は、家の改造に関連するすべての心配を引き継ぎました。彼が忙しいのを見るのは感動的だった。比較的短い時間で、家は完全に整頓され、彼の表情は彼の目を喜ばせました。庭に水が注がれ、至る所に木が植えられ、次第に源氏は新しい環境に慣れ始めましたが、現実にはこれがすべて起こっているとは信じられませんでした。地元の統治者は、源氏に親しみ、秘密裏に処分されたため、常に仕える準備ができていました。混雑して騒々しい源氏の家は、途中の偶然の避難場所とは何の関係もありませんでした。そして、隣に彼の魂で生じた思いや感情を表現できる人がいなかったという事実だけがありました彼は時々、彼が

奇妙な未知の土地に落ちたようにさえ見えました。「どうしたらここで長い月と年を過ごすことができますか？」彼は恐怖で考えました。その間、人生は徐々に良くなっていきました。まもなく長いシャワーを浴びるときが来ました、そして源氏の考えは思わず首都へと駆け付けました。彼は多くの想いを抱いて想起し、西部翼からの愛人のほとんどは、悲しそうな顔がまだ彼の精神的な視線の前に立っていました。彼はしばしばスプリングチェンバーズの王子、彼の幼い息子について、彼がその日不注意に遊んだ方法について考えました！そして、ほかの多くの。やっぱり源氏は首都にメッセンジャーを送った。涙で視線が遮られたため筆をほとんど取り上げなかったため、セカンドラインの家から女性に手紙を送ることができたのは非常に困難でした。彼が皇后に書いたものは次の通りです。「漁師はどのように暮らし、遠くのソスノヴィ島の貧しい小屋に住んでいますか？須磨の住人が濡れた服を着た塩辛い海水から、心の奥にはいつも悲しみが宿っていますが、今の光は暗く、過去も未来も暗闇では区別が付きません。彼女の水さえも権利があるに違いない」彼はナンシーの神を書き、いつものように、「個人的に Tyunagonn 氏に」伝わるつもりだったものに彼女宛の手紙を入れた。私の現在の存在の怠惰、私はしばしば過去を思い出します、レッスンは無駄でした、出会い草はここ、スマの海のそばで望ましいです。漁師は何を言うでしょう、誰の運命は塩を蒸発させることですか？」しかし、彼のすべての手紙の内容を想像することは難しくありません。彼は左大臣と個人的に看護師サイショーの両方に手紙を書き、彼女に息子の世話をもっとするように頼んだ。手紙は首都に届けられ、多くの苦い涙がそれらの上に流されました。セカンドラインの家からの愛人は、彼女がベッドから起き上がらなかったほど絶望的でした。彼女を慰めることができず、彼女に仕える女性は彼女と一緒に焼かれただけでした。源氏が普段使っていたものを、指で弦に触れた琴に、彼が残した服の香りを吸い込みながら、永遠にこの世界を去ったかのように泣いた。これを悪霊と考え、宗祖は僧侶の祖祖を召喚し、部屋で祈るように命じ、そして女性に同情して、慰めと平和が彼女の心を覆い隠し、源氏が安全になることを祈った。首都に戻り、彼らは以前のように癒されたでしょう。旅行用の寝具を集めて、婦人たちは源氏に送った。厳しい白い布地から縫い付けられたドレスを見て、彼が慣れているドレスとは異なり、女性は涙を抑えることができませんでした。彼女は鏡を手放したことはありませんでした。源氏はかつて「彼はあなたと一緒にいるでしょう」と言っていましたが、悲しいかな、なんと、痛みを伴う苦痛が彼女が通ったドアを見たとき、彼女の心をつかみました。彼は彼女の部屋で彼女の部屋に入った。彼は彼女の平和の中にヒノキのポストで座った。この世の変動になれている年配の賢明な女性でさえ、もし彼女が予期せずねじれていたなら、彼女の精神を失っていただろう。彼女を無限にしばりつけた人から離して、彼女をそんなに注意深く育てて、彼女の父と母を置き換えましたか？もし彼がこの世界を永遠に去っていたら、やるべきことは何もなかったでしょう。おそらくすべてが忘却に発展するでしょうが、彼女の知る限りでは、彼はそれほど遠くにいませんでしたが、それでも彼らは住むことを余儀なくされました。いつ会うのかわからないのか」それが彼女を絶望に駆り立てたのです。パスに乗り出した皇后の悲しみは、春の王子部屋の王子の

運命への不安によって悪化しました。そして、彼女は運命が固く結びついて人に降りかかった逆境に無関心のままでいられるのでしょうか？この数年間、彼女は心の奥深くで感情を隠し、恐怖で震え、それらのどんな兆候も彼女に一般的な非難をもたらすことに気づきました。彼女は源氏の苦しみに気づかないふりをして、厳格で難攻不落に見えるようにしようとしました。今、彼女の考えを過去に戻すと、彼女はまず秘密を守る義務があることに気づきました。なぜなら、心の人工的な願望に屈せず、常に良識に敬意を払うために、彼は自分を譲ることができなかったからです。人間の舌は邪悪でも、わずかな疑いも生じませんでした。そして、彼女は最近彼に共感せず、悲しむことができなかつたのでしょうか？彼女の答えはいつもより暖かかった：「ああ、私は毎日、彼女には事例があります：ソスノビ島では、リバチカの涙から塩を抽出し、彼の不満を薪に投げ込みました。」西の神が非常に簡潔に答えた：「湾の近くで火事を起こす。目から隠れる愛の炎。煙、出口がない、胸が私を圧迫する。」しかし、本当に、これについてもう一度書くことは価値がありますか？ナンシーの神の応答は、彼女のメイド、チュンナゴンからの手紙に同封されていました。そして彼女は女性の悲しみがどれほど計り知れないかを書きました。執筆の多くは本当に源氏に触れたようであり、彼はそれを読んで再読するときのため息をついた。西翼の婦人の手紙には、優しさがあり、源氏は涙を流しました。「そこには、波の屋根の後ろであなたは袖から海水を引き出します、しかし、あなたが私の頭で袖を見たなら」送られた服は上手に塗られて美しく縫われていました。源氏は、女性の完璧さがどれほど多様であるかを見て、彼の孤独について不平を言って、彼らがこの海岸で一緒に暮らすことがどれほど幸せであるかについて思わず考えました。したがって、ここでは誰も彼の注意を要求することなく、完全に彼女だけに属します。そして、昼と夜、彼の心の目の前で彼女のイメージが立っていました、時々、思い出は非常に耐え難くなり、再びゆっくりと彼女を自分に連れていきたいという欲望を抱きましたが、彼は常にこの考えを拒否しました。「私は自分の誤解について考え、自分自身を浄化しようとする方がいい」と彼は最終的に決定し、それ以来彼は断食と祈りをいつも捧げてきました。メッセンジャーは左大臣の家から手紙をもたらしました。源氏は幼い息子が何日過ごしているかを読んで、新たな苦痛の発作を感じましたが、一緒に自分を引き寄せようとしました。「私は確かに彼に会うでしょう。そして、信頼できる人々が彼の面倒を見るので、心配する理由はありません。」それでも、彼は他の方法でこのようにさまよっていませんでした。はい、ここにもう1つあります。最近の混乱の中で、源氏が伊勢司祭の修道院に手紙を送ったという事実について話すのを忘れました。たまたま偶然にもそこからメッセンジャーが送られた宮須所郎の手紙は本当にやさしかった。音節と手書きの独特の優雅さは、自然の真の洗練を証明しています。「私の魂は、本当に信じられないほどの変化のニュースが私に来たその日から、絶望的な夜の暗闇の中をさまよっています。あなたの人生で起こった本当に信じられないほどの変化についてのニュースが私に来た時。ほんの少しの時間がたって、あなたが戻ってくることを願って、私は自分を慰めます。しかし、悲しいかな、私があなたに会う瞬間はどれほど遠いのですか？私は多くの罪で癒されます。伊勢の

漁師。海沿いに苦いハーブがいる。遠くのスマにストラブの塩が流れているのを見ると、彼女を思い出すかもしれない。本当に、この世界のすべてがどれほど悲しいのでしょうか、そして、何が先にありますかー彼女の手紙には多くの同様の不満がありました：海沿い、伊佐干潮時でも幸運の貝殻は見当たりません。運命が私を去ったいくつかの空の希望。彼女は長い間この手紙を書き、胸に押し付けられた感情を抑える力がなくなったときはいつもブラシをわきに置いて外側に尋ね、最後の4枚または5枚の白い中国の紙と枝肉の変化、線の比例性が驚くべき完成度で打ちました。昔、この女性は源氏の心に優しくかったです、左大臣の家で起こった不快感の後で、彼は彼女を放棄することを恐れて、不当に起こったことを非難しました。彼女は落胆している。

彼の冷たさは、彼と別れることに決めて、去りました。これを今思い出して、源氏は彼女を気の毒に思い、反省に悩まされました。そんな状況下で受け取った手紙は、特に感動し、終盤のあたたかい気持ちでさえ、源氏は、伊勢の須藤美夕との暮らしについてもっと知りたいと願い、2、3日間自宅に留まった。メッセンジャーは非常にまともな外観の若い男性で、通常は巫女として働いていました。そのような窮屈な状況の中で、源氏は今、この重要でない人さえ彼に近づき、彼を垣間見ることを許すが、それでも彼の顔を見ることを可能にした。もちろん、彼の賞賛には限界がありませんでした。源氏が書いた内容を想像するのは簡単です。「このように首都を離れなければならないことを知ったとき、私はおそらくあなたに従うでしょう。私はしばしば、現在の存在の怠惰の中でそれについて考えます。右、須磨で苦いハーブを集めるよりも、住人のボートで海の波の上でスイングするのが良い、「漁師は不満の薪を火に投げ、塩を一滴それは流れます、私がそれを見ることがどれほど運命づけられるのですか？

悲しいかな、また会うのはいつですか？私の苦悩は果てしなく続きます、彼女の手紙に書かれたものは、とりわけ、このようにして、彼は多くの人と連絡をとり、彼らが心配されることを望まず、彼からの知らせを持っていませんでした。メッセンジャーは花が落ちる庭から手紙をもたらしました。源氏に伝えて、二人の女性は別れた日に彼らの心に生じた考えや感情を彼と一緒に急いでいました。彼らの手紙は源氏にとってはとてもおもしろくて珍しいもののようで、陰鬱な考えを払拭することができ、同時に新しい悲しみの草がどんどん近づいてきます。見てみると、露が袖にたっぷりと降りてきて」と書いてありますが、厚い雑草を除けば、今では生活の支えがなくなっているのも事実です。長い土砂降りの時に壁がいくつかの場所で崩壊したことを聞いて、源氏はすぐにメッセンジャーを首都に送り、それに対応して家政婦の家臣たちに支持を出し、首都の近くにある彼らの所有物の管理者に呼びかけ、彼らに適切な措置をとるように命じた。西の神様は、彼女の名前が嘲笑の対象となったことに非常に憂慮され、ほかの娘たちよりも彼女を愛していた右大臣は、ソブリン母のとりなしを繰り返し求め、彼女にソブリンへの請願さえました。結局のところ、ソブリンは、彼女を許すことを妨げるものは何もないと決定しました。彼女は紳士やミヤスコロの称号を持たず、寛大さに制限を課しましたが、最も普通の裁判所の義務を果たしました。その

うえ、彼女は彼女の不正行為のために厳しく罰せられなかったのですか？それでナンシーの神は許しを受けて法廷に戻りましたが、それでも彼女は長い間心を惹かれていた人へのあこがれをやめませんでした。7番目の月に、ナンシーの神は宮殿に移動しました。彼女はまた主権の極端な好意を楽しんでいました。彼らはゴシップを無視して、しばしば自分に電話し、それから非難し、そして熱心に触れて彼女の感情の不変性を保証しました。皇帝はとも見栄えが良かったが、彼の優しく柔和な特徴を見て、恩知らずのナンシーの神は必ず別の皇帝を思い出した。一度、彼らが音楽で彼らの聴聞会を喜んだ時、天皇は彼女に話しかけ、言った：「ダイソー氏が欠落しているのと同じくらい誰も私を逃すことはありません。しかし、彼の欠席が悲しむべき人がいます。そう、世界はその輝きを失っているようです。私は前の主権の最後の契約を破りました、そして、報復は将来私を待っています、彼は不平を言い、涙を流しました。彼を見て、ナンシーの神は泣いた。彼女は私にこの世界での生活を送ってくれました。私はそこに長く滞在したくありません。私の去りがあなたの心にどんな感情を呼び起こすか知っていたらいいのに？彼があなたを永遠に去らなかったけれども、あなたが今よりずっと悲しくなることはないと思うのは辛いです、ああ、そうです、言葉：「私は今あなたに会いたいです。」彼の声はとてもやさしく、悲しみに感動し、新しい涙がナンシーの神の目から噴き出します。「では今、あなたは誰を悼んでいますか？」—皇帝に尋ねます。「残念ながら、まだ子供がいません。」死去した時、私は春商工会議所の原則に従って行動することを決心しましたが彼らが私に干渉するのではないかと心配しています、と彼は嘆きます。そして実際には、ソブリンの隣に彼の意志に反して政務を行った人々がありました、彼の若い心は堅さを持っていなかった、そして彼はあまり後悔しなげらななかった。一方、須磨では、憂鬱なほどに憂鬱な風が吹いて、夜に海の波に非常に近くなりました。そのあたりには、雪平ティナゴンは「前哨地を恐れていません」と言っています。秋がそんなに悲しい魅力を伝える場所。ある夜、仲間の何人かが寝ていると、源氏は長い間眠りにつくことができず、「頭を上げて」荒れ狂う天候に耳を傾けました。波はベッド自体に跳ねかけようとしていた。目から涙がこぼれていることに気づかなかったが、「ヘッドボードの準備はできている、出てくることだった」琴を指で弦に触れたが、自分の手で生まれた音でも不気味な音を聞き、演奏をやめた。私は苦しみの中で泣き、そして私のうめく海の波をエコーします。そこからかぜが吹いていないのですが、私の考えはどこに向かっているのでしょうか？—彼は言った、そして彼らの近くの人々は彼の声の音で目覚め、喜んで聞き始め、そして涙に移り、バラ色にすすり泣きました。彼らは今何を感じるべきですか？彼のために、彼らは放浪を開始し、決して離れたくない親戚や友人を残しました。そして、悲観的な外見で彼らをさらに落胆させます。そして、元気を取り戻そうとすると、源氏は冗談を言い、仲間たちと落ち着いた精神を取り戻すためにそっと話し始めました。退屈から逃れ、彼は丸一日をかけて執筆の技術を練習し、この目的のために色とりどりの紙を拾い、それらをつなぎ合わせました。彼は優秀な中国の絹から作られたスクリーンは世界的な賞賛を呼び起こした。首都で、海と山の物語を聞いていると、源氏は自分自身について彼らの明確な考

えを作成することができ、今それらを近くで見たので、彼は想像が実際から実際には遠く、急いでいたことを認めざるを得ませんでした。空想は実際とはかけ離れたものであり、急いで紙に刻印された岩だらけの海岸がその天国になりました。「今日の最高のマスター、ティアドまたはツネノリを招待できないのは残念です」と、彼らはこれらの絵をカラーで完成させました。「彼の近くの人には不満を述べました。これらの4人または5人は、源氏を去ることさえ考えられませんでした。すべて彼らは悲しみを忘れて、主人の美しい顔を見て、彼に対する親切な気質を感じて、彼に仕えることは素晴らしい光栄であると考えました。夕方のひと時、ラードの花が色の多様性と輝きに際立った時、ガンディは出かけました。その比類のない美しさは常にほかの人々と畏敬の念を抱き、ここでこの荒野は地球の世界に属する人のように見えませんでした。彼の下着は柔らかな白い絹のようなハーレムパンツです。「アストラザイオン」の色の生地で作られた、ベルトがゆるく結ばれたこの明るいトップドレスの上に不注意に投げられました、ここで彼はゆっくりと経典を読み始め、そのあと、生徒のブルドッグで「プラノ、一般的にあなたはより美しい声を見つけることはありません。漁師の失礼な歌は海から来ています。彼らのボートは小さな海の鳥のようで、海岸から波に揺れています。野生のガチョウは空を横切って伸び、悲鳴はそれらにとっても簡単です、野生のガチョウのストレッチ、彼らの悲鳴はオールのきしみと簡単に間違えられる可能性があります、それらを思慮深くみて、源氏は不随意の涙を拭きとり、黒いロザリオと鋭いコントラストで白塗りされた彼の手は、快適ささえも驚くほどの美しさに驚かされます。首都に残された妻を切望する人々。これらの最初のガチョウー私の最愛の友達ではありませんか？空では、彼らの道はトップです、彼らは私の上を飛ぶ、とても悲しい心配そうに叫んでいます、源氏は言い、そして義清は付け加えます：見て過去数年は記憶に広がっています、これらのガチョウは私たちの友達ではありませんでしたが、それからミンブが入ります、しかしこのように：不死者の住居を勝手に去ったので、ガチョウは私たちの上に叫びました。以前は、彼らを遠く離れていたように見えました、雲の向こう側、しかし、右近の造園堂が作曲した曲：不滅の住居去った、ガチョウが広大な天国をさまよう、彼らは1つの慰めを持っています。誰もバックから戦いません。

友達を失った人はどうなりますか？彼は付け加えます。源氏の運命を共有することを決意したこの男は、統治者に任命された日立で父親を追うことを拒否したため、魂が食べていたあこがれにも関わらず、落ち着いて自信に満ちていた。しかし、ここでそのすべての素晴らしさで月が現れます。源氏は、今日が第15夜であることを思い出し、彼の心は宮殿でこの瞬間に素晴らしい音楽がどのように聞こえるかという考えにあこがれを抱いています。彼は多くの大都市の家で今月を賞賛していることを想像し、月アイクから目を離しません。―「昔の友達との私の心」彼は言い、そして再び涙がみんなの頬を流れ落ちます。源氏は、進路に入った皇后が「多層霧」といった瞬間を思い出し、心を悲しませている。彼女の時計が費やした記憶は彼女の記憶の中で点滅し、涙は無限の流れで流れます。もう完全に夜です、彼らは彼に思い出させます、しかし彼はためらいます。私は月を見て、そしてしばらくの間

憂鬱は後退します、しかし首都は遠くにあり、私はそれを再び見るかどうかわかりませんが。源氏は感情をこめて、彼らがソブリンと内密に話し合った夜を思い出し、彼は本当に異例の類似点で彼を打ちのめしました。「皇帝は私にドレスを与えました、そして今、それは私と一緒にです」と彼は引退しましたあなたの平和。源氏はこのドレスを本当に大切にしている、決して手放すことはありませんでした。私の心の中で恨みの苦しみだけではありません。そして、左袖、そして右一両方が濡れています無尽蔵の涙から。ちょうどそのころ、太宰の第二が首都に戻っていた。彼は大家族と多くの娘がいて、つくしから都への道は困難に満ちていたため、北野商工会議所の住民は海を旅しました。周囲を眺めながらゆっくりと沿岸を航行し、スマの海岸は思わず、その独特の美しさで注目を集めました。この場所がダイソーさんの避難所であることを知って、風の強い女の子は、まるで彼がそれらを見ることができるかのように、興奮して恥ずかしかったです。そして、マダム、ゲストは単に絶望していましたが、悲しいことに、彼らのボートはどんどん引っ張られ、時折、風が彼女に遠くの声をもたらしました、悲しい海岸、それに関連付けられたダイソーのイメージ、悲惨な歌、これらすべてを合わせて、少なくとも敏感な感覚を持つ女性に対して、涙に耐えられないほど深い印象を与えました。太宰の第二は、源氏に次の内容の手紙を送った：「私は、何よりも遠く離れた場所から首都に戻ったとき、まず第一にあなたを訪ねてすべてについて話し合うと思った。運命が思いがけなくあなたを投げつけたこの野生の海岸を通り過ぎるのは、どれほど辛くて迷惑なことでしょう。私の親戚の多くは私に会うべきです、したがって、あなたを困らせたくありません、私はあなたに敬意を払う喜びを拒否しました。改めて私の願いが叶うことを願っています。」その手紙は彼の息子、ティクゼンの支配者によってもたらされた。かつて源氏は帝国公文書館の従業員としての任命を促進し、そのあと一度は彼に後援を提供したので、青年は源氏の人生で起こった変化に非常に悲しみ、彼に非常に同情しましたが、不親切な目線とゴシップに住んでいました、あえて彼の家に残っていませんでした。私が首都を去った日以来、私は以前に親戚と会う必要がほとんどありませんでした、そして、あなたがわざわざ訪ねるために立ち寄ってくれたことをとても感謝しています、と源氏は彼に言いました。彼はまた太宰の第二に答えた。ティクゼンはすすり泣きながら船に戻り、彼が見たものについて話しました。彼の話の聞くと、太宰だが第二人や出会った人たちも大声で叫び、恐怖を覚え、涙がさらに大きな不幸をもたらすことはなかった。後瀬さんは次の手紙を源氏に伝える方法を見つけました。「途中で弦をうたうと船が遅れ、波の間で凍り付きました。混乱した魂。理解できますか？「いや、今、私に非難を浴びせるときではありません。」寛大に」源氏は彼女の手紙を読み、笑顔、そして笑顔は彼の顔にそのような魅力を伝えました他の人たちは自分の平凡さを思わず恥ずかしがっていました。「あなたの船が波のように揺れ動いて、突然平和を失った場合、どのようにして彼女の悲しいスマ湾を追い越したのですか？「釣り道具が私の手になじむとは思いませんでした」とは思いもしませんでした。かつてある放浪者によって作曲された聖句が旅館の主人にもたらされた喜びはさらに大きく、彼女は須磨にとどまるべきかどうかさえ疑問に思いましたか？友人、そして多くの人、

主に天皇自身は、恥ずかしい大正を切望して思い出しました。他よりも、春商工会議所の王子は悲しみました。源氏を絶え間なく思い出し、彼はひたすら泣き、その落ち着きのない悲しみは、看護婦とオメブ夫人の心を砕きました。道に乗り出した皇后は、以前は大予告さえ遠く離れていたいま、悪い予感に苦しめられていましたが、王子の未来が彼女をさらに驚かせました。源氏の兄弟や、かつて親しい高貴な家族の青年たちが最初に手紙を書き、感動的で悲しい詩を彼と交換しました。噂が皇后両陛下に届いた時、彼女は怒り、こう宣言した：法廷の支持を被った人は、自分の裁量で食べ物を食べる権利すらありません。そして、大正は美しい家に住んでおり、不満を示すことさえします。さらに、かつてシカを馬と呼んだトラブルメーカーのように、彼に追従する準備ができている狂人がいます。「もちろん、彼女の言葉はすぐに世界で知られるようになり、ほかの誰もいないほど彼女の恐れが大きかったのです。あえて源氏に手紙を書きました。時がたち、セカンドラインの家の女性は自分を慰めることができずして。以前は東棟で奉仕していた女性は、最初は軽蔑の念をもって「彼女は他の人よりも優れているのですか」といいましたが、彼女の尊厳と友好的な態度、彼女の心に感謝しました。女性の顔を時々見ることができ一部の高位の使用人は、源氏が彼女に自分の考えを集中する理由がないわけではなかったことを満場一致で認めました。

源氏が須磨に長く住んでいたほど、彼の苦痛はより痛くなりました。もちろん、彼と一緒に愛人になってください、しかし、彼が我慢することが困難であったこの貧しい住居で彼女を想像していたので、いいえ、彼が彼女の隣にいるのは適切ではありませんでした。この野生の海岸にあるすべてのものは見知らぬ異例の源氏のようにあり、彼は貧しい人々の生活を見ていたが、その存在は彼が以前に疑ったことがなく、不幸にも彼を驚かせ、彼をそのような不適切な場所に連れて行った運命につぶやいた。時々、彼は近くのどこかで空に昇る細い煙の流れを見たとき、「おそらく、これは火の上にある同じ煙だ」と思ったが、家の後ろの山でいわゆるブラシウッドを燃やしたことが判明した。これはすべて奇妙で珍しいことでした。彼らは山で火をつけます。わたしのところがとても寂しいです愛する故郷の人たち、冬が来て、吹雪が猛威をふるうと、源氏はひどく憂鬱な空を見つめて、音楽の助けを求めました。彼自身が琴をとり、エシキエが歌い、クレミツがフルートを演奏した。たまたま源氏が突然始まった。悲しい、感動的なメロディーを演奏し、それからほかの楽器は止まり、ミュージシャンは涙を拭きとった。かつてフンに配られた女性を思い出した、「源氏は半信半疑でした。」彼女はどうでしたか？最愛の人を遠くまで送ってもらえませんか？」しかし、そのような機会を想像してさえ、彼は身震いし、何も良い考えを約束しないで遠ざけて、「彼女の肌寒い夜の睡眠を妨害しています、」とささやきました。一晩中、ベッドから起き上がることなく、「青い空を見ることができました。」沈む月の光は耐え難いほど悲しく、源氏は静かに、まるで自分のように言った。天国の道はどこに私を導きますか？雲の中をさまよう。月は私を見ていて、私はその前で恥ずかしいです。夢は彼に行きませんでした、そして彼は夜明けの空で悲しそうにシギが叫んでいるのを聞きました。夜明けが近い。聞こえます：お互いを呼んで、サンドパイパーは叫びます。彼らの悲鳴の下で、One が朝目を覚ますのは

それほど難しくありません。みんなはまだ寝ていて、源氏は長い間横になって、この歌を独り言で繰り返した。夜になるたびに源氏は水浴びをし、祈り始めた。彼に近い人々の心に驚きと喜びを呼び起こした。彼らの誰も彼を離れ、少なくとも一時的に首都の家族のために去ることを考えさえしませんでした。明石湾はスミからそれほど遠くなく、石のすぐ近くにありました、そして、道に入る人の娘を思いだして、ヨシキヨは彼女に手紙を送ったが、彼女は答えませんでした。しかし、父親は口頭で次のように語った。「私はあなたのために仕事をしていて、あなたが私たちに訪問する時間を選んだなら」しかし、彼の同意を当てにしていない吉清は、明石に行きたくなかった。不誠実に戻ってきて嘲笑の対象となるだけで、それゆえどこにも行かなかった。しかし、私はこの道に入った者は世界が見たことのない誇りであり、ハリムには統治者の家族よりも強力な家族はいなかったが、彼との関係になる可能性をずっと頑固に拒絶していた。ダイソー氏が近くに定住していたことを聞いて、彼は次の言葉で妻の方を向いた。パブロニアのパピリオンの住人の息子である華麗な源氏は、法廷の支持を得た須磨に來た。これは運命です。私はそのような幸運を望んでいませんでした。私たちはこの機会に彼に娘を提供すべきです。

—なんてナンセンスだ！彼は多くの高位の人々とつながっていたと彼らは彼が天皇自身に属する女性に侵入しようと敢えて言ったので首都の住民から聞いたので、このすべてのノイズから作られました。それで、そのような人は惨めな地方に注意を払うでしょうか？あなたはこれを理解していません！怒って進路に入った。「しかし、私は自分のしていることを知っています。」準備して！できるだけ早く彼をここに連れてきます。彼は自信をもって話し、彼の決意はゆるぎないだろうと感じました。彼の命令により、家の装飾は緊急に更新され、若い女性のための新しい壮大なドレスが縫われました。しかし、母親はつぶやき続けました。この事件は、何らかの不正行為で迫害された男に娘を与えているのが見られましたか？彼自身が彼女に奪われたかどうか私はまだ理解しています！冗談をいっても、そのようなことを想像することは不可能です。しかし、道に入った彼は何も聞きたくありませんでした：迫害された人たちについて話すと、中国の土地と私たちの国では、常にほかの人よりも優れている優秀な才能のある人々でした。彼が誰か知っていますか？結局のところ、彼の死んだ母親 *miyasudokoro* は私の叔父である *Adzati no dinagona* の娘でした。彼女の並外れた美貌は、彼女が自分自身をいい名前にするのに役立つ、ついに宮殿で仕えた後、彼女は皇帝の比類のない好意を勝ち取りましたが、同時に、嫉妬した宮殿の女性たちの心に燃える憎しみを呼び起こし、彼女に抵抗することができなかったため、この世界を去り、息子を残しました。人生の終わりに本当に値する！女性は最高の願望を持っている必要があります。彼女の父親が惨めな地方であるという理由だけで彼は私たちの娘を無視できませんか？道に乗り出したワンの娘は並外れた美しさとは言えないが、彼女の性格は優雅で気品があり、しかも繊細な心を持っていて、礼儀正しさは申し分のない出身の人には負けなかったでしょう。彼女の現在の状況がどれほど重要ではないかをよく知っていた少女は、次のように考えました。だから、私にはふさわしい配偶者を見つける運命はほとんどありません。私の人生

が長くなり、愛する人たちを生き残ることができるようになった場合、私は修道女になるか、海の波に身を投げます。」参道に入った彼は優しく娘の世話をし、神々が願う秘密の願いで年に2回住吉を参拝させた。そんな中、須磨では新しい年に変わり、長い1日がだるいままになり、やがて庭に植えられた若桜に最初の花が咲き始めました。空は雲一つなく、源氏は過去に思いを返して、しばしば泣きました。1年前、第二月の20日に彼は首都を離れ、親切な人々と別れました。ああ、彼が今それらを見ることができたら！おそらく南方宮殿でさくらんぼが開花したのだろう、彼は長年の花の祭典、もはやこの世にいなくなった父親を思い出した、彼の目の前に、彼が編纂した聖句を読むことに熱心なソブリンの優雅な姿が見えた。私は不変のあこがれで、宮殿の喜びを覚えています。かつて花で飾っていた日が何度も訪れました。悲しい日には、左大臣院の三味の忠臣が現れた。現在、彼はSaishoの称号を持っています。裁判長はかなりのメリットを享受し、なんとか法廷の支持を勝ち取ったが世界で彼を喜ばせるものはなかった。憧れで源氏を思い出し、最終的には、宣伝の際に常に彼を待っていた罰を無視することに決め、須磨に行った。彼は友人と喜びの涙、または「悲しみの涙」を見ましたか？一頬を伝わった。源氏が今住んでいる家は、その個性に感動しました。彼には中国人のように見えた。そして実際には、竹のフィルム、石の階段、松の柱などがあります。「このようなものを写真で見る頻度はどれほど多かったのでしょうか。シンプルであると同時に、並外れて洗練されていました。源氏自身も山の住人のようになりました。許容可能な色合いの黄色がかかった下着の上で、彼は緑がかかった灰色のハンティングドレスと同じズボンを着用しました。控えめな服装です。どうやら元旦はわざと地方のようになろうとしたが、今でもハンサムだったので、見ていると笑を控えられなかった。彼の家には最も必要な道具しかありませんでした。「囲碁」「すごろく」を演奏するための掲示板、「タンガ」の付属品は明らかに地元の職人が作ったもので、礼拝用の道具はまるで店主がわきに置いたかのように見えました。提供される料理は特に地元で調理されたものであり、Saishoはそれが好きでした。それから源氏は魚や貝を連れてきた漁師に電話するように命じ、友人たちは彼らを見て、海のそばで彼らの日々を引きずり出す方法について尋ね、彼らは彼らの苦しい生活について話し、彼らに苦しみを打ち明けた。「実際には、これらの人々は、理解できない何かを鳴らして、私たちがのように苦しみます。」とゲストは考え、漁師たちに同情してみました。そして、新しいドレスやそのほかの贈り物を受け取った人々は、「明らかに人生はそれほど悪くない」と喜んだ。最澄は召使として驚きを抑えきれず、目の前に見える納屋のような構造から稲わらを取り除き、近くに立っている馬にえさを与えた。彼は「ウェルズ・オブ・アスカ」をうたい、そしてなき、そして笑いながら、友達は最後にあった日からみんなの人生に何が起こったのかの思い出を共有し始めました。大臣は一日中ため息をつき、愛する孫の運命を心配しました、「日常の難しさのあやみ」と思い煩うことなく、うっとりとして戯れ、源氏の心はあこがれに沈み、会話全体を録音することは不可能なので、やめる価値はあるのでしょうか？

彼らは一晩中起きていて、夜明けに出会って詩を作っていました。しかし、セイズはまだ

宣伝を恐れていたもので、急いで戻ってきました。確かに、彼が来なかった方が良かったのです。それで別れで簡単な粘土ボウルを上げると、ゲストとホストの両方が言う：「酔いは悲しく、涙は春のボウルに注がれています。」そして、存在するすべての人々は、それらを見て、ドロップします涙。悲しいかな、この会議は短すぎました。そしてあなたは分離を後悔できませんか？ガチョウの列車が夜明けの空を横切って伸びています。その春はいつ来ますか、いつ私は自分の故郷に戻りますか？私が見る：ガチョウは家に帰ります、そして羨望は心の中で生まれます。ホストは言ったが、ゲストはまだ躊躇して、彼を手放すことができません。—ガチョウは悲しい、しばらくの間彼らが避難所を見つけた土地を去って、涙に目がくらんで、私は花の都への道を見つけますか？最澄は源氏に首都から故意に贈られた素晴らしい贈り物を贈り、彼は友人に感謝する方法がわからないまま、黒い種牝馬を連れ出します。恥ずかしい亡命の贈り物は不幸をもたらす可能性があるとして多くの人々が信じていますが、結局のところ、「北風が吹いて笑う」馬は珍しい美しさです。「そして、これがあなたへのお土産です」と最澄は源氏に彼の美しい、美化されたフルーツを差し出しながら、言います。人々は見たり聞いたりするすべてのものを間違った側に押し込む準備ができていたので、彼らはもっとお金を払うことはできません、太陽は高く、もう躊躇することはできません。ああ、彼は来ない方がいいよ！—いつ会うの？しかし、同じことを想像することはできません、西翔は言い、源氏は言う：高く、クレーン、あなたは近くを飛んで、近くをノックします。もちろん、希望は私を離れませんが、悲しいことに、同じような立場にいる自分を見つけた過去の賢者でさえ、私が再び首都圏の限界を見ることになるとは思わないので、後で世界に戻るのには簡単ではありませんでした。—空の高い距離で孤独なクレーンが泣いています。憧れの Odruga の愛する人との思い出を覚えています。私は翼から翼へと並んで飛びました。おそらく、私はそれに近かったのですが、おそらくそれに値するものではなかったのですが、今はとても悲しいです。「慣れるまで急いではいけない」そして、彼らの考えや感情をお互いに明かす時間がなければ、彼らは別れ、そして西翔が去った後、源氏の人生はさらに悲しくなった。もっと痛い。その年、第三月は蛇の日から始まった。」今日、心の中に何らかの不安を抱いているすべての人は浄化を受ける必要があります、と源氏の親しい仲間の一人は知っている表情で言った、そして彼自身は海を賞賛することを嫌っていなかったもので、彼らはすぐに海岸に行き、そして源氏をシンプルなカーテンでふさいでいたら、放浪の占い師に電話をかけてすぐに式を始めるように言いました。波に乗って見事な格好の人形でボートを運び去るのを見ている源氏は、思わず自分の運命を自分の運命と比較しました。—突然、突然、波の気まぐれで、果てしない海に放り込まれました。そして、どうやって今、貧しい人形は、運命について文句を言わないのですか？彼の明るく照らされた姿はかつてないほど美しく見えました。輝く海面が波の前に広がり、果てしなく続きました。源氏は過去と未来を振り返り続け、次のように述べています。無数の神々、少なくとも私に憐れみを感じてください。結局のところ、自分の後ろに罪悪感はありません。突然風が吹いて空が暗くなりました。すべての儀式を完了することなく、人々は騒ぎ始め、帰りの旅の準

備をしました。突然、誰もが自分自身をカバーする時間がないように、土砂降りが噴出し、おびえたように、彼らは傘をさすことさえせずに家に急いだ。それを予見するものは何もないうように見えたが、暴力的な旋風が海岸を襲い、その道のすべてを一掃した。波は恐ろしい方法で上がり、人々は彼らの下に足を感じずに走りました。巨大な毛布で覆われ、雷が鳴り響き、稲妻が点滅するかのように、海はきらきらと泡立ち、逃亡を追い越そうとしていた。恐怖からほとんど心を失い、ついに人々は家に帰りました。—私はそのようなものを見たことはありません！通常、事前に嵐を予測することができます。これには奇妙な、不気味な何かがあります。彼らは警戒して家の周りを急いでいき、雷は絶え間なく鳴り響きました。猛烈な雨が押し寄せ、すべての障害物を突破する準備ができました。世界は終わりましたか？人々は恐れに取り乱し、尋ね、そして源氏だけが静かに経典を唱えました。暗くなった時、雷は消え、風だけが一晩中荒れ狂いました。明らかに、多数で上げられた祈りが助けになりました：もう少し、そして私たちはきっと海に運ばれるでしょう。—満潮の日は、水に流されてしまい、振り返る暇さえないと聞きました。ええ、私はこのようなものを見たことはありません。源氏は互いに親しく話しました。朝、みんなが寝付きました。源氏も居眠りして、今や誰かが現れ、理解できない姿が現れ、こう言います：あなたは宮殿に召喚されています、なぜあなたに遅れているのですか？そして明らかに家の中を歩き回り、明らかに彼を探していました。そのあと、源氏は目を覚ましました。「これは海竜の主ですか？彼は考え、恐怖が彼をつかまえた。彼はおそらくすべてが美しいのが大好きだと言っており、私は彼の注意を引きましたか？」そして、彼はもはやこの家にとどまることができないと感じました。

arrows

須磨

アイソ（ガンダイ）、26-27歳

西部ウイング（ムラサキ）のトツソチカ、ガンダイの18-19歳の妻

西部商工会議所の住民、庭の女性、

花が落ちる場所（花ティルサト）—ガンジの恋人

富士ツボ(31-32歳)は、ギシニア館の元王子でイメラトノリツボ・マンの妻であり、アイ・ミイスラ（エギリ）の3軒です。

左大臣、退役大臣—源氏の叔母

左大臣の家から小さな紳士（ユギリ）

5-6歳—源氏とアオイの息子

カイショのトウジョ

源氏の最初の妻、あいの兄弟

トクノヤ・タロフピアイ・アオ

トスポヤ・サイセ・エギリの看護婦

愛人、大名夫人（第三王女）

L大臣の妻、母アオイと To-no Toudze

ソティ王子（ホアル）ーキリツボ天皇の息子

私の兄ガナジ

内の上（ボロ月清）ードン、右大臣、天皇の宮廷女性、ガンルジ・ネゴ・レイカイデンの秘密の恋人ーキリツボ天皇の元コンキュバイン

ウコンノソクロドは、富士通の元召使であるイエノビッチ大メブの息子、近いマナジです。

今、彼女の息子のしもべ、将来の皇帝春の王子ライジ王子ー富士通保義済の息子ー淡い源氏僧侶小津ー村崎の祖母の兄弟

33-34歳 ロア司祭イシュの母、源氏の元恋人

スルザクの皇帝は、キリツボ天皇とコキロン・コレミツの息子

プクシのゴセテイは明らかに、アルザイの日の娘です。

明石から道に入ったハリムの支配者は、かつてハリマの支配者でした。

明石さんの父親（「村崎県の木屋」の頭を参照）

明石さん（17-18歳）の旅の娘です。

源氏の苦難は掛け合わされ、この世界に住むのはますます難しくなり、彼は考え始めました。そして、彼は首都を離れるべきですか？ヒューゴは、多分最悪の事態はまだ道路にあるので、何も起こっていないふりをして怒り続けるべきですか？

かつては避難所の須磨海岸と同じだ

アヤ・ボアへ・アオスー・アイディと彼は素晴らしいフリーシャイアです。

しかし、鈍い地形、さらには魚小屋はあまり会いなかった。しかし、騒がしい首都になる方法は首都かもしれません。

耐え難い。

あありコール、首、ドレスを熟考し、目に見えない立派なあこがれで握りしめた。

彼にとって非常に異質なものの多くは、今、世界は源氏を落胆させた。しかし、テイクを手放すのは簡単ではありませんでしたが、何よりも新しい状態ボックスのために。彼は毎日それが悲しくなっているのを見て、彼の心は哀れみで成長していました。今でも、2日間彼女を残して、彼らが再び会わないことを知っていた、彼は不安だった、と彼女は彼なしで孤独と無力感を感じました。そして、彼が年を離れた場合、分離生活をする必要があります？彼はこの道が彼を導く場所と彼の日付の限界になるかどうか知りませんでしたか？世界はとても壊れやすいので、簡単に「彼が最後に門から出たとき、彼もムークを持っている：あなたはあなたと一緒にそれを取る必要がありますか？しかし、彼女を運命づけるために、とても穏やかで、海のそばの喜びのない生活に、波と風を除いて誰も彼らの孤独を共有しません。

（いや、私は和解できない理由がさらにあるだろうー彼は考え、彼女は彼のケープを貫通し、

気分を害し、彼女が最も困難な道で彼に同行する準備ができていることをほのめかそうとした。

花が落ちるサラからの特別な、それはどんなまれに訪問されたとしても、人生の別のサポートを持たず、彼の世話に排他的に住んでいた、と彼女の悲しみのライウがどれほど素晴らしかったかを伝える必要がありますか？

道に乗り出した主権者は、噂の非難を引き出すのを恐れていたが、時にはひそかに源氏に手紙を書いた。「彼女は以前、私に答えてきたことがある」とテナジは振り返る。「しかし、ヴァアーノ、そのような私の予定です。苦悩で永遠に苦しむために。

アワザットの日の後、第三ドナウ源氏は首都を去った。宣伝を避け、最も献身的で、宣伝を避けるために、少数に限られており、タイムズの剥離は非常に感動的だったので、それらを読む人は思わず甘いにふける。

モン・タイシュコムの変遷、そして私は細部に住むのができない。

2、3日前に源氏は夜の覆いの下で家を訪れていた。

左利きのミヒエツパ。まるで女性が乗っているかのように乗っている。そうですね、ベッドのように思うほど悲しかったです！

退去した愛人の部屋には鈍い荒廃がありました。愛するゲストについて聞いて、看護師、少年たち、そして彼女の死後も家に残った女性に仕えた女性の人々は、彼を見るために集まり、若い召使でさえ、世界がいかに不安定で、涙で満たされ、目の暗闇であるかを認識しました。その可愛い少年は行って走り回った。

「彼がこの時間に私を忘れていないのは感動的なことです」と Yunaz は言いました。

彼の息子をひざまずき、涙から辛うじて遠慮する。大臣自身がについて話に来ました。

私はしばしば自分を操縦したいという願望を持っていた。しかし、私は良いサービスを離れ、深刻な病気の名目で私のタイトルをあきらめたので、嘘つきは確かに私の行動を誤解していたでしょう。「切望された宿泊施設のまっすぐさがあるならば、今私は恐れることは何もないようですが、それでもスローに対する公国の永遠の準備は私を混乱させ、人生のバンの中でどれほど変化したかを見て、私は自分のビジネスに停滞しません：このすべては、律法の終わりの時代を確かに思い出させます。世界がこんな風になると想像できますか？むしろ、私は天がひっくりかえることを確信していた。ああ、それはすべてぎくしゃくしている！大臣は言い、涙が彼の前でいます。

過去の人生でリーシュ：言い換えれば、私以外の誰も私の不幸のせいではありません。単に裁判所の不承認を引き付けたアプロストゥスの偽りの階級や階級でさえも、彼が前に住んでいたように生きれば、それは必然的に全世界の目に彼の罪悪感を悪化させるでしょう。私はこれがほかの国の意見であることを知っています。私はおそらく亡命の判決を受けて

いる、つまり私はいくつかの重罪で起訴されている。そして、もし私が首都にとどまり、何も起こらなかったかのように生きていけば、私の非インネスの意識によってのみ支えられて、私は100を残すつもりですが、私は駅を出るつもりです。「最悪の事態が起こった」と源氏は詳しく説明する。大臣は、目から袖を脱がずに、昔、出発した主権者、彼の別れ、そして天司もスレを絞ることができないことを覚えています。

一方、幼少期の源氏の小さな息子は、彼のフロリックの子供時代の無知で、ある人から注意を要求し、次に別の人から注意を促し、安全にヒーローを見ることは可能ですか？

「私たちが去ったものを決して忘れません、私は今日彼女のために悲しんでいます。しかし、それでも、彼女が今どれだけ悲しむか、思わずケープに来て、彼女の人生の簡潔さは彼女にとってより祝福だったことを想像することは、彼女を助けたので。

それはそれを行うためのひどい方法です。9日くらい、ヘトボを感じる。私が最も悲しいのは、罪のない子供が今になるということです。父のウィーチを導く。右、古い Any と本当に重大な犯罪のためにそれほど残酷に処罰されませんでした。しかし、ヴィアーノ、そのようなあなたの予定ですが、外国の土地ではしばしば似たようなものを得たことが知られています、そこにさえ罰は常に全体によって行われた非難に冷笑されています。あなたのサウチャイでは、乾燥について推測する必要があります。サミのトウジョが源氏に会いに来た。彼らは vinom に扱われましたが、暗く、ガンダイは大臣の家で一晩滞在しました。女性を呼んで、彼は長い間彼らと話しました。

もちろん、いつも密かに、ほかの人よりも優しい感情を持っていたマグロゴン夫人は、今日とても悲しかったので、そのような苦悩「誰かに言いますか？」彼女の顔に振り返ると、ガンダイが捕虜だったことを感じたが、彼はそれを隠そうとした。

みんなが眠りに落ちたとき、彼は彼女に話しかけた。どうして彼は彼女のために滞在したのか？

しかし、夜は終わり、源氏は大臣の家を出るために急いだ。

夜明け前の月は魅力的に美しかった。サクランボはほとんど咲き、枝に残った花がいくつかなく、庭は月明かりであふれ、空の霧が地面から来て、その不安定なベールはプレアマの輪郭を作りました。それは夜明けも秋です。

手すりに寄りかかって、源氏はしばらくの間庭を楽しんだ。マグロゴン夫人は、彼を見て、開いたドアの近くに座っていたに違いない。

私たちがあなたと会うことを想像する。「何が料理をしているのかわからず、何も邪魔されていない、急いで会い、これらの月はすべてお互いに離れて過ごしました。そして、ジンジナは見返りに一言も言うな、泣くだけだ。小さな紳士の先生の先生方の看護婦には、大宮さんからのメッセージが届いています。

「私は自分で話すつもりだったが、光は私の目に消える。混乱の中で感情、私が心の存在を見つけようとしている間、私はあなたが私たちの家を出る準備ができていると知らされましたが、それは夜明けさえしていません。あああ！それは昔に起こったのですか？あなたは

私たちの甘い、貧しい子供が目を覚ますのを待ちたくありません。

涙をこらえながら、源氏は誰にも対処していないかのように柔らかく言います。

私は私のウソをラウス

たぶんそこにあります

かつて鳥里べ山の上のに立ちあがった煙が見える

それは同じです：

「夜明けに分かれるのは辛いですか？おそらく、多くの人がこの気持ちに怒っています。私はいつも「解散」という言葉が嫌いでしたと、小さいは答えます。「しかし、私たちが今日通過しなければならないこと。涙をこらえようと、彼女は鼻の中で少し話す。本物の悲しみは彼女の声で聞こえる！

「何度も何度も私はあなたに伝えたい言葉を深く考えますが、悲しいか。私が今までやってきたすべての人々に対して私がどれほど落ち込んでいるかを理解していただければと思います。さて、私たちの無邪気な枕木をもう一度見せてください。私がこの悲惨な世界を手放すのははるかに難しいでしょう。そういうわけで、私はすぐにあなたの家を出ることを選びました。」とジェナジは言います。

女性は、カーテンの亀裂に来て、彼が去るのを見ます。山の端の後ろに隠れる準備ができて、月の光に照らされたバンジの姿は、特に美しいようです。深い悲しみは、彼の顔を渡し、涙と虎に触れ、ゼロに触れ、結局のところ、女性の多くは彼の冷笑の年を知っています。彼らの悲しみがどれほど偉大であるかを想像するのはトレザノではありません。

はい、もう一つあります。もう少し前に古い愛人の答えをもたらしました：

どこへ行っても

過ぎ去ったから、あなたの道だけ

なら、さらに進むだけだ

煙のトリクルが失われる雲に

嘘をついていない。

新しい悲しみは私に古い友人のことを思い出させ、ガンジの爪が去ったので、女性たちは長い間泣いたので、多くの人が最悪の予感を持っていました。

第二次ディニヤの家の住人は、明らかに、眠れない夜を過ごし、源氏が戻ったとき、女性たちは小さなグループでそこに座っていました。「だから、馬車や馬車から自由な場所がなかったセカンドラインの家では、今では世界はどれほど悲しいかとさびれて静かになりました。

テーブルは覆われ、蹴り上げられ、掃除されます。

何をするつもりなのかわからないの？

ガナジは西ウイングに行きました。女性は、明らかに、メイドの女の子のギャラリーの外で、バーを下げない、ガウボックの崇拜に一晩中座っていました。ウビダン・ジェンジ「ああ、

ついに」彼らはLVOが飛び上がって大騒ぎしました。彼らは彼らが家の周りをうたうのを見ると、彼らは彼らの夜のローブでとても前っぽいです。エナアイは悲しそうに「彼らがこれらすべての月と年にとどまるかどうか、彼らはどこに行く可能性が高い」と悲しんで考えました。

「いつものように、私について最も信じられないほどの疑いを持っている必要がありますか？彼は愛人に尋ね、彼が遅れた理由を説明し、「私の意志をブタ、私は一瞬あなたから離れないだろう。

首都で私の日々が、私はあまりにも多くの心配を持っている前に、私はいつも家にいる余裕はありません。この世界はすでに気まぐれすぎるので、誰かに気分を害する理由を与える価値がありますか？

しかし彼女は答えるだけです：

あああ！今起こっていることよりも信じられないことは何でしょうか？

ラザウカとガンジは誰よりも彼女にとって難しかったし、それは驚くべきことではありません。彼女は彼の家で育った若いころから、彼は最近、無関心を恐れて、彼女に手紙を書くのを完全に停止し、ガンツィに同情を表明するために行くことさえしなかった彼女自身の父親にはるかに近かった。彼女は気づかずにはいられない女性を恥じていた。「彼が暗闇の中にとどまってくればいいのに」と彼女は言った。そして、彼女継母がハンガーであるという噂がありました：

「彼女の昇栄はいかに予想外だったか、そして幸せがどれほど早く彼女を変えたか。そうです、これはすべていいものではありません。彼女は何かの方法で彼女に愛着を持っているすべての人を分かれる運命にあるようです。そんなことを聞くのは非常に不愉快で、父親に手紙を書くのもやめました。だから、彼女は源氏以外に誰も残っていなかったし、差し迫った別居の彼女の考えを悲しませることができなかったのだろうか？

「月と年月が過ぎ、私は決して赦しを与えられません」と源氏は言います。

「私はあなたを私の場所に連れていきますが、私たちは(109)に定住する必要があります。しかし、今では誰の承認にもなりません。裁判所の陰は、何もしない行為にふける裁判所の重荷であるアウハとサアの喜びを見るべきではありませんが、私の後ろに罪悪感はありませんが、予定の必然性は私を和解させる必要があります。もし私が本当に比類のないものを示したならば、私は私たちと一緒に、スヌースくるっている世界を私たちにもたすでしょう。

太陽が地上に高く上り限り、彼は残った(黄土色、鏡の前で髪を矯正して、ペンジが見つけた顔に新しい洗練があった。

「どうやって体重を減らしたの？「私は本当に鏡が好きですか？思わず自分を気の毒に思い始める

彼は栄光の涙でいっぱいの人を見た愛人を怒鳴り、彼の心は痛みで飛び出しました。

私にさせてください

何年もの放浪を待つて

それはとどまるだろう

私の反省

ジェナジと彼女は答えます：

ああ、もし私がそうしたなら、

あなたは私と一緒にいたかもしれない

ヤバは、鏡の中で、分離の

時間に慰め

彼女は自分の言葉を自分のように静かに発話し、後ろに隠れて涙を隠そうとします。「私は多くの女性を知っていましたが、そのうちの一人ではありませんでした。」と、ガナジは彼女から目を離すことなく考えます。

ソティ氏は源氏と長い会話をし、みんな大豆を表現し、暗いときに去った。

花が落ちる庭は、苦痛の手紙でいっぱいになったので、「もう一度彼女を訪ねなければ、彼女は気分を害するだろう」と、源氏は家の外で誰かを過ごすことに決めました。しかし、彼が国家を別れるのはとても難しかったです。

ライカデンは非常に喜んでいましたが、私たちは、重要ではない、そのような注意に値しません。彼女がそれについて言ったすべてを詳細に説明するために、疲れています。

それは非常に無力です。女性はこれらすべての月と唯一の年を住んでいました。彼らの家でどんな荒廃が支配するのか想像するのは簡単です。源氏はすでにとっても絶望で静かでした。

空は薄暗い月を浮かべ、コトテマルの丘の後ろでかなり大きなプロイセンを照らし、木々で厚く生い茂り、源氏は追悼を探さなければならなかった。「崖」を鮮やかに提示しました。

ベルノは来ない一方、サレの部屋の住民を悲しんでいます。

特別な魅力、特に柔らかく優しい環境を知らせる月明かりが彼女の比類のない甘い耳に来た時、残りの部分は静かに源氏を臭った。ユージンはガチョウに近づき、彼らは長い間月を賞賛し、それが来たように会話に気づかなかった。

この時の夜はなんて短いだろう。しかし、それは今までにそのような食べ物を起こるだろうか？そうですね、国から警告を受けるに値する私の気持ちを思いさおかしく生きてきた月や子供たちになるのは残念です。

派手な思い出で、テナジは彼女に過去の日について長い時間を伝えますが、ここでも雄鶏を叫び、言う理由はありません。源氏は急いで出ていく。不本意に月が山の端の後ろに消えていくのを頼み、心は不本意に言う。暗い炎の上には月のまぶしさがあり、月はアセヤを見ている

月の輝きを守った私の袖が狭すぎるのはわかっています。

私は彼を長く保つ方法について夢を見ているだけだ

彼女は良いインズです。彼女のゲチャルは非常に感動的なので、同情を感じないことを不可能にし、彼女を慰めたいと源氏は言います：

あなた自身のものの道は

クナムは月を返し、光を照らし、きれいにします。

そして、あなたは空を見ていない間、

恐ろしい雲で覆われています。

私はこの世界で何かを望むことができますか？出てくる唯一のものは、未知の浮力についての「なく涙」であり、私たちは私の心の暗闇に没頭しています。

前のシシーな夕暮れ源氏は家を出た。

彼は出発する前に何の心配も持っていた。現在の政府に良い関心を持っていない人々のうち、源氏は眠りと下の両方のアオマシュナヤ政権の召使を任命し、彼の不在の研究室は家の中の毛穴の世話をしました：さらに、彼は彼の運命を共有する人を選択しました。彼は、山の住居で行うことは不可能であり、その真ん中にシストラを準備するように命じました。棺は詩人やほかの機関の作品だけでなく、7弦の琴を選択しました。

これ以外の何もないローヌ用品、豊かな衣装なし彼はトーリーズの貧しい住民にすべてを取ることを決め、彼と一緒に取りませんでした。写真から始まるすべてが、西洋のアウトハウスから蛍光を出すヴェルに入っています。源氏は手に路面電車を手渡し、アルギウムが所有する陸地に渡した。残りの召使、保護者、セナゴンへの私の委任状については、彼は多くの忠実な召使の始まりと国家のすべての利得経済が下院を管理する方法の詳細な説明を与えました。

だがしかし、彼らは少なくともそれを握る機会を持っていました。悲しいか、慰めはありません。もし私が生き続けるなら、私はいつか戻ってくるだろう。といった。「待って喜んでいる人は、当分の間、西洋に行ってください：

全ての女性の部屋では、最高ランクと下階級の両方で、彼はそれぞれの名前で、ああ思い出に残る贈り物で服を着ていました。

（サルの彼らの若い息子のオーマイリーは、glesが焦げ付き、源氏はケトフがなければ、日常の生活の中で別れることはできません。最も多様なイエスのかなりの量を送信します。私は沈黙について不平を言いませんが、先住民の人生を苦々しく手放すのがどれほど難しいかを知っていれば。

会議

彼の前で、彼は絶望の中で涙の川に落ちました。

私は流れに取り上げられ、それは私をさらにさらっていきます。

彼らの気持ちはどのような混乱で、価値のあるおなかを見つけるのがどれほど難しいか！

王様は去り、

そして、この分離によって

トラブルが疲れ果てているようでした。

それは私たちの目の前に私たちを得ています。

すぐに砂丘が空に現れ、源氏は進んでいった。彼はダイエットや6人のボディガードを伴って進行に乗り、最も低いものでさえ最も忠実なものから選ばれました。以前のものへのこの旅行がどんなに見えなかったとしても、もう一度言う必要はありません！

ジェナジの悲しい仲間の中には、神聖な虐待の思い出に残る日に彼にスプレーしたウコンノジョノクロドがいました。彼にとっても、希望の時は悲惨なものであり、彼の名前は宮廷人のリストから削除されました。

彼は裁判所に好意と好意を向け、天地にソウブをオンにし、それはここで同じでした。と彼は突然思い出しました。鴨の下の聖域に横たわって、急いで。ガナジの支配者を取った。

その日を思い出して、

髪型のマローの葉があなたのために

話したとき、

私は残酷さを責めざるを得ない。

彼はそれをするつもりはない。「そうですね。それは彼の魂の中でどれほど難しいに違いない。彼は多くの人々にとって残念です」と彼は言います。いそいで、彼は聖域に向かって視線を投げかけ、さよならを言うかのように、次のように尋ねます。

「だから、世界があなたの名前を手放す時が  
神タダスを保証したので、私は長い旅に出ます。

ジュノのドーボク印象的な、見て：賞賛。あなたはより感動的想像することができます！  
この天地は最高の基に達し、主権者は覚えているだろう。

悲しいかに、誰もその地位にはいない、彼を中に入れておく手段はない。

それは彼の喪失を嘆くためだけに残っている。

苦い涙、源氏は彼の悩みについて話します：無駄な答えはありますか？それは鹿の指示のこれ以上ではないですか？

ギラは活気に満ちた道端のハーブで生い茂り、下でそれらを移動しながら、彼のドレスはさらに湿っていました。突然、月の雲、木々の下の濃い黒い影が不気味になった。

彼が逃げ道を持っていなかったという希望を持って、源氏は墓に頭を下げ、暗闇の中で明らかに識別可能であるかのように、王は彼に判明し、源氏は恐怖で冷たく、トウヒは震え、  
何

全ての現在の

しかし、砂丘は雲の後ろに消える

コグラはかなり夜明け、源氏は町に戻り、手紙を書いた：ヌツの春の部屋。ゴンジャは主権者が彼女の代わりに残っていたオメブにそれを渡すために命じられました。

今日、私は最も私が残していないことを後悔している boly のテーブルを残します。「リトリートの前にあなたを訪問する軸。私が今経験することを理解し、王子にそれを説明することを願っています。」と彼は彼女に手紙を書きました。

私はいつ知らない

私は再び首都を見ます

春に

私の時間は過ぎ去り、これからは

山の貧しい住民になるでしょう

彼は桜の枝に手紙を書き、ほとんどすべてのサークルがシャワーを浴びた。

「ほら見てごらん」と大代部は王子に言い、心配そうに見える。

どうですか。オメブは尋ねると、王子は言う：

「あなたが数日間あなたと別れたとき、私は悲しもうずられませんでした。今はどんな感じですか、今のところ何が起きているのですか？

「非常に単純な答え」は、クリンナのガヤールの甘さと機知であるオミヨブは、虐待された情熱に彼女の心を温めた昔に再燃していると思います：彼は当時のように彼女の精神的な視線を聞きました。彼も彼女の愛人も不注意に生きることができたが、彼ら自身が市場に多くの程度をもたらした。そして、それは彼女ではなく、オメブはそのペニーでした。彼女が天地に答えた方法は次の通りです。

「私の悲しみは大きく、あなたに手紙を書く力をほとんど集めませんでした。言葉は悲しくて、心が欲に引き裂かれた」

彼女は支離滅裂に書きました。間違った手で吹き飛ばしの意志を公開：

それは良い外観です

花の速さ、春の消える

しかし、その後、私は希望を試してみる

夢の首都に戻る

行って、春の部屋で奉仕する女性たちは、長い間、まだ何かをささやき、悲しいことにため息をつき、密かに涙をぬぐいました。

源氏を見たことのある人は、暗くなった顔と同様にとどまることができなかつたでしょう。彼に仕えた人々の悲しみが大きければ大きいほど、さらに大きかった。彼の仕事を知らなかつた最も重要でないメイドやクリーナーでさえ、影の下で生きるのに慣れました：後援に執着し、悲しみ、秘密裏に泣きました。見ていないし、しばらくの間、彼らにハードテストのように思えます。そして、早期の分離のアイデアで地獄に誰がとられましたか？

何年もの間、天司は最も高い部屋の最も高い部屋を離れず、彼は彼の調停に頼ったことがない人をほとんど見つけず、今では彼に義務付けられる権利を持つこととなります。最高の貴族の中で、囲碁の役人。

彼らの多くは、ガナジによってそうであり、そうでなければガナジによって神格化され、低い階級の人々はアイシャであり、彼らはほとんどそれを忘れませんでした。誰もが支配者が彼を取り締まるのがどれほど速いかを知っていたので、誰もがガンシーに同情を与える勇氣はありませんでした。：「まあ、私は私の祖先を犠牲にし、彼の敬意を払うために行くだろう

うー彼は何であるか

私は彼の敬意を払いにいくつもりです、その利点は何ですか？

好意から落ちた人は、多くの人が未公開の敬意で扱い始め、ジェナジはこの精神的な世界が完璧からどれくらい遠いかを考えて強化する多くの力を持っていました。

その日、源氏は怠惰を過ごし、愛人と話し、暗くなった時はいつも通り、鋭く狩猟服を着た放浪者にふさわしい、注目を集めたくないうねりを集め始めました。

「ここで、それはそう見える、と月が上昇しました。私を護衛しに出てきませんか。私があるあなたをどう寂しく思うのか、トイの魂の中にどれだけ蓄積され、分かち合いたいと思うだろうとは想像しにくいです。1日か2日溶けているときでさえ、私は驚くほど甘やかされた電子生活を持っています。ゴンジは言い、カーテンを上げると、州の女性に近づいてくるように頼む。

彼女は、彼女がすすり泣きに窒息しているので、彼女は外に出て、敷居を座る。彼女の顔は、月明かりであふれ、言うまでもなく美しく、「彼女の人生は戻る時間がなかった場合、私はこの気まぐれな世界を去るのだろうか」と考えています。将来を考えて、彼の心は毎年、愛人をさらに動揺させたくない、彼は意図的な不愉快さでいう：

私は何です

いつもあなたの近くにいるために

私は人生が時には分離される危険にさらされる可能性があることを知っていましたか？

無駄

私は私の人生のために申し訳ありません。

私はそれがこの価格であるときに、間違いなくそれを与うだろう。

私たちは別居の危機に瀕しています。

彼女の気持ちの誠実さは疑いの余地がなかったので、天地は彼女を別れにくい。

しかし、朝が近づくにつれて、遅延は彼が急いで出ていくために急いだ厄介な合併症を引き起こしたでしょう。

ところで、ジェナジの前には夫人のイメージが容赦なくたち、彼の重い心がボートに座っていました。長い日の時間の中で、風が通り過ぎていることが判明したので、すでに猿の守護者の中で亡命者が湾に到着したので、彼らは短時間途中でしたが、そのような旅はまだトランシェの分け前に落ちる苦難や喜びを知らなかった源氏にとって新しいものでした。

大河の宮殿、オードノと呼ばれる場所は、松の木によってのみ認識することができるほど荒涼とされています。

それは影を落としている

私は中国の土地の放浪者になる運命にある？

ゴールのないどこかで

私が避難所を手に入れる場所、私は知らない

gaia は、波が海岸にあたると、源氏は言いました。なんてうらやましいの？

この有名な古い歌は全く新しい方法であり、彼の仲間には特に感動的で悲しいようでした。源氏は引き返した。彼らがどこから来たのか。山のもやもやの中で失われ、今のところ、彼らはすでにの権利にいるかのように。そしてバドルからのスプレーは手を湿らせた。

山脈の後ろに残って、息は消えました。

しかし、それは今、私たちの上に

雲の同じ住まいではありませんか？

悲しいかに、ここで彼を喜ばせるものは何もありませんでした。

その追悼になる予定の場所は、かつて「海塩が流出し、荒々しい日々を流す」といったことから遠く離れていません。

家は海から少し離れた場所、暗い崖の中、1つのVIAに立っていました。

誰が怒っていたか。外の神から始まる周りのすべては、ガンジをみて珍しかったです。リード屋根の下のギャラリーラインに似た長いミスカンゴで覆われた家は、それなりに赤く、そのような地域はタナシを真新しきで打つために生きていて、過ぎ去った時代の喜びを自由に思い出しませんでした：「確かに、このすべてで、特定の魅力があり、ほかの状況で」ゲンディは彼の近くの財産のマネージャーを呼び出し、ホームプラダの最も献身的な召使の一人であるヨシヨ・アソンは、家の改造に関連するすべての心配を引き受けました。彼が拍手するのを見るのは感動的だった。

比較的短い時間で家は完全に整えられたが、ビューは彼の目で彼を喜ばせた。庭には水が置かれ、木々は至る所に植えられ、穏やかにガンジでさえ新しい環境に慣れ始めましたが、彼はまだこれがすべて現実に起こっていると信じていました。

地元の支配者はシャトルで、有名な源氏であり、密かに彼の場所に位置していたので、常に奉仕する準備ができていました。源氏の家、gleとクーガーは、時折のノームとは何の関係もなく、自分の考えや気持ちを表現する人がそばにいなかったとう事実だけで、焼けた、しかも奇妙で体調の良い土地に忍び込んでいたように見えました。

「何年も何年もここに住むことができるでしょうか」と彼は恐怖で考えました。

そしてジェナジの想いは思わずけっしてけっしてけがに突入した。彼らの多くはあこがれで思い出し、何よりも私は泡リノがまだ彼の心の前に立っていたザタッドのアウトハウスから離れていたいと思います。彼はしばしば彼の部屋の春、彼の若い息子の彼がその日どのように不注意に演奏したかを考えました。そして、ほかの多くの人について。源氏のスケートの終わりに。

首都にメッセージャーを送った。彼は2行目の家から夫人に手紙を書くことができ、途中で自分自身を設定した主権者は、涙が彼の目を覆うように、ブラシを取り上げるとすぐに。それが彼の酔っぱらいだ。

貧しい都市の遠いパイン島で

スマの住人は塩辛い海水から

ラティエを濡らしました。

悲しみはいつも私の心の中に生きていますが、今では光が私の目に消え、過去と未来は暗闇の中にあります。右、「彼女のゾッドでさえ、すべきです」

私はしたいと思います。

1980年代に彼は伝えられる意図されたものの中に彼女に手紙を入れました。

私は過去について知っています。

それは良い場所です。

ここでのミーティング

草は望ましいです

須磨海

あの漁師は何と言っていますか？

塩の多くは何ですか？

しかし、彼のすべての手紙の内容を想像することは難しいことではない。彼女の息子について話すためにボットを教えるように彼女に頼んだ。

手紙は首都に届けられ、多くの苦い涙が流されました。

セカンドラインの家からのゲストは、ベッドから着用されていないほど必死でした。彼女を慰めることができない、彼女のAに仕える女性は彼女と一緒に再び行く。ガナディを使って琴にしたヴェイクを見ると、そのひもが彼のバラに触れ、円が残した服の香りが、まるでこの3月を永遠に去ったかのように泣いた。彼の衰退の中で、セナゴンは僧侶ソズを呼び出し、彼女の部屋で祈るために彼を残さなかった、と愛人のために哀れみで彼は彼女が彼女の魂の中に慰めと平和を見つけることを祈った。源氏がテーブルにもどって癒されるように。

道路の睡眠アクセサリーを集めた女性たちは、テナアイ・タヤディアにドレスを送り、厳しい白い生地から守っていたので、彼が慣れていたものとは異なり、愛人は涙を流すことはできませんでした。彼女はタナシが彼女に話した鏡を決して別れませんでした。「あなたはあなたと一緒に残っています」が、悲しいかな、それは良いことです。彼女がドアを見つめながら、源氏が彼女の小屋に入り、彼が傾いたヒノキのポールに座って、彼女を心から圧迫しました。彼女の代わりに、高齢者でさえ、古い、古い、古い、この世界のビシチュードへの分裂は精神に落ちただろうので、彼女は回ることができなかった、売れ残った

彼女が縛られていた男から離れていた無限の人は、彼女をとっても慎重に育て、彼女を父親と母親の両方に置き換えましたか？これを残します。

遠く離れていても、彼らは「いつ再開するのか」を知らずに別居しなければならなかった。

それが彼女を絶望に駆り立てたのです。

国務省の悲しみは、春の部屋の王子のスーサブに対する不安によって悪化しました。そして、彼女は彼女の運命が非常に強くつながっている男に落ちた逆境に等しく残ることができるでしょうか？何年もの間、彼女は心の奥深くに彼女の気持ちを隠し、恐怖で震え、彼らのチ

ユボの現われが普遍的な非難を引き付けることを認識しました。彼女は thes をやった、ブアトは源氏の苦しみに気づかず、厳格で難攻不落に見えようとした。今、彼女の考えを過去に戻して、彼女は秘密の保存が彼に負っていることに気づき、蛇の巧みな願望に屈せず、常に良識に敬意を表し、彼は自分自身を表現せず、言語がどれほど邪悪であろうと、誰も少しの疑いを持っていなかったからです。そして、彼女は彼に同情し、最近悲しむことができませんか？

彼女の答えはいつもより暖かかった：

「悲しいか、毎日

彼女はケースを持っています

パイン島では、塩は涙から

抜け出す

焚火に苦情を投げ込む漁師。

「焚火は洪水で照らされます。

愛の炎は目から隠されています。

煙は抜け道がない、

胸は私を押し。

しかし、そう、これについてももう一度各価値がありますか？

ネイジーの答えは、彼女の召使、チューンゴンからの手紙に埋め込まれました。そして、彼女は女性の悲しみがいかに計り知れないかを書きました。手紙の中の多くはゲンディに非常に触れているように見え、彼はため息をつき、読書とペンを読んで

西洋のアウトハウスからの夫人の手紙の中で、彼女はそのような優しさを運びました。

波の尾根の後ろに、

あなたは海への誓いを描きます。

ああ、あなたが見た場合

私は私のヘッドボードにそれを持っています。

送られた服は巧みに塗装され、美しくシシットでした。女性の完成度のコースのどれだけを見て、源氏は彼がこの海岸で baw を生きることができるかについての彼の奇妙で無意識のうちに考えを嘆きました。だから、ここで誰も彼の注意を要求しないだろうし、それは一人で彼女のものだっただろう。そして、昼も夜も彼女のイメージが立つ前に、思い出が非常に痛くなり、再びゆっくりと彼女を自分の場所に連れていきたいという願望を持っていましたが、彼は常にケープから「オーシュは妄想の蛇を考え、自分自身を浄化しようとします」と拒否しました。

使者はまた、左大臣の家からの手紙を持ってきました。彼の若い息子がアニを運転する方法について読んで、源氏はあこがれの新しいフィット感を感じましたが、彼の手の中で自分自

身を遠吠えしようとしてしました。「確かに彼に会います。そして、彼は良いニュースをたくさん持っているのだから、心配の原因はありません。しかし、彼は彼のようにほかのリュウティをさまよわなかった。

はい、もう一つあります：最近の混乱の中で、私は源氏司祭イザの住居に手紙を送ったことを伝えることを忘れていました。たまたま、そこから少し早くもゴニを送った。

ミアスドコロの手紙は心からやさしく、独特のなにく、手書きは自然の真の洗練を証言しました。

「まさにその日から私の、私はあなたの人生で起こった本当に信じられないほどの変化のニュースを聞いたことがあります。私はそれがかなり通過することを願って、あなたが戻ってきます。しかし、悲しいかに、そのミットはどこまで、私があるあなたをほめかすとき、私は非常に多くの罪に取り除かれています。

海のそばで苦い草を

多分、あなたはそれを覚えています。

塩のように

草から遠くの須磨に流れる。

そうですね、誰もがこの世界でどれほど悲しいか、そして、その先には何がありますか？

「彼女の手紙にはそのような帽子がたくさんありました。

干潮時でも、運の殻を見つけることができません。

空の希望

彼女はこの手紙を書き、圧縮された胸と外側に圧迫する感覚を抑制することを気にしないときはいつでもブラシを延期し、最終的には4-5枚の白い中国のブーマーを描き、死体の移行は、弦の比例性が驚くべき完璧に打たれました。

社内の前の時代、女性はジェナジの賢明さに親切でしたが、左大臣の家で起こった不幸の後、彼は彼女から恐怖で反発し、彼女が起こったと不当に非難しました。彼女は落胆している。彼の冷たさは、彼を手放すことに決め、去った。今それを思い出して、源氏は彼女を哀れみ、自責の念で彼女を苦しめた。

このような状況で受け取った手紙は彼にとって特にうめき声に見え、暖かい感情を経験している使者でさえ、源氏は彼を自宅で3人拘束し、イザのミアエ・スドコロの生活についてよりよく尋ねたかった。

ゴンクンドは非常にまともな外観の若者でした。通常、召使

このような窮屈な状況の中で、ガンダイは今、この未成年の男性でさえ彼に近づいて、彼を垣間見ることができますが、まだ彼の顔を見ることができると生きていました。もちろん、私はそれが限界でないことを感謝します。ガンジが何を描いたか想像するのは簡単です。

「もし私がこのように首都を離れなければならないと知っていたら、私はおそらくあなたに従うでしょう。私はしばしば私の現在の存在の鈍い怠惰の中でそれについて不機嫌に思います。

収集するよりも権利  
須磨苦草では  
それは良いだろう  
イセの住人の船で  
海のスイング水の上で

漁師を投げる  
彼自身の不満の焚火で、  
そして塩の滴  
長い時間がたつよ。  
私はこれを見る運命にあるのですか？

いつ間に合うの？私の憂鬱は役に立たない」  
だから、彼は彼からのニュースを待っていない、心配したくない、多くの人に話しました。  
メッセンジャーはまた、花が落ちた庭から手紙を持ってきました。ガナジに反応して、二人  
の女性は、別れの時代に彼らの心を生み出した考えや感情を彼と分かち合うために急いで  
いました。彼らの手紙は非常に忙しく珍しいようで、彼らは彼の暗い考えを扶植することが  
できました。同時に、彼らは新しい悲しみの原因を植え付けた。  
「ストレート、イライラ草が近づいてくる。

重量と帯光

私の袖の上に横たわっている」

とりわけそこに書かれていた、そして確かに、厚い嵐を除いて、彼らは今、人生のサポート  
を持っていません。土砂降りの泥の時に壁の一部が崩壊したと聞いて、彼らの家はぴったり  
と、タンジは家政のアル・サーヴァントの適切な指示を受けて首都にメッセンジャーを送ら  
なかったので、首都の近くに位置する自分の非難を引き起こしたので、彼らに措置の対象を  
取るように命じました。

ニヤクシの神さんは、彼女の名前が冷やかしのために踏みつばかれたことを非常に懸念し、  
アル娘よりも彼女を愛する右大臣は、繰り返し母と彼自身が主権者の前に彼女のために請  
願した母のつま先の傍受を求めました。結局のところ、天皇は、特に彼女が星を持っていな  
かったので、彼が彼の寛大さに限界を設定し、彼女は最も普通の責任を引き受けたので、彼  
が彼女を許すのを妨げるものは何もないと言いました。それに、彼女は彼女のまづい仕事の  
ために彼女を罰するつもりはないのですから。アッシノカミは赦しを受けて奉仕に戻った  
が、それでも彼女はずっと前に誰のために年を取るのをやめなかった。

喧嘩のパーゴがしばしば彼女を独り占めし、その後、彼の感情の不変性を彼女に保証する熱  
意に触れて、非難に打った主権者の並外れた好意を楽しんだ。

王は自分自身が非常に得意でしたが、グラディアは彼の穏やかで、おとなしいあなた、恩知

らずなナヤーしかし、カミは常にほかの人を覚えていました。

かつて、彼らが彼らの音楽を聞いて楽しんでいた時

「誰も私を見逃せないと思う。しかし、その不在はもっと悲しむべきリディがあります。:

そう、世界は輝きを失ったようです。私はそれをするつもりです。

前者の主権者の最後の契約、そして報復が将来私を待っています。彼は嘆き、引き裂いた。

彼は2000年前の天セイシーの神です。

「私はこの世での生活を恥じてきたので、長い間その中にとどまりはしたいとは思いません。私の出発があなたの心の中でどのように目覚めるのか知り合いはいかがですか？それは永遠にあなたを残していないにも関わらず、あなたが今よりもはるかに少ない悲しみを悲しむと考えると痛いです。ああ、そうですね、言葉、私は今あなたに会いたい、ふさわしくない人が言った、と天皇は言う。彼の声はとても柔らかく、とても感動的に聞こえるので、彼の悲しみは、目から新しい涙の流れが噴出します。

「さて、あなたは誰を悼んでいますか？天皇は尋ねる。「まだ子供がいられないのは残念です。私は春の寮を私がハングアップしている方法でロックすることを決意していますが、私はそれによって鎮めることができるのではないかと思います。

政府の原因は、この意志に加えて、彼の甘い軍曹には堅さがなく、あまりにも多くの公開するために彼に来た。

一方、おどろくほど悲惨な秋の風で、夜には非常に大きな海の波があり、きっと「前哨基地は恐れていない」というでしょう。

そう、秋がそんなに悲しいと報告する世界の他の場所はありません。

夜、数人の仲間が寝ていると、彼は眠れず、「ヘッドボードを持ちあげる」と彼はおしりの摂取に耳を傾けました。波がロッジ自体を織ろうとしているようでした。彼の目から涙が流れ、その間すでに。

それは再浮上でした。猫を連れて、指で弦に触れたが、自分の手で生まれたアヴェックでさえ、何か不気味な音が聞こえ、遊ぶのをやめた。

そして、波の海の私の壁をエコー

誰がやるの？

彼は突き刺され、彼のゴドスの音に近似され、子犬のような鋼鉄を賞賛し、涙に感動し、ぴったりと寄り添い、

彼らは今何を感じるべきでしょうか？彼らは彼をラディシはじめ、彼らは決して別れたくない良く取られた家族や友人を持っています。そして、彼らはそれらをさらに大きな選択に入れる方法についてとても暗いです。

そして、手の中で自分自身を打ち負かそうと源氏は彼らの秋第二を復活させるために、彼の仲間と一緒にいくと、ラスコノベジーを始めました。退屈から逃れて、彼はアナムト全体が描く技術で練習し、このシルクの多色の紙のために拾い上げ、それらを互いに接続しました。プレノコドの中国の絹に彼は絵を描き、その後作られ、絹のシラスは賞賛を表明しました。

ガナジは何とか彼らについて自分自身を提示することに成功し、ライチョウは彼らをまじかで結び付けて認識させることでした。

岩の多い海岸は紙の上であり、それはスクワットです。

「私はこれを行うことを知りません。」と彼の仲間を嘆きました。

この4人のイオル5人は悲しみの夢を残すことを考えることができませんでした。

彼に仕えることを大変光栄に思う。

美しい夕方の時間の1日。庭の花が私にあたった。

色の明るさと明るさで、源氏はギャラリー、海の噛まれた種類です。ヘスマンニーは畏敬の念を抱く場所のいたるところにいて、ここで耳が聞こえなくなったので、彼はさらに男のように見えました。

「カストラ・シオンの生地で作られたシルク」はゆるく結ばれたベルトで、この明るいローブドレスの上にさりげなくドレープしました。彼はゆっくりとスグラを読み始め、弟子になる前に正しい、ゴドスを見つけないように、世界のゼドムの中でより美しいです。

漁師の荒い歌が聞こえ、彼らのボートは海軍の海岸から、波の中で揺れているように見えません。空に引き伸ばされた低いタシの文字列は彼らの叫びはとても簡単に陽気にきしむと間違えることができます。黒いロザリオを持つ鋭いアンチドッグで白い彼の手は、テーブルに残された妻にあこがれる人でさえ慰めになるような美しさを打ちます。

これらの最初のガチョウ

友達じゃないの？

大豆の道の外に

彼らは多くを必要とします

とても憂鬱な叫び声、トレーニング

源氏は言い、吉代は次のように付け加えます。

「見てごらん」

ロープは記憶に書かれます。

その後、ミムバの日焼けが入ります：

不滅のゴイ・ナメの住まい。

以前は彼らは雲の反対側から遠く離れているように見えました。

そうやって春は複雑です。

ガチョウの放浪者

天国の広大な空間で

彼らは一つの慰めを持っています。

誰もバックから反撃しなかった。

この男は天地の運命を分かち合うことを決め、彼が支配者に任命されたヒタティに父親に従うことを拒否したので、彼の打撃を切り取った苦悩を見て、ショーの外向きの落ち着きは残っていました。

しかし、ここ空に、そのすべての素晴らしさは月を浮かべる。ガンジはそれが15日の夜であることを思い出させ、彼の心は事実の岬の状態から圧縮されています。どのような美しい音楽はこのmitを咲かせるが、アヴォルス彼は今、多くの百の家で月を賞賛する方法を想像し、彼はアイナアクから目を離さない。

「古い私の心。彼はそれを運び、そして、すべてのスナトは涙の頬を流れ落ちる。天路は王の母親がといたとき、そのミットを覚えています。彼女の隣のラッチには時計があり、終わりのないループで涙が流れ、

「夜だった」と彼は思い出させる。しかし、彼はまだ遅い。

私は月を見ている

あばたきの憧れ、遠く離れた

また彼女に会おう。

彼はその夜ジェナジを覚えている。

主権者とのあおいと彼は本当に異常に取る。

「皇帝は私にトグアのドレスをくれた、それは今私と一緒にです。」と彼は新しい外観に言及しています。これは彼と別れるためのものではありません。

私の心の中で

そして女の袖は

そして、右は両方とも無尽蔵の涙から流れています

首都の時間として興奮した家族は大きく、娘たちはそうではなく、首都のイクエンへの道は満たされ、北部の住民はすべて海のそばに来ています。

周囲の二ダムに横たわっている海岸を見るのは簡単ではなく、スマのほとは一種の染料で絶え間なく寄り添っています。

私たちはこの場所が風の強い国家の避難所として機能することを学びます。

風はそれに関連する彼女の遠い声を垂らしました。

女性ですが、少なくとも涙から遠慮できないという感覚を持っていた人には

「私は若い場所に行ったと仮定してきました。

お前はスアだ私は近くの多くのモンズに迎えられるべきです。私はそれをしなければならぬでしょう。あなたを困らせたくないが、彼はあなたの名誉を目撃することを拒否した。

いつか、私の願いを叶えられるだろう」

手紙は彼の息子によって届けられました。

彼はアルカによって任命された。

彼に後援者を与え、ゾノシュは苦しんでいました。

彼は拒否権を持つつもりはなかった。

「私がテーブルを出た日から私はほとんど胸の前に私の愛する人と風に来なかった、私たちはメンールを訪問するために意図的に来たことに非常に感謝しています。」とガナジは彼にも答えました。

彼が聞かれたとき、泣いたので、最大の不幸のを先導しなかったもので、それは怖くなりました。

歌う弦

ボートは恐怖に巻き込まれた。

そして、彼女は波の中で凍りついた。

くしゃくしゃになった魂を理解しますか？

「いいえ、今は非難で私にシャワーを浴びるときではありません」恩着せがましいです。

源氏は彼女の手紙を読み、微笑み、笑顔で彼の周りの人々が思わず、彼らの孤独を恥ずかしいと思うような魅力を彼の食事に知らせ、

「あなたのボートなら

良い方法で

平和のソーレ

スマはどうやって通り過ぎたのですか？

彼女の源氏に伝えます：

誰もが宿の所有者にどんな喜びをもたらしたかを知っています

彼女は須磨に滞在しないとさえ思った。

一方、テーブルの中では、日と月が連続していました。

多くの日と月が置き換えられました。

絶え間なくジェナジを思い出し、彼はひどく、そして彼の不愉快な悲しみは看護婦とオミブの心を押しつぶしました。以前に主権者の道に乗り出した主権者は悪い感情に苦しめましたが、大正でさえ遠く離れていたいま、彼女のいたずらの未来はまだ痛いほど驚いています。

源氏の兄弟や若い男性は、彼が以前に一緒にいた貴族の兄弟と若い男性が最初に彼に手紙を書き、彼と触れる中国の詩と交換し、そのうちの多くは世界で普遍的なものを喚起しました。ゴームに関するうわさが主権者の母親に届いた時、彼女は怒って言いました。

「裁判所に好意を持って落ちた人は、自分の裁量で描く権利はありません。そして、デイジーヨは住んでいて、証明の欠如さえ証明することさえあえてです。彼に従う準備ができてい、まるでトラブルメーカーのように。

もちろん、彼女の言葉はすぐに世界で知られるようになり、導かれました

彼女の前では、ほかの誰も描く勇気がなく、2行目家の愛人は最初は「彼女はアルギから遠く離れているのですか」と彼女は最も感謝の気持ちを抱いています。可能になってきた。

ジェナジが彼女に自分の考えをしていないことを認めました。

ジェナジがスマに住む時間が長ければ長いほど、彼はより苦痛になった。しかし、彼でさえ我慢するのが難しかった。それを想像してみてください。いいえ、今、あなたのそばに彼女を持つことは適切ではなく、誘惑がどんなに大きかったとしても。

野生の海岸の原子は、珍しい、彼は貧しい人としてナバのように見えたが、その存在は

彼らの生活の中で上記を気取らずに驚かせ、そのような不適當な場所に彼をもたらしまいした。

時には、どこか近くの空の薄いセントに上昇するように。

薪の後ろの山の中でいわれました。それはとても奇妙で珍しいです。

南東のトーリーズの

焚火

私はとても孤独です。

冬が来て、吹雪が襲ったとき、ガシは荒れ狂う恐ろしい暗い空の憧れで、助けを求めました。

彼自身が絵をうたい、コレミツがフルートを弾いた。時にはテンジは始まった。

悲しい、感動的なメロディーを過ごすために、そしてほかの楽器は沈黙し、ミュージシャンは涙を流しました。

しかし、その可能性を想像しても、彼はうそをつき、自分自身から取り除いた彼の行き届いた考えは過ぎました。

「彼女の肌寒い夜を断ち切る。

明るい砂丘の光が家を貫通し、放浪者のこのランダムな避難所の最も遠くに落ち着きました。肌を立ち上がらずに夜に、「青い空が見えた」月の光は耐え難い憂鬱に追いつくようになった、と天治は静かに、自分自身に言いました：

「私はちょうど頭に行くつもりです。

彼らはどこに行くのです

私は天国の道ですか？

私に多くの仕事を行っている

そして、私は自分自身を恥じています。

ソヌは誰にもいかなかったし、澄んだ空で泣かしたかのように、彼はいびきだった。

夜明けが近い。私は言う

お互いに呼び出し

ウエーダーを叫ぶ

叫ぶのはそれほど難しいことはありません。

朝に一人が目を覚ます

私たちは同じように眠り、ガナジは長い間横たわっていました。

毎晩、ガナジは洗濯をして祈り、セレナーションをかき回し、

青白いセレシアをかき混ぜました。彼らの誰も彼と少なくとも首都で彼の家族への短い旅行を残すことを考えることができませんでした。

明石湾はスマのすぐ外に文字通り手で娘について話し合うイエキヨは彼女に手紙を送ったが、彼女は答えなかった。しかし、原告は彼に次の言いものを与えました。「私はあなたのためにケースを持っており、あなたが私たちを訪問する時間を選択した場合、彼の同意のために支払わない、戻って冷やかしの対象になるために明石に行きたいという願望を表明し

なかったので、誰も行きませんでした。

そして、入った道は光をしなかった誇り高い人であるとはいいがたく、ハリムには支配者の家族はいなかったが、アイショ氏が近くに定住したと聞いて、長い間頑固に機会を拒絶し、彼自身の言葉で上役に向かった。

須磨に、舗装された裁判所の華麗な源氏の息子が来ました。それは運命です。私はこの種のスラグに入りませんでした。私たちは彼に娘を提供するつもりです。

なんてナンセンスなんだろう。首都の住民から彼は王子審に属する女性にあえて襲われたといっても、彼は多くの高原住民と一緒に座っていたと聞きました。それでは、そのような人は哀れな地方に注意を払うのでしょうか？

「あなたは理解できない！自分が何をしているのかわかっています。私が彼をここに連れてくる最初の機会に彼は自信をもって話し、彼の決意は振り回されないと感じました。彼の命令で家は緊急に装飾、新しい、豪華な衣装を更新しました。しかし、母親

「何らかの理由で事件を起用する問題ですか？

そう冗談を言っても、そのような想像は不可能です。しかし、何も言いたくありませんでした。

迫害を受けた人々について話せば、タイの土地で

劣勢。彼が誰だか知っていますか？結局のところ、彼の死んだ母親、ミアストコロは私が持っているアザエテイの大英の娘でした。

私はそれをするつもりはありません。私は知らないし、私は仕事ではありません。

王の好意は同時に嫉妬の女性に心に燃える惜しみをかきたて、そして、彼女の息子を残して世界を離れることができないことに気が付きました。彼女に立ち向かい、この世界を去り、息子を残す。あなたの人生の堂々とした終わりを完了することができるように！女性は最高の願望を持っている必要があります。彼は父親がスナップであるのと同じように、私たちの娘を無視することはできませんか？

アオキアは道に入ったが、悪徳の外れた王冠と呼ぶことができなかったが、彼女の特徴は、彼女が奇妙な心を持っていた以外に、穏やかで高貴であり、マナーの恵みは完璧な起源の人にほとんど道を譲らないだろう。彼女の立場がいかに重要でないかを完全に譲渡し、少女は考えました：「高貴な男は決して私に注意を払うことはありません。だから、私は夫を見つけるつもりはないと思います。もし私の人生が長く、愛する人を生き延びることができれば、私は修道女になるか、海の波に身を投げるでしょう。

彼は優しく娘の世話をし、年に2回、神々が彼女に与えることができないという秘密の希望の中で、彼女を住吉で礼拝することを支配しました。

一方、須磨では、その怠惰の中で伸びた新しい長い日に道を譲り、すぐに、若い桜に植えられた最初の花がありました。

空は雲のない、源氏は過去に戻り、しばしば涙を流した。

1年前、第2月の20台で、彼は彼の心の手放して首都を去りました。ああ、もし彼が今

彼らを見ることができたら。

桜はすでに南宮殿に咲いていました。彼は花のごちそうを思い出し、彼の目でこれ以上なかった彼の父親は、すでに自分の源氏、詩を持っていることを選択した主権者の優雅な姿を立っていました。

雪の憧れ 私は宮殿の喜びを覚えています。

ここで彼は再び来た。

花で飾って過ごしたの？

最も悲しいアーニャの一つでレオ大臣の家からサミーのトウジョが登場しました。今、彼は、酒生のランクを身に着けていた。多くのアオストで、サイショ氏は世界ではそうしなかったアオールすることができました。

彼は他の人を見た。喜びの涙—または「涙悲しい」源氏が頬に住んでいた家は、彼の珍しい中国人で台機を襲った。彼はどのくらいの頻度で写真で似たようなことをしかねませんでした！スキャンから単純かつ同時に異常に。

源氏自身も山の住人のように見えました。彼は緑がかった灰色のドレスと同じ手袋を着ていました。控えめな衣装以上の衣装。

どうやら源氏は地方のようになろうとしたが、今では見栄えが良く、笑顔に抵抗することは不可能だったようだ。彼の家には、最も必要な道具、平和しかありませんでした。

私たちは右を見ていました。

「行く」と「スホリック」のゲームボードは、明らかに地元の巨匠によって作られた「タンギ」のアクセサリーは、祈りの儀式のための道具は、所有者がちょうどそれを延期した外観を持っていました。特に地元で料理を作り、さしおはそれを味わいました。その後、源氏は魚や貝殻をもってきた漁師たちに、友人たちは彼らを冷笑し、彼らが海でここで日々を過ごす方法について尋ねました。「そうですね、これらの人々は賢明でないなにかをさえずり、私たちと同じくらい苦しんでいます」と、ゲストは漁師を同情的に見て考えました。そして、新しいドレスやほかの贈り物の半分の男性は、「それほど悪くない、人生」でした。酒は納屋の前に見える構造から稲わらを取り除き、近くに立っている馬にえさをセットし、召使としての彼の驚きを封じ込めることができませんでした。

彼は「アスカの井戸」をうたい、泣きながら笑い、友人たちは最後の出会いの人生で起こったことの思い出を共有しました。

「大臣は一方で彼に困難を追わずに、うつろっている隆起の運命を心配しています」と、スキーを絞りました。

同じ上に全体の会話を描く方法、それは滞在するのその中に価値があるのか？

夜、彼らは目を覚まし、詩をまとめて夜明けに会いました。しかし、サヨンは宣伝を恐れていたの、後ろに曲がった。そうですね、彼はそうならなかったでしょう。

実際、別れの簡単な Ain ボウルでは、両方、そしてゲストとホステスは言います。：

「酔っぱらって、春のボウルに涙が流される

そして、彼らを見て、存在するすべての人は、彼らの涙を落とします。悲しいかな、この会議は口に入りすぎて、私たちは別れを公開することはできませんか？夜明けにガチョウが描かれます。

「私は戻ってきます。

私は運転している。ガチョウは家に飛んでいる

そして、羨望は心の中で生まれる。

ホストが言い、州は彼と別れる力を持っていません。

「トゥ氏は悲しい、

その土地を離れて、私たちはしばらくの間避難所を見つけました。

花の首都への道？

サショは、首都からアルヤによって意図的に持ってこられた推進された贈り物をタンジに提示し、彼はドルアットに感謝する方法を知らずに、雀を引き出し、

「多くの人々は、不名誉な亡命者の贈り物は不幸をもたらすことができると信じていますが、結局のところ、「北風が吹き、それは錆びるでしょう。

馬は珍しい美しさです。

「ここには問題があります」と、エネジーの美しく美しいフルーツのサイショは言います。

人々は彼らがやるべきすべての間違っただ側面を解釈する準備ができていますので、彼らよりはより多くの余裕はありません。

塩が高くたち、大きな塩は立てず、さしが出てきて、源氏は視線を見送る。ああ、彼が来なければよかったのに。

私たちは今会う運命にあるのはいつですか？しかし、それでも、それを想像することは不可能だからです。「ささお」といい、源氏はこう言います。

「高い、クレーンあなたは飛ぶ。近くに雲を持つ。

そこから、天国から

あなたは見て、私はきれいです。

春の日がどのように浸水しています。

もちろん、希望は私を残しません、悲しいかな、そのような状況に自分自身を発見した過去の賢明な夫でさえ、いつか私が再び資本限界を見るとは信じられないので、世界に戻るのは簡単ではありませんでした。

曇りと離れた孤独なクレーン

憧れで思い出す

彼はクハイアイの隣を飛んでいた。

しかし、私たちは奇妙な人でしたが、私はそれに値しません、そして今、私はとても悲しいです。そして確かに無駄ではないという。「慣れてはいけません。

彼らは私にすべての考えや感情のドルンを聞かせなかった。彼らは怒った、と飛行の後、ガナジの人生はさらに悲しくなった。さらに叔母。

その年、三月は蛇の日から始まりました。

「海を見たいと思っています。」とガンレスン氏は言い、すぐに上陸し、テナシを簡単なカーテンで封鎖し、誤ったガスマンを呼び出し、波が緑豊かな人形でボートを運ぶので、すぐに Tlyad の儀式にスヌートしませんでした。

「それはいいことではありません。」と、彼が言いました。

無限のうなずきに捨てられた波の気まぐれで私はそれをするつもりはありません。

運命について不平を言うてはいけませんか？

彼の明るく具現化された姿はこれまで以上に美しく見え、輝く海面は彼の上に広がり、終わりはありませんでした。過去と未来を振り返り続ける、とガンジは言った。

「神々の無数の神々、少なくともあなたが私に慈悲を持っているのは残念です。

私は後ろに罪悪感を持っていません。

突然風が吹き、空が暗くなった。そして、すべての列を完成させることなく、人々は動揺し、帰り道に行く、誰も彼の手で覆い隠す時間がなかったので、土砂降りが噴出し、恐ろしい、彼らは傘を送ることがなく、家に急いだ。何も予告しているようには見えませんでした、必死の旋風が海岸を襲い、その道を一掃しました。波は不気味に満ちていて、馬はヌヤではなく足で床を走りました。海は、きらめく、泡立ち、巨大なカバーで覆われたかのように、雷が鳴り、稲妻が点滅し、ランナーを追い越そうに思えました。恐怖からふりそうになったアオディはついに家に帰った。

「そんなことは思わなかった。

通常、嵐は事前に予測することができます。

原子の中に並んで不気味なものがあります。

不安の中、彼らは家の周りに駆け回り、雷は静かに鳴り響いた。必死のドージ、すべての障害物を貫通する準備ができています。

それは本当に世界の終わりですか？恐怖に取り乱した AYDI に尋ねると、ガナジは冷静に経を読みました。

暗くなってから雷の音が落ち、風は一晩中続かなかった。多くの祈りで昇天を助ける。

「あまりないし、海に流されるだろう。

申し訳ありませんが、アニでは長い間の暑い潮と火の暑い潮は時間がありません。

「私は何をすべきかわからない」とガナジは言った。

誰もが眠りに落ちた。ゴンジはまた、居眠りし、ここに Viaish があります。誰か、理解できない外観があり、言います

「あなたはアベレットに呼ばれている、なぜあなたは減速するのですか？そして、明らかに彼を探して家の周りを歩き始めます。

その後、ガンジは目を覚ました。「それは海のドラゴンの主ではありませんか？

彼は思い、彼の抱擁は恐ろしかったです。「彼は美しいものすべてを愛していると言われ、

私は彼の注意を引きましたか？